

同様に入國當時ヲ以テ定ムヘシ

又同法第三條ニハ非移民間ノ資格變更ヲ許ス明文ナキヲ以テ外國人ハ變更ノ權利ヲ主張スルヲ得ス

抑々議會ハ各種非移民ニ對シ夫々滞在期間ヲ明示セルヲ以テ特定期限ヲ附シテ入國セシメタル者ノ滞在ヲ資格變更ニ依リ無限ニ延長シ移民制限ヲ旨トスル議會ノ目的ヲ行政部ノ一機關ニ依ツテ變更スルコトヲ許スモノト思考スルヲ得ス若シ資格變更可能ナリトセハ日本人海員カ船舶乗組換ノ爲ニ許サルル六十日間ノ滞在期間中ニ輸入商ニ轉セル場合ニ於テモ爾後滞在ヲ許ササル可カラス通過旅行者ニ就キテモ同様ナリ然ラハ一九二四年ノ制限的法律ハ幾多ノ回避手段ヲ有スルモノト云ハサル可カラス

條約商人ノ身分ヲ有スル者ハ即時無期限滞在ノ入國ヲ許サルルヲ以テ資格變更者ニ再入國ノ手續ヲ採ラシムルハ徒ラニ不便ヲ與ヘテ不都合ナリトノ議論アランモ入國ト居住權ヲ入國當時ノ資格ニ依ラシムル根本方針ヲ枉クルヲ得ス

「ダン・フー」訴訟事件ニ於ケル第二區巡回裁判所ノ判決文中「非移民ハ移民歩合ヲ定ムルヲ目的トセル一九二四年移民法ノ目的外ニアリテ非移民間ノ資格變更ヲ妨クルモノニ非ス」ト

ノ意見ニハ贊同スルヲ得ス

勞働省ハ從來右ト反對ノ取扱ヲ爲シタルモ近來此種出願激增セルニ依リ熟慮考究ノ末之ヲ不許可トスルコソ正當ナルノミナラス適法ナリト思考スルニ至レリ

第二節 一九二四年移民法排日條項修正運動

第一、序 說

一九二四年ノ米國移民法制定ニ對シテハ帝國政府ヨリ嚴重ナル抗議ヲ提出シタル外其後「クローリッヂ」大統領ノ共和黨大統領候補受諾演說ニ於テ「一九二四年移民法ハ已ニ結末ヲ告ケタル事件ナリ」ト述ヘタルニ對シテモ「本問題ハ之ヲ以テ國際的ニ終決シタリト思惟スルヲ得サル」旨ヲ米國側ニ通告シ將來ニ互ツテ問題トスルノ意思ヲ闡明シ置クト共ニ帝國議會開會ノ都度外務大臣ノ外交方針演說ニ於テハ常ニ本問題ニ言及シ排日移民法ハ日米間從來ノ親善關係ニ顧ミ甚タ遺憾ニシテ吾人ハ本問題カ兩國國民間ノ諒解増進ニ依リ一日モ速ニ圓滿解決センコトヲ期待ストノ趣旨ヲ述ヘ帝國政府竝ニ國民カ排日移民法ニ依リ受ケタル不快ノ感情ハ決シテ之ヲ忘却スルモノニアラサルコトヲ表明シ來レリ他面本問題ノ是正解決ハ米國法律ノ改正ニ俟ツヘキモノナルニ鑑ミ

専ラ一般米國人ヲシテ日本及日本人ノ真意及立場ヲ了解セシメ漸次米國國論ヲ喚起シ米國側ヲシテ自發的ニ同法ノ修正ヲ圖ラシムルヲ本問題解決ノ要諦トシ只管穩忍自重ノ態度ヲ以テ情勢ニ善處スルニ力ヲ注キ來レリ斯テ米國側ニ於テハ我方ノ冷靜且穩忍ノ態度ト相俟ツテ漸次反省ノ傾向アリ殊ニ最近ニ至リ米國一般ノ對日感情乃至本問題ニ關スル輿論好轉シタルハ事實ニシテ從來ノ親日分子ハ素ヨリ今迄餘リ本問題ニ付理解ヲ有セサリシ者モ漸次好意的考察ヲ加フルニ至リ新聞論調ノ如キモ一般ニ良好ト爲レリ例之

(イ) 市俄古「トリビーン」紙ノ如キハ移民法制定當時有力ナル排日論ノ主唱者ナリシカ一九二七年十一月四日ノ社説ニ於テ從來ノ態度ヲ一變シ日本人ニ對シ入國率ヲ適用スル様移民法ヲ修正スヘシト主張シ爾來數次ニ互リ同様主張ヲ繰返シ其他各方面ノ個人團體又ハ新聞雜誌等ニ於テモ日本人ニモ「クオータ」ヲ許與スヘシトノ主張ヲ爲スモノ尠カラス

(ロ) 一九二九年十月本邦ニ於テ開催セル太平洋問題調查會大會及萬國工業會議ハ日米親善上多大ノ效果アリ殊ニ同會議ニ出席ノ爲來朝セル加州労働聯盟幹事「ポール・シャーレンバーク」(Paul Scharenberg)ハ其後對日態度著シク變化シ日本人ニ「クオータ」ヲ適用スルモ強テ反對セスト内話スルニ至リ尙其他ノ同會議出席者モ歸米後各地ニ於テ大體我方ニ有利ナル意見ヲ講

演ニ或ハ新聞等ニ發表シ故「スペリ」博士及他ノ實業關係者殊ニ桑港商業會議所日米關係委員長「アレキサンダー」(Wallace M. Alexander)等ハ太平洋方面桑港、「シアトル」、「ポートランド」等ノ商業會議所トモ打合せ徐ニ排日移民條項修正ノ運動ヲ起スコトヲ企畫セリ

(ハ) 次ニ行政政府ノ空氣ヲ觀ルニ「フーヴァー」大統領ハ本問題ノ解決ニハ深甚ノ考慮ヲ拂ヒ居ル趣ニテ國務長官「ステイムソン」亦出淵大使竝ニ松平大使ニ對シ本件立法ヲ以テ遺憾ト爲シ出來得レハ其在職中本問題ヲ解決シタシトノ希望ヲ洩シ居リ内務長官「ウキルバー」モ排日立法は正ニ就テハ深ク考慮ヲ拂ヒ居ル旨ヲ洩セリトイフ

第二、日米相互移民禁止條約案

一、「アレキサンダー」ノ條約案提議

一般ノ情勢敍上ノ如クナリシモ移民法修正運動ノ具體化セルハ一九二九年二月初桑港商業會議所日米關係委員長「アレキサンダー」カ在桑港井田總領事ヲ來訪シ「シャーレンバーク」「マクラッチ」等ノ贊同竝ニ加州選出上院議員「ハイラム・ジョンソン」ノ諒解ヲモ得タル所ナリトテ内話セル日米相互移民禁止條約案ノ提議ヲ以テ之カ嚆矢トス

右條約案ノ内容ハ旅行者、實業家、商人、學生、牧師等ノ如キ入國シ得ヘキ者ノ資格ヲ規定シ勞

働移民ノ如キハ相互的ニ入國不可能ノ旨規定セントスルモノニシテ形式ハ對等ナルモ結果ニ於テハ現行移民法ト大體同一ナリ

其後二月十四日ニ至リ井田總領事「アレキサンダー」ヲ往訪シ本件其後ノ經過等尋ネタルニ對シ「アレキサンダー」ハ前記條約問題ハ其後順調ニ進捗シ居リタル處最近東部ニ於テ「ギューリック」博士カ親日的「プロバガンダ」ヲ開始セリトノ情報傳ハリタル爲加州聯合移民委員會(California Joint Immigration Committee)ノ「マクラッチ」(V. S. MacClatchy)一派ハ憤慨シ同運動ノ持續スル間ハ本問題ニ關係シ難キ旨申出タルニ付「アレキサンダー」ニ於テモ一時之ヲ中止スルノ止ムナキニ至レル旨ヲ述ヘタリ

(註) 加州聯合移民委員會(California Joint Immigration Committee)ハ元來加州「アメリカン・リージョン」、加州労働聯盟「ネイティヴ・サンズ・オブ・ザ・ゴールドン・ウエスト」及加州農業者團體ノ四團體代表者並ニ加州檢事總長及幹事「マクラッチ」ヲ以テ組織セラレ居タル處一九二九年美國移民問題ニ關聯シ意見ヲ異ニセル農業者團體カ脫退シ新ニ最近ニ至リ移民問題研究委員會之ニ加盟シ現在左ノ如キ組織トナレリ

委員長 加州「アメリカン・リージョン」司令部副官

「ジェームス・ケイ・フィスク」(James K. Fisk, Dept., Adj., American Legion)

加州労働聯盟幹事兼會計

「ポール・シヤーンマンズ」(Paul Scharrenberg, Sec'y & Treas., Sec'y Federation of Labor)

「ネイティヴ・サンズ・オブ・ザ・ゴールドン・ウエスト」幹事

「ジョン・テイ・シーガン」(John T. Reagan, Grand Sec'y, Native Sons of the Golden West)

加州檢事總長

「ハー・エス・ウェブ」(U. S. Webb, State Attorney-General)

會計 移民問題研究委員會々々

「チャールス・エム・ゲーテ」(Charles M. Goethe, Pres., Immigration Study Commission)

幹事 「ヴィ・エス・マクラッチ」(V. S. MacClatchy)

之等加盟團體ノ實勢力ハ加州「アメリカン・リージョン」團員數六萬四千百十八名(一九三一年八月三十一日現在)加州労働聯盟加入組員數九萬九千四百名(一九三一年九月十七日現在)「ネイティヴ・サンズ」會員數約三萬ナリ而シテ同委員會ノ活動ハ殆ド凡テ「マクラッチ」之ニ當リ宣傳運動ノ費用ノ如キモ大部分同人カ私財ヲ以テ之ニ充テ居ル有様ナリ尤モ歸化不能外國移民ニ對スル「クオート」適用ニ關シテハ必スシモ委員會間ニ完全ナル意見ノ一致アル次第ニハ非ス「シャールンバーグ」ノ如キハ「マクラッチ」一派ノ反對運動ニ合流シ居ラス

二、「マクラッチ」一派ノ反對運動

右「ギューリック」博士カ新ニ運動ヲ開始セリトハ誤報ナリシモ「マクラッチ」一派ハ之ヲ機會ニ移民法修正反對ノ「プロバガンダ」ヲ行ヒ其結果歸化不能外國人ニ「クオート」ヲ認メントスル移民法ノ修正ニ反對ナル旨ノ決議案ヲ加州議會ニ提出シ該決議案ハ加州議會上院通過ノ上三月二十一日下院ヲ通過シ兩院共同決議トシテ合衆國議會ニ送付セラルルニ至レリ

三、日米條約案ニ關スル「ギューリック」博士ト出淵大使ノ意見交換

日米間相互移民禁止條約案ハ右ノ如キ事情ニヨリ一時停頓ノ姿トナリタルカ「ギューリック」博士ハ加州方面ニ於テ斯ル條約案ノ考慮セラレ居ルコトヲ聽込ミ多大ノ興味ヲ感シ四月上旬出淵大使ヲ來訪シ同案ニ付上院方面（例ヘバ「ボラー」）ニ運動ヲ試ミ度キ意嚮ヲ示シ大使ノ所見ヲ尋ネタリ出淵大使ハ一個ノ私見トシテ同條約案ハ名ヲ相互條約ニ藉ルモ其實明カニ一方的ノ條約ニ過キサルコトヲ指摘シ斯ル條約案ハ日本國民ノ満足セサル所ナルヘキノミナラス上院通過ノ望ミモナキコトナレハ矢張り米國側ニ於テ正義公平ノ觀念ヨリ自發的ニ排日條項ヲ修正スルヲ待ツノ外ナカルヘシ尤モ右ハ自分一個ノ感想ヲ腹藏無ク述ヘタルモノニシテ何レ篤ト研究ヲ遂ケ必要ノ場合ニハ政府ノ意嚮ヲモ確メタル上更ニ意見ヲ交換スルコトト致スヘク夫レ迄ハ右條約締結案ニ付何等運動ヲ開始セラレサル様希望スル旨ヲ述ヘタリ

四、領事會議ノ意見

恰モ四月十一日ヨリ華府ニ全米領事會議開催セラレタルヲ機トシ出淵大使ヨリ各領事ニ對シ本件條約案ニ付意見ヲ求メタル處何レモ斯ル姑息ナル方法ニ出ツルヲ以テ不可トシ移民問題ノ解決ハ要スルニ今後凡ユル方法ニヨリ米國ノ國論ヲ啓發シ米國側ヲシテ自發的ニ移民法中排日條項ヲ修

正セシムル方途ヲ講スルノ外無カルヘシトノコトニ意見一致セリ其際大使ヨリ「ギューリック」博士來訪ノ次第竝ニ右條約案ハ結局兩國國民ノ満足ヲ得難シト思考スル旨同博士ニ大使一個ノ意見トシテ申聞ケ置キタル次第ヲ披露シタルニ各領事何レモ之ニ同感ノ意ヲ表シタリ尙出淵大使ハ本件條約問題カ何レ再ヒ擡頭スル場合アルヘキヲ考慮シ又「ギューリック」博士ニ對シテモ確答ヲ與フル必要アルニ付前ノ經緯ヲ詳細本省ニ報告スルト共ニ其訓令ヲ仰キタリ

五、帝國政府ノ態度

五月二十九日「アレキサンダー」出淵大使ヲ來訪シ加州方面對日感情好轉ノ狀況ヲ語り且條約問題ノ失敗ニ歸シタルハ「ギューリック」博士平素ノ行動力累ヲナシタルニ由ルモノナル旨ヲ附言シタルカ大使ハ「アレキサンダー」ニ對シ「ギューリック」博士トノ會談要旨ヲ説明シ右條約案ハ私見トシテハ到底満足ナル結果ヲ得ル見込無カルヘキ旨ヲ告ゲタリ

然ルニ七月六日幣原外務大臣ハ井田總領事ニ對シ「アレキサンダー」ノ新移民條約案ノ内容今少シク詳細承知シ度キ處政府ニ於テ本件ヲ取上ケ詮議中ナリトノ感想ヲ與ヘサル様注意ノ上同氏ニ問合ハスヘシトノ訓令ヲ發セリ

當時「アレキサンダー」ハ歐洲旅行中ナリシカ其歸桑ヲ待チ九月二十四日井田總領事ハ「アレキ

サンダー」ト會見ノ結果(イ)「アレキサンダー」カ華府ニ於テ出淵大使ト會談以來本件ヲ打切りタルコト及(ロ)内容詳細ハ未定ナルカ原則上先ニ報告ノ範圍ヲ出テサルモノナル旨ヲ本省宛報告セリ右(イ)ノ點ニ關シ出淵大使ヨリ井田總領事ニ宛テ「アレキサンダー」ハ曩ニ「マクラッチ」ノ反對ニヨリ本件ヲ中止セリト云ヒ今度出淵大使ト會談以來「ドロップ」セリト云ヒ聊カ諒解シ兼ヌル點アリ或ハ此間事件進捗シツツアリシモノナルヤ其邊ノ事情回報アリ度シト照會シタルニ對シ井田總領事ヨリ「ア」ハ大使ト會見後中止ノ考ヲ一層強クシタリトノ意見ナラント回電セリ

十二月ニ入り出淵大使ハ日本協會大會出席ノ爲紐育ニ赴クコトナリ其際自然「ギョーリック」博士トモ面會ノ機アルヘキヲ以テ本移民條約問題ニ付本省側大體方針ニテモ電報アリ度キ旨電請シ之ニ對シ十二月九日幣原外務大臣ヨリ出淵大使ニ對シ同大使所見ノ通り米國側ニ於ケル自發の修正ノ氣運醸成ト問題解決ノ好機ヲ捉フルノ外無カルヘキ旨電報セリ

第三、一九三〇年五月羅府貿易大會前後ニ於ケル修正運動

一、移民法修正論ノ擡頭

一九二九年秋東京ニ於テ開催セル萬國工業大會及同シク京都ニ於テ開催ノ太平洋問題調查會大會

ニ參列シタル米國有力者ハ歸來各國ニ於テ移民法修正論ヲ唱道セリ蓋シ前記二大會議ノ爲本邦ニ赴キタル米國有力者ノ中ニハ日本文化ノ發達ニ驚嘆スルト共ニ其滯在中受ケタル日本側ノ好遇ニ感激シ歸米後其親シク見聞セル日本文化ヲ紹介シ親日的氣分ヲ鼓吹セルモノ尠カラス其結果自然移民法ニ關シ米人ノ反省ヲ促シ各方面ニ之カ修正ヲ要望スルノ聲高マルニ至レルモノナルヘシ殊ニ各方面ヨリノ情報ハ加州勞働組合ノ有力者ニシテ著名ナル排日論者タル「ポール・シャールンバーグ」カ太平洋問題調查會大會參列ノ爲渡日以來著シク其排日的態度ヲ緩和シ日本ニ對スル「クオート」適用ニモ敢テ異議ナキ模様ナルヲ傳ヘタリ

二、「アレキサンダー」ノ井田總領事ニ對スル談話

右「シャールンバーグ」ノ態度緩和和其他ニ關シ一九三〇年一月十七日「アレキサンダー」ハ在桑港井田總領事ヲ來訪シ左ノ通り内話シタリ

(イ)「シャールンバーグ」ハ澁澤子爵ヲ始メ多數ノ本邦有力者ヨリ豫想外ニ好遇セラレ又日本勞働組合幹部連トモ接觸シタル結果彼ノ日本ニ對スル態度著シク變化シ表面ニハ現ハレ居ラサルモ日本人ヲ他ノ亞細亞人ト區別シ之ニ移民法ノ「クオート」ヲ適用スルヲ可トストノ意見ヲ抱クニ至リ將來本件カ何レカノ方面ニテ提議セララルニ於テハ之ヲ支持スルコトニ内部ノ諒解成リ

居レリ

(ロ)「ハワード」(在紐育「スクリップス・ハワード」系新聞代表者)トハ同船ニテ歸米シタルニ付種々意見ヲ交換セル處同人モ日本人排斥ノ不合理ナルヲ極力強調シ居タルカ「ハワード」ハ東部地方新聞界ニ勢力アル者ナレハ右ハ好都合ナリ

右内話ニ際シ井田總領事ヨリ「アレキサンダー」ニ對シ加州排日家首領トハ個人的ニハ親密ノ交際關係ヲ有シ殊ニ加州聯合移民委員會ノ「マクラッチ」トハ頻繁ニ往復シ居ル處同氏ノ對日態度モ近年著シク緩和シ個人的ニハ親日家ト大差ナキ狀態ナルモ彼ハ其排日政治家トシテノ立場モアリ主義トシテ東洋人ノ區別待遇ヲ嚴重ニ固執シ居ル次第ニシテ假ニ「シャーレンバーク」カ對邦人「クオータ」適用ニ賛成シテモ「マクラッチ」一派竝ニ他ノ多數ノ排日團體カ之ニ追従スヘキヤハ甚タ疑問ナル旨ヲ述ヘタル處「アレキサンダー」モ「マクラッチ」ヲ障害ト認ムトテ同總領事ノ意見ニ同意シタルカ更ニ重ネテ「アレキサンダー」ハ孰レニシテモ本件ハ忍耐シテ適當ノ時機ヲ俟ツ必要アリ又排日家側ヨリ何等カノ意見ヲ提出スル様仕向ケルコト肝要ト考ヘラルルニ付在紐育「ギョーリック」博士ニ暫ク沈黙ヲ守ル様懇談スル筈ナリト附言セリ

三、「ジェローム・デー・グリーン」ノ澤田總領事ニ對スル談話

京都ニ於ケル太平洋問題調査會大會ニ於テ米國側委員長タリシ「ジェローム・デー・グリーン」ハ二月十日在紐育澤田總領事ニ對シ左ノ如ク語レリ

「實ハ京都會議米國側委員長トシテ渡日スルニ先チ當方面ニ於ケル宗教家殊ニ加州ニ於テ常ニ日本ニ好意ヲ抱キ居ル有力者ヨリ京都會議ニハ「ボール・シャーレンバーク」モ出席ノ筈ニ付同會議中適當ノ機會ヲ捉ヘ移民法改正問題ニ關シ同人ト意見ノ交換ヲ遂ケ出來得ヘクンハ同人ヲシテ移民法改正ノ絶對的ニ必要ナル所以ヲ痛感セシムル様說得方懇々依頼ヲ受ケタルコトモアリ旁々同會議出席後ノ「シャーレンバーク」ノ様子ヲ窺ヒ居リタル處其態度豫メ聞知セル處ヨリ異レルモノアリ殊ニ渡日後頗ル變化セルモノアルヤニ聞込ミタルヲ以テ一日同人ト會見本問題ニ關シ懇談ヲ遂ケタリ其際自分ハ假ニ排日條項ヲ包含スル米國現行移民法カ米國ノ法制トシテ完全無缺ノモノナリトスルモ其國際關係ニ及ホス影響面白カラス殊ニ其關係國々民全體ノ感情ヲ損傷スルカ如キコトアルハ其間何等カノ缺陷ヲ有スルモノト云ハサルヘカラス果シテ然ラハ吾々米國人トシテハ何等カ適當ノ方法ヲ講シテ之カ改訂ヲ計ルコト當然ノ希望ニシテ且極メテ肝要ナルコトト確信ス貴見如何アルヘキヤト尋ネタル處「シャーレンバーク」ハ貴說尤モナル次

第ナリ本件ニ付テハ色々ノ經緯アル次第ナルカ之ハ暫ク別トシ自分ハ今回初メテ日本ニ來リ文物制度ノ發展ニ驚キ殊ニ日本ノ勞働運動力長足ノ進歩ヲ遂ケ居ル實情ヲ具ニ視察シ頗ル欣快ニ存シ居ル次第ニシテ本件ニ付テモ爾來切ニ考慮セシメラレ居ル次第ナルカ結局日本人ニ對シテモ他國人ト同様「クオ・オート」制度ヲ適用シ以テ本問題ノ解決ヲ期スルコト最善ノ處置ナルヘシト考ヘ居ル所ナリ依テ及ハス乍ラ歸米後ハ此方針ニ基キ出來得ル限り努力致シ度キ考ヘナリ云々ト答ヘタリ依テ「シャーレンバーグ」ニ對シテハ歸米後ハ是非共右ノ方針ニヨリ盡力セラレタシト申述ヘ京都ニ於ケル同人トノ會談ヲ打切りタリ然ルニ實ノ所「シャーレンバーグ」ヨリ上記ノ如キ意見ヲ聞クハ自分ノ豫想セサリシ所ニシテ頗ル満足ニ存シタルヲ以テ早速右ノ次第ヲ在紐育「ウィッカーシャム」及「ギューリック」博士竝ニ加州方面ノ友人ニ對シ電報スルト共ニ自分カ歸米スル迄ハ本件ニ關シ當方面ニ於テ何等策動スルコトナカルヘキ様從憑シ置キタリ又去ル一月歸紐ノ途次桑港ヲ通過セル際同方面ニ於ケル同志ヨリ「シャーレンバーグ」ニ再會同人歸米後ノ態度ヲ確ムル様依頼アリタルカ偶々右友人等ノ催シニ係ル會合ニ於テ「シャーレンバーグ」ニ再會ノ機會ヲ得タルニ付同人ニ對シ歸米後前記京都會議ニ於ケル談合ニ基キ何等措置セル所アリシヤト尋ネタル處同人ハ「自分ノ決心ハ歸米後ト雖モ何等變ル所ナク現ニ加州選

出上院議員「ハイラム・ジョンソン」ニモ上記自分ノ決心ヲ洩シ置キタル次第ナリ」ト答ヘ居タリ要スルニ「シャーレンバーグ」カ本問題ニ對シ前述ノ通り態度ヲ改變セルコトハ餘リニ善過キル様ニモ考ヘラル、モ右ハ本問題ノ前途ニ對シ光明ヲ與フルモノニシテ欣喜ニ堪ヘサル次第ナリ然シ實際上果シテ同人カ何レノ邊迄盡力スヘキヤハ事件今後ノ推移ニ俟タサルヘカラスト思考シ居ル次第ナリ」

右「グリーン」ノ談話ニ對シ澤田總領事ハ假ニ「シャーレンバーグ」カ上記ノ方針ニ依リ誠意盡力スルトスルモ同人ニシテ果シテ加州方面ニ於ケル排日立法支持者ヲ説得シ以テ本件ノ成功ヲ期セシメ得ル實力アルヘキヤト尋ネタル處「グリーン」ハ其點ニ付テハ明カナル確信ヲ有セスト答ヘ又同氏カ桑港ニ於テ「シャーレンバーグ」ト再會ノ節「シャーレンバーグ」ヨリ其ノ所見ヲ「ジョンソン」ニ披瀝セル際之ニ對シ「ジョンソン」カ何等其ノ意見ヲ開示セルコトノ有無ニ關シテハ何等聞及フコトナカリシカ又特ニ反對ノ態度ヲ示シタル様子アリシトモ聞カス「シャーレンバーグ」ニシテ今後努力ヲ續クルニ於テハ將來本問題ニ關スル四圍ノ事情カ漸次好轉スルニ至ルコトナシトセス旁々目下ノ場合隱忍自重以テ形勢ノ展開ヲ觀望スルノ態度ニ出ツルコト最モ得策ナリト信シ居レリ云々ト述ヘタリ

尙紐育地方ヨリ京都會議出席米國人ヲ加ヘタル紐育「フエデラル・カウンシル・オヴ・チャーチズ」ノ國際親善委員會ハ二月二十日「グリーン」ノ出席ヲ求メ同會合ヲ催スコトナレリ

四、宗教團體ノ修正運動

然レトモ元來排日移民法ノ根源ハ太平洋沿岸ニ在リ從テ之カ修正運動亦其本家本元タル沿岸地方ヨリ起ルニ非サレハ成功覺束ナキコト彼ノ「ギューリック」博士等ノ教會關係者ノ運動カ從來動モスレハ加州方面ノ猛烈ナル反對ヲ招キタル事例ニ徴シ明ナル次第ナルヲ以テ前記「グリーン」トノ會見ニ關シ在紐育澤田總領事ヨリ報告アリタルヲ機會トシ出淵大使ヨリ同總領事ニ對シ排日移民法修正運動ハ加州方面ニ於ケル諒解ヲ基礎トシ東部方面之ニ唱和スルノ形勢ヲ馴致スルコト效果ヲ期スル所以ト思考セラレ從來動モスレハ太平洋沿岸地方ノ反感ヲ挑發シタル紐育方面ニ於ケル宗教團體ノ運動ハ適宜手心ヲ用ヒ暫ク之ヲ差控ヘシムルコト必要ト思料スル旨申送リタリ

依ツテ從來ヨリ移民法修正ヲ主張シ來レル紐育ノ「フエデラル・カウンシル・オヴ・チャーチズ」モ加州方面ニ於テ移民法修正運動ノ具體化セントスル兆候顯著ナルト各方面ノ意見トニ顧ミ暫ク隱忍ノ態度持續ニ決セルカ一九三〇年二月二十五日ヨリ二十七日迄市俄古郊外「エヴァンストン」ニ開催ノ米國新教各派教會及之ト連絡ヲ有スル諸種宗教團體ノ聯合ヨリナル「教會及世界平和ニ關

スル全國委員會」第三回會議ハ移民法修正問題ニ關シ何等新條約ノ締結又ハ「クオート」適用又ハ他ノ協定ニヨリ解決セラルヘキヲ決議セリ

五、前駐支公使「マクマレー」ノ修正意見

「ボルチモア」ノ「ジョンズ・ホプキンス」大學附屬「ダブルユー・エイチ・ページ」國際關係講座主事ニ就任シタル前駐支米國公使「マクマレー」ハ二月二十二日同大學新總長就任式席上排日移民法ニ言及シ大要左ノ如キ演說ヲナシタリ

國際關係ニ於テ國民心理乃至人種的感情ノ尊重スヘキハ論ヲ俟タサル所ニシテ外交ハ常ニ對手國民ノ感情ヲ考慮シテ行ハサルヘカラス一國カ其主權ノ範圍内ニ於テ行動スル場合ニ於テモ往々ニシテ他國民ニ危惧ノ念ヲ與ヘ或ハ其自尊心ヲ毀損スルコトアルヘシ其適例トシテハ排日移民法ヲ舉クルコトヲ得ヘシ何人ト雖モ米國ニ同化セサル移民ノ入國ヲ拒絶スル合衆國ノ權利ヲ疑フモノ無カルヘシ然レトモ排日移民法ノ採用セル方法タルヤ徒ニ日本國民ノ自尊心ヲ傷害シ過去十數年同國カ米國ノ移民政策ニ同情シ協調ヲ客マサリシ事實ヲ無視セルモノニシテ米國議會カスル難問ノ解決ニ際シ協調互助ノ道ヲ辿ラスシテ反感憎惡ヲ助長スルノ舉ニ出テタルハ遺憾ナリ云々

六、「シアトル」商業會議所ノ修正運動

「シアトル」方面ニ於テハ一九三〇年初華州商業會議所副會頭「ドノヴァン」(J. J. Donovan) 本邦訪問ヨリ歸來後聲ヲ大ニシテ移民法ヲ修正シ日本ニ「クオータ」ヲ適用スヘキヲ主張シ居リタルカ同地日本協會ハ豫テ移民法修正運動促進ヲ目論見居リ之カ爲先ツ輿論ノ歸趨ヲ探ル目的ヲ以テ本問題ニ關シ各方面多數ノ有力者ノ意見ヲ徵シタルニ殆ト全部修正賛成ノ回答ヲ得タリ

七、「シアトル」桑港兩商業會議所ノ連絡

四月十日「シアトル」商業會議所外國貿易委員會ハ先ツ最近「シアトル」ノ對日貿易ノ不振ヲ指摘シテ移民法修正及日本ニ「クオータ」適用ノ決議採擇方竝ニ沿岸各商業會議所ヲモ勸說シ聯合ニテ右決議ヲ五月二十一日乃至二十三日羅府ニ開催セラルヘキ全國貿易大會(National Foreign Trade Council)ニ提出方勸獎シタルカ右ハ同商議理事會ノ同意ヲモ得理事會ハ之カ實行方法ヲ講スルコトナリ近ク華府ニ於ケル合衆國商業會議所年次大會ニハ「ドノヴァン」出席シテ移民法修正問題ニ言及スルコトニ決定セリ恰モ四月十一日桑港ヨリ「アレキサンダー」「シアトル」ニ來リ加州方面ニ於ケル修正運動ノ消息ヲ傳ヘ「シアトル」方面モ加州ト連絡ノ上修正運動ニ努力セヨト激勵シ態々「ホキアム」ニ夙ニ親日家トシテ知ラルル「フランク・ラム」(華州商業會議所會

頭)ヲ往訪シテ懇談ヲ遂ケ「ラム」ノ斡旋ニヨリ選舉民有力者ヨリ華州選出下院議員「アルバー・ト・ジョンソン」ニ對シ移民法修正ニ盡力方依頼セシムル等ノ手筈ヲ定メタリ茲ニ於テ「シアトル」商議ハ沿岸主要商議聯合ニテ羅府ニ於ケル貿易大會ニ移民法修正ニ關スル決議案ノ提出ヲ決心シ先ツ四月二十八日ヨリ五月一日迄華府ニ開催ノ合衆國商議年次大會ニ於テ沿岸商議代表者ト協議スルコトト爲シタルカ桑港代表者「リンチ」(Robert Newton Lynch)「アレキサンダー」等ハ修正運動ハ加州ヨリ起スヲ適當トストノ見解ヲ有シ羅府ニ於ケル貿易大會ニ於テ「ドノヴァン」ガ移民法問題ニ言及スルハ押ヘ難キモ決議ヲ爲ス等ノ角立チタル方法ハ差控ヘシメント欲シ結局「シアトル」代表者ト此點ニ付話合ヲツケタルモノノ如シ

八、澤田總領事ト「リンチ」及「フエー」トノ會見

合衆國商議大會前後ニ於ケル在紐育澤田總領事ト加州方面商議關係有力者トノ會見ハ當時ニ於ケル事情ヲ詳ニスルモノトシテ注目スヘキモノナリ

四月二十五日澤田總領事ハ前記大會ニ出席ノ途次桑港ヨリ來紐ノ同地商議副會頭「ロバート・ニュートン・リンチ」及同前會頭「フィリップ・フエー」ト會見セル處兩人ハ移民法改正問題ニ言及シ種々本件ニ關スル各方面ノ空氣ノ好轉シタル事情ヲ述ヘ特ニ最近加州方面ノ對日感情著シク改善

セルコトヲ指摘シ「日本人ニ「クオータ」適用ノ件ハ「シャーレンバーク」ヨリ關係ノ向ニ話回リタル結果加州勞働聯盟ノ連中モ右適用ヲ是認スルノ氣分トナリ居レリ唯本移民問題ハ元來加州ニ其端ヲ發シタルモノニシテ又其ノ利害關係モ大ナルモノアルニ付移民法改正運動ノ如キモ結局加州ヨリ起スヲ最モ適切有效ナリト思考シ居ル次第ナルカ東部地方ニ於テモ從來日本關係ノ米人中事ノ成功ヲ急ク爲ニ動モスレハ加州方面ノ意嚮ニ充分ナル注意ヲ拂ハスシテ何等運動ヲ起サムトスルモノモアルヤニ聞及ヒ居ル處之等ハ決シテ其目的ヲ達スル所以ニアラサルニ付充分東部方面ノ關係者ハ此點ニ關シ細心ノ注意ヲ拂ハンコトヲ希望スル次第ナリ」トテ本問題ニ對スル同人等ノ意嚮隔意ナク述フル所アリタリ

依ツテ澤田總領事ハ「東部方面ニ於テハ從來「フエデラル・カウンシル・オヴ・チャーチズ」其他新敎側ノ者ノ内宗教的見地ヨリ此問題ノ成功ヲ期スヘク話シ合ヒ居ルコトハ聞及ヒ居ルモ「リンチ」「フェー」兩人ノ考ヘ居ルカ如キ事情ハ既ニ相當諒解シ居ルモノト認メラレ現ニ右「フエデラル・カウンシル」ノ如キモ從來通り隱忍自重本問題ノ終局的解決ヲ待ツノ態度ヲ持スル様先般更ニ決議セル由ニモアリ旁々當方面ヨリ差當リ加州方面ヲ出シ抜キ何等具體的ノ運動ヲ起スカ如キコトハ萬アル間敷ト思考スルカ加州以外ノ太平洋沿岸地方ニ於テ沿岸商業會議所方面ノ人物ト共同シ

何等此種運動ヲ起スカ如キ計畫ナキモノナリヤ又アリトセハ之ニ對シ如何ナル考ヲ有セラルルヤ」ト尋ネタルカ之ニ對シ「リンチ」及「フェー」ハ「實ハ「シアトル」商業會議所役員タル「ドノヴァン」カ太平洋沿岸各地商業會議所等ヲ糾合シ來ル五月中旬過キ羅府ニテ開カルヘキ貿易大會ニ出席シ同會ニ於テ移民法修正ニ關スル決議案ヲ通過セシムル趣旨ヲ以テ種々計畫中ナリ自分等トシテモ其趣旨ニハ全然同感ナルカ此際直ニ此問題ヲ表面ニ出シ之カ解決ヲ圖ラムトシテ功ヲ急クカ如キハ却ツテ其目的ヲ損フモノト認メ居ル次第ナルニ付差當リノ所何トカシテ本問題ヲ餘リ角立テサル様仕向ケ度ク幸ヒ華府ニ於ケル商業會議所年次大會ニハ「シアトル」方面ヨリノ代表者モ來ルヘキニ付同總會中之等代表者ト篤ト懇談シ羅府貿易大會ニ於テハ此問題ヲ餘リ角立テシメサル様話合ヲ遂ケタキ積リナリ」ト答ヘタリ

尙其際澤田總領事ハ最近「シャーレンバーク」ヨリ「グリーン」宛ノ書面ニヨレハ「シャーレンバーク」トシテハ移民法改正ニ對スル其ノ所説ハ歸米後ト雖モ何等變ル所ナク其後同志ニモ能ク懇談シ居ル由ナルモ同人若クハ其同僚ヨリ本件ニ關シ「イニシアティヴ」ヲ取ルコトハ頗ル困難ナル事情アリトノコトニテ若シ右運動ヲ他ノ方面ヨリ起ストセハ此上加州勞働聯盟トシテモ之ニ反對スルカ如キコトナカルヘシトノ趣ナルヲ告ケ「グリーン」ノ意見ニ依レハ斯クナリタル以上結

局此問題ハ加州方面ノ本邦關係米人ヨリ「イニシアテイヴ」ヲ取ル様仕向クル外無カルヘシトノコトナルカ自分モ本件解決上加州方面ヨリ活動ヲ始ムルコト適當ナルヘシト信シ又恐ラク各方面ノ關係者モ之ニ同感ナラムト察セラルルカ唯之等ノ者カ本件問題ヲ主トシテ加州方面關係者ノ手ニ委ネタル場合果シテ加州方面ニ於テ將來必ス「イニシアテイヴ」ヲ取り本問題ノ解決ヲ圖リ得ル確信アリヤ否ヤノ點如何ト質シタル處兩人ハ「之等ノ點ニ付テハ固ヨリ加州方面ノ者カ全責任ヲ負フ譯ニモ行カス又加州方面ノ策動ハ最後ノ勝利ヲ博スヘシト今日ヨリ確言スルコトハ困難ナルカ何レ「アレキサンダー」モ商業會議所大會終了後ハ直ニ當地ニ來ル筈ナルニ付其節ハ同人トモ此點ニ付懇談ヲ遂ケラレタシ唯一般ノ大勢ヨリ見テ此ノ問題ニ對スル加州方面ノ空氣ハ頗ル善化サレ自分等ノ所說ニ對スル同情者漸次増加シ居ル次第ナルニ付先ツ差當リノ處加州以外ノ他ノ方面ヨリノ目立チタル運動等ハ之ヲ差控ヘ折角改善シ來レル加州方面ノ空氣ヲ「イリテート」スルコトナキ様希望シ居ル次第ナリ」ト述ヘタリ

九、澤田總領事ト「アレキサンダー」トノ會見

五月三日「ウオーレス・アレキサンダー」華府合衆國商業會議所大會終了後紐育ニ來リ澤田總領事ヲ來訪シ早速此問題ヲ持出シ「兎ニ角各方面大體ノ形勢ハ最近漸次好轉シツツアレハ本問題ノ

解決ニ對シ東部方面ニ於テハ暫ク自制セラレ先ツ本件ト直接ノ利害關係ヲ有スル加州方面ヨリ動キ始ムルコト適當ナリト思考ス」ト語リ尙「今次大會ニハ「シアトル」商議ノ「ドノヴァン」ハ出席セサリシモ「シアトル」方面ヨリノ出席者ト懇談ヲ遂ケタル結果來ルヘキ羅府貿易大會ニ於テハ「ドノヴァン」等計畫ノ如ク何等決議ヲナストカ其他角立チタル處置ヲ採ルコトハ出來得ル限リ差控ヘシムル様大體ノ話合出來現ニ自分ハ「ドノヴァン」カ右會議ニ於テ爲スヘク準備セシ演說ノ内覽ヲ求メラレ其原稿ヲ懷ニシ居ル次第ナルカ當地滞在ニ語調其他ヲ緩和シテ之ヲ送り返ス積リナリ」ト述ヘタリ

仍テ澤田總領事ハ「本問題ノ解決ヲ一切加州有志者ニ委ネタル場合果シテ加州方面ニ於テハ如何ナル方策ニ出テラルル積リナリヤ」ト質シタルニ「アレキサンダー」ハ「現在「シャーレンバーグ」及其一味ノ者ノ考モ最近餘程善化シ居リ今後本運動ニ對シ全然「イニシアテイヴ」ヲ取ルコトナシト思ヒ切ル必要モナカラムト思惟セラルル節モアリ且「グリーン」トモ話シ合ヒタルコトナルカ結局ノ所本年末第七十二議會ノ開會ニ當リ適當ノ時期ヲ見計ヒ加州方面ニ於テ「カソリック」教會ノ大僧正「ハンナ」師 (Archbishop Hanna) ヲ初メトシ各大學ノ教授實業家其他各方面ノ有力者ノ署名セル移民法排日條項修正ニ關スル請願書ヲ作成シテ議會ニ提出シ之ヲ基礎トシ加州方

面選出ノ代議士ヨリ適當ト思ハル立法的處置ヲ採ラシムル様仕組マンカト内々考慮ヲ運ラシ居ル所ナリ」ト云ヘルニ付澤田總領事ハ「斯ル請願書ヲ提出シタル場合之ニ對スル上下兩院ノ移民委員等ノ意嚮ハ如何」ト質シタル處「アレキサンダー」ハ「實ハ今回華府滯在中下院移民委員長「アルバート・ジョンソン」ト面接ノ機會アリタルニ付夫レトナク之カ意嚮ヲ質シタルニ同人ハ之ニ對シ何等ノ反對ヲ表セス却テ之ニ對シテハ相當同情的態度ヲ以テ處置スルラシキ意嚮ヲ洩シ居レリ」ト述ヘタルニ付重ネテ澤田總領事ハ「然ラハ加州上院議員「ハイラム・ジョンソン」ノ意嚮ハ如何ナルヘキヤ」ト問ヒ返シタル處「アレキサンダー」ハ「同人トハ未タ直接會談セルコトナキモ「シャーレンバーグ」ヲ通シテ聞ク所ニ依レハ同上院議員モ今日ニ於テハ最早之ニ反對スル程ノ氣分モアラサルカ如ク唯「マクラッチ」ノミハ如何ニシテモ其謬見ヲ改メス依然反對ノ態度ヲ示シ居ルモ之亦漸次彼ノ周圍ノ者等ノ意見ヲ善導統一セシムルノ方法ヲ採ルニ於テハ遂ニハ彼モ改心スル時機モアルナランカト考ヘ居ル次第ナリ」云々ト述ヘタリ

紐育總領事發大臣宛（五年五月十六日）公信ノ一節

五月九日在紐育澤田總領事ハ重ネテ「アレキサンダー」ニ對シ「先般「ボストン」ニ於ケル元外務省囑託「ジェイ・ビー・ミレット」ヨリ「今般倫敦ニ於テ軍縮協定ノ締結セラレタルコトハ結局日

米間ニ於ケル大問題（移民法改訂問題）ノ解決ヲ保障スルモノニシテ國務長官「スティムソン」及「リード」「ロビンソン」兩上院議員ハ日本ニ「クオータ」適用然ルヘシトノ意見ヲ把持シ居ルモノナリト信スルモ他方西部地方殊ニ桑港ノ友人ヨリノ通信ヲ綜合スルニ「フリーラン」及「マクラッチ」ハ依然トシテ同方針ニ強硬ニ反對ノ意嚮ヲ有スル由ナリ然シ軍縮條約批准ノ上ハ米國ニ於ケル日本ノ友人ヲシテ本件ニ關シ共ニ立ツノ機會到來スルナラント存ス然レ共自分ハ現ニ之等友人カ直クニモ移民法修正問題ヲ提起セントシテ努力シ居レリトノ聞込ニ對シテハ彼等カ今暫クノ間何等ノ行動ヲモ執ラサルコトヲ只管希望スルモノナリ何トナレハ現在加州カ太平洋沿岸貿易擴張ノ重要ナルコトヲ認メ居ルコトハ事實ニシテ現ニ今朝受取リタル加州知事「ヤング」ヨリノ書面中ニモ「太平洋ハ今ヤ世界商業ノ中心トシテ急速ニ發達シツツアルカ故ニ太平洋ニ直面セル加州トシテハ特ニ海外貿易ニ甚大ナル興味ヲ有スルコトハ當然ノコトナリ」ト述ヘ居レ共一九二四年移民法ヲ改訂セントスル運動ハ少クトモ差當リノ所相當強烈ナル反對ヲ受クルヘケレハナリ」トノ趣旨ヲ申來レルコトアリ」ト語リタルニ「アレキサンダー」ハ「加州ニ於テ「フリーラン」及「マクラッチ」カ今猶強硬ナル排日意見ヲ有シ居ルコトハ過日モ御話ノ通ナルカ「シャーレンバーグ」カ自分ニ對シ語リタル所ニ依レハ「マクラッチ」ハ最早加州ノ勞働團體ヲ代表ス

ルモノニアラス依テ先日内話ノ如ク今後トモ同人周圍ノモノヲ説服シテ同人ヨリ離反セシムル様試ミタク現ニ「サクラメント」ノ有力ナル資産家ニシテ從來「マクラッチー」ヲ庇護シ來リタルモノアルカ同人ノ如キ今後漸次「マクラッチー」ニ對スル援助ヲ止メシムル様仕組ミ得ラルルコトト存シ居ル次第ニシテ斯ノ如クニシテ「マクラッチー」モ自然ニ改心セシメタキ考ナルカ「ミレット」ノ云フカ如ク自分等ノ此運動ヲ取急キ輕卒ニ行フトキハ却ツテ強硬ナル反對ヲ招キ其目的ヲ達シ得サルニ至ルノ虞アルヲ以テ差當リ慎重ナル措置ヲ執ルノ要アルコトハ勿論ナリ尙自分ハ加州知事「ヤング」トハ從來親シク本問題ニ付話合フ機會ナカリシモ同人ヨリ「ミレット」ニ宛テタル書面ヨリ察スルニ同知事ハ自分等ノ運動ノ趣旨ニハ異存ナシト思ハルルニ付加州歸來後ハ「シャーレンバーグ」トモ話合ノ上「ヤング」ノ支援ヲモ受クル様努力スヘシ」ト語リタリ澤田總領事ハ「要ハ日本トシテハ之カ圓滿解決ヲ熱望スルハ勿論ナルモ其道程ニ於テハ急カス唯米人同志其他ノ盡力ニヨリ適當ナル時機及方法ニヨリ本件ノ終局的圓滿解決ヲ希望シ居ル次第ニシテ當方面ニ於ケル宗教家團體トシテモ又「グリーン」一派ノ者トシテモ今日ニ於テハ本問題ノ「イニシアティヴ」ハ加州ヨリ起シ貫ヒタシトノ希望ニテ當方面ニ於ケル運動ノ進行ヲ中止シ只管加州方面ノ運動ノ成果ヲ期待シ居ルモノナルニ付適當ノ時機及方法ヲ以テ本件ノ圓滿解決ニ盡

力アリタキ」旨述ヘタル處「アレキサンダー」ハ「實ハ過日モ御内話申上ケタル通り羅府貿易大會ニ於テハ本件ニ關シ一部ノ者ヨリ相當進ミタル方法ニ出テントスル運動有之タル處餘リ功ヲ急クハ却テ事ヲ成就スル所以ニ非サルヲ以テ右ニ對シ自分ハ同志ト相謀リタル上同會議ニ於テハ差當リ之等運動ノ銳鋒ヲ緩和スルニ努力シ形勢上何等カノ方法ニ出テサルヘカラサル必要アル場合ニハ兎ニ角成ルヘク移民法改正ニ關シ角立タル申合ヲ爲ス程度ニ止メ決議等形式張リタル言葉ヲ避ケ徐ニ有利ナル形勢ノ展開ヲ待ツ様ニシタク考ヘ居レリ」ト述ヘタリ

十、羅府ニ於ケル全米貿易大會

四月二十一日ヨリ三日間羅府ニ於テ全米貿易大會 (National Foreign Trade Council) 開催各地ヨリ主ナル實業家約二千名參集セリ

二十一日午前ノ會合ニ於テ「ドノヴァン」ハ太平洋問題ニ付演說ヲナシタルカ移民問題ニ關スル部分大要左ノ通

日本ニ於テハ今尙一九二四年米國移民法ヨリ生シタル論議カ終結セリトハ思考シ居ラス日本人カ同法ニ反對スルハ日本移民ノ杜絶ノ爲ニアラスシテ日本人ヲ他ノ文明諸國民ヨリ差別シ且劣等視シタル點ニアリ本問題ハ最早存在セスト主張スルモノアレ共右反對ハ目下示威運動等ニ現

ハレサルモ實ハ却ツテ以前ヨリモ根強キモノトナリ其結果ハ貿易ニ影響セリ木材輸出減少ノ如キモ其原因ノ一ハ移民法ニ對スル日本人間ノ不滿ニ歸スルモノト思考ス移民法修正ハ貿易上必要ニシテ日本軍備ニ對スル脅威ヲ感スルカ爲ニ非ス我等ハ「ペルリ」提督時代ノ古キ純真ナル友好關係ニ復センコトヲ欲ス太平洋沿岸ニ於ケル主要商業會議所ハ協同シテ米國議會ニ對シ人種の偏見ヲ除却シ以テ友好平和ノ爲ニ此正義的行動ヲ執ラレンコトヲ要求ス人種の意識及國家的矜持ハ各所ニ於テ諸種ノ方法ニ依ツテ表現セラル米國ハ今ヤ各國移民ノ流入所ニアラス益々移民制限ノ城壁ヲ高クシタリ然レ共本制限ハ果シテ正義公正ノモノナリヤ否ヤ云々

右演說終ルヤ約二千ノ聽衆ハ拍手喝采シテ數分間休マサリキ議長ハ右「ドノヴァン」ノ提唱ニ對シ深甚ノ考慮ヲ加フヘシト述ヘタリ

最初羅府ニ於ケル大會ニ於テハ移民法修正問題ニ關シ餘リ角立チタル態度ニ出テサル様豫メ「ドノヴァン」ノ右演說草稿モ「アレキサンダー」ニ於テ緩和セシメタル由ノ處「ドノヴァン」カ愈々右演說ヲ爲スヤ之ニ贊意ヲ表スルモノ多ク遂ニ桑港側モ其空氣ニ釣込マレ結局同會議ハ「ジョン」ノ聲明（後掲出）ト時ヲ同ウシ五月二十三日「フアイナル・デクラレーション」ニ於テ移民法ニ關シ「全國貿易大會ハ國際貿易ヲ永續發展セシムヘキ唯一ノ基礎ハ國家間ノ正義公平ニアリ

國際間ノ親善ハ友誼ト諒解ニヨリテノミ維持シ得ヘキモノナルヲ認メ此見地ニ基キ現行移民法ノ修正ヲ極力支持ス」トノ趣旨ノ決議ヲナシ尙各地商業會議所代表者間ニ右決議トハ別個ニ夫々排日移民法修正ニ關スル決議ヲ爲シタル上之ヲ米國議會ニ提出スルコトニ協議纏マリタル趣ナリ

十一、金子總領事代理ト「アレキサンダー」トノ會見
五月二十七日在桑港金子總領事代理「アレキサンダー」ト會見ノ際移民問題ニ關シ「アレキサンダー」ハ左ノ通内話セリ

(一) 羅府貿易大會ニ於テ「マクラッチ」ハ各地代表ニ執拗ニ附纏ヒ排日意見書ヲ配布シタルモ殆ト相手ニセラレス結局移民法修正問題ハ順調ニ進行シ會議ハ修正賛成ノ決議ヲ通過セルカ之トハ別ニ各地商業會議所代表ハ排日移民法修正決議ヲ別個ニ決議シ之ヲ米國議會ニ提出スルコトニ取極メ「シアトル」及「ポートランド」兩商議ハ既ニ各々既決ノ決議ヲ其儘提出スヘク羅府商議ハ直ニ決議ヲ爲スコトナリ桑港商議モ之ヲ來週理事會ニ附議スル筈ナリ

(二) 加州聯合移民委員會中「マクラッチ」ノミ強情ナルモ自分等ハ漸次彼ヲ孤立セシムルコトニ努メ檢事總長「ウエッグ」「シャーレンバード」其他「アメリカン・リージョン」「ネイティヴ・サンズ」等ノ幹部ニ對シテハ既ニ手ヲ廻シ又ハ其段取ヲ決メ居リ將又加州選出上院議員「シヨート

リヂ」(Samuel Shortridge)ハ大統領派ナレハ殆ト問題ナク同上院議員「ハイラム・ジョンソン」トテモ當方ノ言分ヲ聞ク様極力説得スヘシ

(三) 華州選出下院議員「アルバート・ジョンソン」モ背後ノ有力者ヲ通シ内々諒解ヲ遂クヘク努力中ナルカ彼ハ垣原前大使ノ演說ニ引摺ラレテ稍躁急ニ進ミ過キタル觀アルモ斯克ナリタル以上同志ハ結束シテ進ムヨリ外ナカラン(後掲出「ジョンソン」聲明ノ條參照)

(四) 「ハースト」ヨリモ大體ノ諒解ヲ取付ケアル次第ナレハ同系諸新聞ハ今次ノ問題等ニ付餘リ書立テサル筈ナリ

十二、移民法修正勸告決議

既述「シアトル」「ポートルランド」等ノ例ニ倣ヒ五月二十九日羅府商業會議所モ移民法ヲ改正シ日本ヲ他ノ主要外國ト同様歩合ノ基礎ニ置クヘシトノ決議ヲ通過セリ

次テ六月五日桑港商議理事會ニ於テモ歸化不能外國人ヲモ歩合國民ト同等ノ基礎ニ於テ入米セシムル様移民法ヲ改正スヘシトノ決議ヲ通過セルカ用語妥當ニシテ從來各地商業會議所ノ決議ニ比シ最モ明確且具體的ニ意見ヲ表示シ居レリ

That the San Francisco Chamber of Commerce recognizes the fundamental fact that the

only enduring basis for world trade is founded upon the principle of justice and fair play between nations and that international good-will can only be maintained through the development of friendship and mutual understanding. In accordance with the principles above enumerated, the San Francisco Chamber of Commerce favors strongly a revision of the Immigration Act of 1924, to the end that immigrants from those countries whose nationals are not eligible to citizenship in the United States may be admitted to the United States on the same basis as now enjoyed by the so-called quota nations.

以上ヲ綜合觀察スルニ一九二四年移民法排日條項ヲ修正セサルヘカラストハ太平洋沿岸各主要都市商業關係者ノ關スル限り一致ノ意見ニシテ且之カ實現ヲ期スル爲具體的運動ヲ進メツツアリ但シ「マクラッチー」一派ハ依然頑強ニ反對シ労働團體側ニ於テハ「オレゴン」「ワシントン」兩州ニ於テハ大ニ反對氣勢ヲ舉クル模様ナキモ加州ノ狀況判然タラス加州労働組合ノ關スル限り他ヨリ修正運動起リタル場合之ニ反對セストノ諒解首領株ノ間ニ出來タル模様ナルモ其他ニモ有力ナル諸種ノ團體アリ未タ其ノ態度ヲ明ニシ居ラサル次第ナリ

第四、「アルバート・ジョンソン」ノ聲明ト其反響

一、「ジョンソン」ノ聲明

排日移民法ヲ中心トスル米國各方面ノ對日感情著シク好轉シ排日移民法修正ノ氣運ハ漸ク其一步ヲ進メ來リタルノ感アリタル折柄一九三〇年五月二十三日東京ニ於テ日米協會主催ノ「キャッスル」駐日米國大使ノ送別會席上前駐米大使埴原正直カ米國ノ排日移民法ヲ修正シ以テ日米友誼ノ復活ヲ期スルノ必要ナルヲ端的ニ訴ヘ其旨聯合通信ニ依テ米國ニ傳ヘラルルヤ下院移民委員長「アルバート・ジョンソン」ハ直ニ同日「移民法ノ或部分カ整理セラレタル後適當ノ時期ニ於テ予ハ一九二四年ノ移民法ニ對スル一ノ修正案ヲ提議シ日本ニモ一定ノ移民割當ヲ許與スル樣盡力スル積ナリ斯クスルコトニ依リ一九二四年ノ移民法ニ關聯シテ生シタル日米兩國間ノ惡感情ヲ一掃スヘク予ハ兩院共右修正案ヲ承認スヘシト思考ス」トノ趣旨ノ聲明ヲ新聞記者ニ發表シタリ右聲明原文トモ認メ得ヘキモノハ大要左ノ如シ

In due time, after certain immigration legislation has been disposed of, I expect to move for amendment to the 1924 act that will give Japan its proportionate quota.

This would end the feeling that has existed in connection with that phase of the 1924 act.

I am of the opinion that the House and Senate will accept the amendment.

二、「ジョンソン」聲明ノ動機

右「ジョンソン」ノ聲明ナルモノハ實ハ何人ニモ豫期セラレサリシコトナルノミナラス之ヲ發表

スルニ至リタル真相今以テ判明セサルモ諸方面ノ情報ヲ綜合スルニ「ジョンソン」ハ近年其選舉區中「タコマ」地方ニ於テハ相當不人氣ナル模様ニシテ曩ニ前述沙市日本協會カ排日移民法修正ニ關シ桑港商議ノ「アレキサンダー」等ト意見交換ノ結果「ジョンソン」ノ一地盤タル「グレー・ス・ハーバー」(本邦向米材輸出地トシテ近年本邦ト特ニ密接ノ經濟的利害關係ヲ有ス)ニ於ケル木材業者ノ勢力ヲ利用シ「ジョンソン」ヲ説得スルコト及其實行ニ付テハ州商業會議所會頭ニシテ「ジョンソン」ノ根據地タル「ホキアム」在住ノ有力者「フランク・ラム」等ヲ介スルコト最モ有效ナルコト等ヲ申合セタル由ニテ前記「ラム」ヨリ「ジョンソン」ニハ充分懇談シ又「ホキアム」地方有力選舉民ヨリ「ジョンソン」宛ニ排日移民法修正ニ盡力方依頼ノ書面モ發シタリト察セラルル節アリ或ハ「ジョンソン」モ之等選舉區有力者側ヨリ申入レヲ受ケタル爲移民法修正ノ意嚮ヲ發表スル必要ヲ認メ其機會ヲ求メ居リタル折柄偶々埴原前大使ノ演說アリ之ヲ好機トシ右聲明ヲナシタルニ非サヤトモ觀測セラルル現ニ「ジョンソン」ハ往訪ノ新聞記者ニ對シ一兩年來日本ヲ訪問シタル米人有力者ハ何レモ移民法改正ノ必要ヲ説キ居リ殊ニ華州ニ於テハ「ドノヴァン」「グリップス」「ラム」等ノ有力者ヨリ熱心勸説ノ次第モアリ自分モ豫テ本問題ヲ考慮シ意見表示ノ時期ヲ俟チ居リタル處偶々埴原前大使演說ノ通信ヲ見急ニ「ステートメント」ヲ發シタル次第

ニシテ未タ具體案ヲ有スル譯ニ非スト語レリ蓋シ如上「ジョンソン」ノ選舉區地方ニ於ケル情勢ノ變化ニモ顧ミ此機會ニ一石ヲ投シ暫ク周圍ノ反響ヲ探ラントスルモノナルヤニ察セラレタリ

三、「ジョンソン」提案ノ内容

「ジョンソン」提案ノ内容タルヤ新聞記者ニ説明セル通り未タ具體案ヲ有セサル結果外間ヨリ其真意ヲ捕捉シ難キハ勿論ナルモ紐育「タイムズ」ハ「ジョンソン」提案ノ「クオート」ハ移民法ノ他ノ條項ノ下ニ歸化シ得ヘキモノニ限ラルヘク歸化不能ナル日本人ハ依然排斥セラルコトナルヘシト報シ日本ノ一新聞記者カ(五月二十九日)移民法第十三條トノ關係ヲ如何ニナサントスルヤト突込ミタル質問ヲ爲セルニ對シ同條歸化不能外人ハ入國セシメサルノ原則ハ之ヲ動カスコトナク例外トシテ例ヘハ第四條(a)ノ場合ノ如ク米國生ノ日系青年カ日本人ノ女子ト結婚シタル場合ニハ現行法ノ下ニテハ妻トシテ入國ヲ許サレサル不便アル處此種ノ問題ヲ研究スレハ略自分ノ考慮シ居ル所モ思ヒ當ルヘク「クオート」ノ限度迄ハ如何ナル日本人ニモ入國ヲ許スノ趣旨ニ非ス又以上ハ他ノ東洋人ニモ適用セシムル所存ナリト述ヘ更ニ日本人ニ歸化權ヲ與フル趣旨ニ非サルコトヲモ明言シタリ尙「ジョンソン」ハ友人ノ質問ニ對シ華府「スター」紙ノ「フレデリッ

ク・ダブルユー・ワイル」ニ對スル同人ノ談話(五月二十七日同紙所載)ハ同人目下ノ考ヲ盡シ居レリト答ヘタル趣ナルカ右通信ハ左ノ通

日本人ニ對スル往年ノ反感ハ下層階級ノ間ニ於テハ全ク消失シタルニハ非サルヘキモ有識者階級ノ間ニ於テハ殆ト其影ヲ潛メ彼等ハ一般ニ自分ノ今回爲サント欲スル所ハ夙ニ爲スヘカリシ所ナリト思考シ居レリ右ハ一九二四年移民法通過ノ際ニ爲シ得ヘカリシ所ナルモ事態特ニ上院ノ形勢ハ今日周知ノ事情ニ依リ急轉直下シ之ヲ爲スノ違ナカリシモノアリ日本ハ現ニ百名ノ「ノミナル・クオート」ヲ有ス「クオート」ノ特權ヲ與フレハ現行「ナショナル・オリヂン」ノ條項ニ基キ百九十名乃至二百名トナルヘシ日本ニ「クオート」ヲ與フルモ我移民政策ノ骨子タル根本方針ヲ覆スコトトハナラサルヘキヲ確信ス吾人ハ從來ノ障壁ヲ撤去シ不同化ノ見地ヨリ望マシカラサル外人ト認メラルルモノヲ入國セシメント欲スルモノニ非ス

要スルニ「ジョンソン」ハ自己ノ聲明ノ反響意外ニ大ナリシニ顧ミ且又各方面トモ大體何レモ贊成ノ電報ヲ寄セ來レルモ勞働者側ヨリ何等ノ回示無キニ依リ當分明確ナル態度ヲ避ケ一面選舉區ニ於ケル實業家其他有力者ノ改正要求ニ對シテ相當満足ヲ與フル必要ニ迫ラレタルト他面排日分子ノ向背ヲ慮リ首鼠兩端ヲ持スルノ態度ヲ採リタルニ非スヤトモ觀測セラル

四、「ジョンソン」聲明ニ關スル新聞論調

「ジョンソン」ノ聲明ハ會々全米ノ新聞紙ニ移民法修正問題ニ關スル意見表示ノ機會ヲ提供シタルカ如ク加州ニ於ケル「マクラッチー」一派ノ關係スル一二小新聞ヲ除キ全國ノ主要新聞悉ク移民法ヲ修正シ日本ヲ「クオーター」ノ基礎ニ置クコトヲ賛成スルノ意ヲ表セリ

(一) 沿岸諸新聞

加州ニ於テハ桑港「クロニクル」紙賛成論ヲ掲ケタルカ同紙竝ニ「オー克蘭ド・トリビューン」紙ニ沿岸言論界ノ重鎮「チエスター・ローウエル」カ賛成論ヲ掲ケタルハ最も注目ニ値ス

「マクラッチー」ノ機關紙「サクラメント・ビー」紙ハ勿論反對シ「プレスノ・ビー」紙竝ニ「フレズノ・レバブリカン」紙亦反對論ヲ掲ケタリ羅府ニ於ケル最有力ナル新聞「ロス・アンゼルス・タイムス」紙ハ大ニ修正論ヲ鼓吹シ同地「エキスプレス」紙亦「チエスター・ローウエル」ノ贊成論ヲ掲載セリ羅府ニ於ケル「ハースト」系新聞ハ沈黙ヲ守レリ

華州ニ於テハ「シアトル」ニ於テ最モ有力ナル「シアトル・タイムス」紙ヲ始メ「ホキアム・ワシントニアン」紙「エヴェレット・ニュース」紙「オリンピック」紙「ロングヴュー・ニュース」紙「ワラワラ・デーリー・ビュレティン」紙等一般ニ贊意ヲ表シ特ニ反對シタルモノナシ「ハースト」

系新聞紙ハ沈黙セリ

「オレゴン」州ニ於テハ特ニ論評セルモノナカリシカ如シ

(二) 其他各地ノ新聞

東部ノ諸新聞ハ大體ニ於テ「ジョンソン」提案ヲ好感ヲ以テ迎フルニ一致シ其採擇セラル可キヲ論シ居レルカ華府「スター」紙華府「ポスト」紙「ボルチモア・サン」紙等ハ何レモ現ニ多數移民ノ渡米ヲ憂フヘキ根據無キ際日本ニ對スル差別的待遇ヲ撤廢シ以テ日本國民ニ對スル公平友誼ノ態度ヲ示スヘシトナシ費府「バブリック・レジャー」紙ハ所謂「ジョンソン」案ナルモノカ依然トシテ歸化不能者ヲ除外スルモノナルコトヲ指摘シ然モ尙且此案カ日本ニ對シ和解的「ジェスチュア」タルヲ失ハサルヘシト結ヒ紐育「タイムス」紙ハ本案ノ採擇ハ歡迎スヘキモ取扱ヲ誤リ地方的又ハ黨派的理由ニ依リ不成立ニ終ルカ如キコトアラハ折角改善セラレタル排日氣勢ヲ挫折シ惹テハ古瘡ヲ再開スルノ虞アルヘシト警告的語調ヲ洩セリ

尙在「テキサス」州「ヒューストン」市「ヒューストン・ポスト・デイスパッチ」紙ハ本案ノ機宜ヲ得タルモノナルヲ論シタル後日本國民ノ自尊心ヲ傷クルカ如キ處置ハ改正スヘキモノナリト結ヘリ

五、「マクラッチー」一派ノ態度

「マクラッチー」ハ本件聲明ニ對シ東洋人ニ關スル移民法ノ修正ニハ從來通り反對ノ立場ヲ繼續スヘキ旨ヲ聲明シ在桑港帝國領事ト會談ノ際「ジョンソン」ノ聲明ヲ意外トシ前顯ノ趣旨ヲ繰返シ歸化不能外國人排斥カ不公平ナリトセハ日本人ニ付テハ歸化可能ナラシムヘク歸化法ヲ修正スルニ如カスト述ヘ自分一個トシテハ加州聯合移民委員會ノ一使用人ナレハ該委員會ノ方針變更ヲ見サル限り之ニ從フノ外無シト附言セリ

以上ノ外格別排日分子側ノ反響ヲ見サル處桑港「ユー・ビー」通信社ハ其後調査ノ結果トシテ概要左記通信ヲ各新聞社ニ供給シタルモ之ヲ掲載シタルモノ無シトイフ

近年加州ハ日本人ニ對シ極メテ寛大トナリタルモ傳統的排斥觀念依然トシテ現存シ「クオータ」ニ日本人ヲ置カントスル如何ナル提案ニモ反對ス然レトモ「ジョンソン」ノ聲明ハ何等興奮材料トナラス寧ロ靜肅ニ右ニ反對スヘシト迎ヘラレタリ労働聯盟「アメリカン・リージョン」及農業組合各部竝ニ「マクラッチー」ハ依然トシテ反對ノ意見ヲ有ス加州ニ於ケル唯一ノ移民法改正運動ハ比島人ヲ日本人ト同様歸化不能外國人ノ部ニ入レ入國ヲ禁止セントスルニアリ云々

六、宗教諸團體ノ決議

「ジョンソン」ノ聲明ハ沿岸ニ於ケル教會關係者ニモ發言ノ機會ヲ與ヘ六月十五日加州「メソヂスト」教會年會ニ於テ日本ニ「クオータ」ヲ割當テ在米日本人妻子呼寄ニ優先權ヲ與フヘシトノ決議ヲ見次テ六月三十日「ロング・ビーチ」ニ開催ノ南加「メソヂスト」年會亦同趣旨ノ決議ヲ爲シ「バサデナ」ノ三宗教團體モ亦「ジョンソン」ニ對シ排日條項撤廢提案ニ賛意ヲ表スルノ決議ヲ通過シタリ

七、「ジョンソン」聲明ト現行移民法排日條項トノ關係

(一) 前述ノ如ク移民法修正ニ關スル「ジョンソン」腹案ノ内容ハ目下ノ處何等判然セス(或ハ同人自身モ適確ナル腹案ナシトモ察セラル)尤モ今日迄ニ得タル各方面ノ情報ヲ綜合スレハ同人ハ(イ)移民法第十三條(c)項即チ歸化不能外國人ハ入國セシメストノ原則ハ之ヲ變更セス左レハトテ(ロ)日本人ニ歸化權ヲ與ヘントスルモノニモアラス只一例トシテ(ハ)第四條(a)ノ場合即チ米國在住日系市民ノ日本人タル妻子ノ如キモノノ入國ヲ認メトスルモノナルヤト考ヘラルル處元來日本人カ入國不能ナルハ前掲移民法中ノ排斥條項即チ第十三條(c)項ニ於テ合衆國市民トナルコトヲ得サル外國人ハ特定ノ場合ヲ除キ合衆國ニ入國スルコトヲ得ストノ趣旨ノ規定アルカ爲ナルヲ以テ若シ日本人ノ入國ヲ可能ナラシメントスレハ同規定ヲ削除又ハ修正セサルヘカラサ

ル次第ナルカ「ジョンソン」ハ右規定ハ其儘トナサントスルモノナリ尤モ右規定ハ之ヲ其儘トスルモ他方歸化法ヲ改正シ日本人ヲ歸化可能トスルニ於テハ之ニ依リテモ亦日本人ハ入國可能トナル譯ナルモ「ジョンソン」ハ斯ル改正ヲ爲サムトスルモノニモアラス從テ結局「ジョンソン」ノ考慮シ居ル所ト考ヘラルルハ例ヘハ現行法ノ下ニ於テハ第四條ニ規定セラルル(イ)再渡航者(ロ)布教師大學教授等竝ニ之等ノモノノ妻子及(ハ)學生ニ該當スル非歩合移民ハ第三條ニ規定セラレタル(イ)官吏(ロ)一時旅行者(ハ)通過者(ニ)商人等非移民ト共ニ右第十三條(ロ)項ヨリ除外セラレ居ルモ第四條(a)項該當者ハ除外セラレ居ラス從テ右(a)項ニ該當スル日本人即チ合衆國出生日系市民ノ妻子ノ如キハ入國シ得サルヲ以テ此點ヲ修正シテ右(a)項ヲ第十三條(ロ)項ノ除外規定中ニ加ヘ以テ此種日本人ノ入國ヲ可能ナラシメムトスルニ過キサルモノノ如シ

(二)「ジョンソン」ノ修正案ニシテ果シテ前述ノ如キ範圍ヲ出テサルモノトスレハ右ハ日本人ニ「クオート」ヲ適用スルコトトハナラス即チ前述ノ通り既ニ現行法ノ下ニ於テ非移民及特定ノ非歩合移民排斥條項ヨリ除外セラレ入國可能ナル次第ナルヲ以テ「ジョンソン」案ノ如ク單ニ右除外セラルヘキ非歩合移民ノ範圍ヲ幾分擴張シタリトテ之ニ依リ排斥條項ノ根本趣旨カ變更セラルル義ニアラス勿論斯ル程度ノ修正モ之ヲ爲ササルニハ勝リ之ニ依リ入國可能日本人ノ範圍

廣マリ殊ニ從來問題トナリ居レル日系市民ノ結婚難ノ如キハ多少緩和セラルヘキ次第ナルモ元來我方ノ米國移民法ニ對スル反對ハ單ニ日本人カ同法ニ依リ入國ヲ禁止乃至制限セラルルカ爲ニアラス右禁止乃至制限ニ當リ日本人ヲ歐洲人ト區別シ之ニ差別待遇ヲ爲シタル點ニアリ從テ若シ右我方主張ニ適合スル様移民法ヲ修正セムトセハ(歸化法ノ改正問題ハ暫ク措キ)同法第十三條(c)項即チ排斥條項ヲ全然削除スルカ或ハ同條項ニ一種ノ細工ヲ加ヘテ日本人ヲ除外スル様之ヲ修正セサルヘカラサル次第ナリ(尙右排斥條項ノ削除乃至修正ニ伴ヒ其關係條項タル第十一條(d)項ノ如キモ適當變更スル要アルヘシ)尤モ右ハ外國移民ヲ「クオート」ニ依リ制限セムトスル米國移民法現在ノ立前ヲ前提トシテノ議論ナルヲ以テ若シ右移民法ノ修正ニ當リ米國側カ右建前ヲ排シ移民制限ニ付「クオート」制ヲ採用セサルコトスルカ如キ場合ハ多少右トハ異ナル考察ヲナス要アルヘシ

而シテ今假ニ右ノ如キ修正カ實現シタル場合日本人ニ許與セラルヘキ「クオート」數ハ現行「ナシヨナル・オリヂン」條項タル移民法第十一條(b)項ニヨリ約百八十五名トナルヘシ

第五、移民法修正ニ關スル出淵大使ト「マクラッチ」トノ意見交換

一九三〇年五月十二日在米出淵大使ハ太平洋沿岸各地旅行ノ途次在桑港金子總領事代理ノ橋渡ニ

テ同地「フェアモント・ホテル」ニ於テ「マクラッチ」ト會見シ約一時間ニ互リ排日移民法修正問題ニ付意見ヲ交換シタリ

其際「マクラッチ」ハ出淵大使ニ對シ

(一) 一九二四年ノ移民法ニ對シテハ日本側ニ於テ盛ニ不平ノ聲起リ尙米國側ニ於テモ之ヲ不當ナリトスル聲相當高キモ同移民法通過後日米兩國ノ關係著シク良好トナリ加州方面ノ如キ排日運動其跡ヲ絶チタルノ事實ハ之ヲ認メサルヘカラス

(二) 日本國ニ於テ國籍法ヲ改正シ米國ニ於テ生レタル日本人ヲシテ日本國籍ヲ離脱セシムルノ途ヲ開キタルハ極メテ賢明ナル政策ニシテ吾人ハ右國籍法改正ニ依リ頗ル安心スルニ至レリ近時日米兩國ノ關係著シク改善セラレタルハ右改正ニ負フ所尠カラサルヘシ

(三) 米國在留日本人ノ勤勉ニシテ且又法律尊重ノ念強キコトハ日本人ノ犯罪數ノ割合少キコトニヨリ充分之ヲ認ムルコトヲ得

(四) 日本人ノ素質良キコトハ充分之ヲ認ムルニ躊躇セサルモ他面日本人ハ頗ル利巧ニシテ割安ニ善キ土地ヲ手ニ入レ其利益ヲ壟斷スル嫌アリ「バイオニアリング」ニ於テハ餘リ貢獻シ居ラサルモノト認ム

(五) 根本問題トシテ白人種ノ國タル米國ノ領土内ニ於テ異人種タル而モ同化ノ望無キ日本人カ勢力ヲ擴張スルコトハ吾人ノ絶對ニ好マサル所ナリ云々ト述ヘタリ

右ニ對シ出淵大使ハ

(一) 近年日米關係著シク好轉シタル事實ハ充分之ヲ認ムル所ナルカ今回太平洋沿岸各地ヲ旅行シ到ル所ニ於テ同胞ニ面會スル都度異口同音ニ其居住スル地方ニ於ケル日米人ノ關係他ノ地方ニ比シ更ニ良好ナリト云フカ如キ聲ヲ耳ニシ大イニ愉快トセシ所ナリ去リ乍ラ此良好ナル空氣ハ各種ノ政治的經濟的原因ヨリ生シタルモノニシテ單ニ移民法通過ノ賜物ナリトナスカ如キ說ニハ容易ニ贊同スルヲ得ス

(一) 往時ニ於テハ太平洋沿岸各地ニ多數ノ日本勞働者居住シ勞働競爭其他ノ關係ヨリシテ動モスレハ問題ヲ起シタル事實アルモ今日ニ於テハ之等勞働者ハ追々小企業家又ハ小資本家ニ化シ各自其業務ニ精勵スルト共ニ其活動地ノ「コムミュニティ」ノ一員トシテ飽ク迄協力シ且結局ハ加州ニ骨ヲ埋メントスルモノ尠カラサルハ事實ニシテ從ツテ此點ヨリシテ日米人ノ關係往時ニ比シ著シク改善シツツアル事實ハ之ヲ看過シ得ヘキニ非ス

(三) 日本人ハ「バイオニアリング」ニ貢獻スルコト尠シトノ說ハ甚タ意外トスル所ナリ加州方面

ノ廣漠タル廣野カ日本人ノ努力ニ依リ沃野ニ變シタル事實ハ到ル所歷然タルモノアリ例之當初豆ノ耕作ノ外利用シ得サルモノト看做サレタル土地ヲ日本人ニ於テ之ヲ開拓シ立派ナル「レタス」ノ畑トナシタル如キ例枚舉ニ遑アラヌ日本人ヲ以テ只利巧ニ立廻ル人種トナスカ如キハ甚タ當ラサル所ナリ

(四) 米國人中ニハ日本人ニ「クオータ」ヲ許ス場合之ヲ機會ニ再ヒ日本勞働者入り込ムヘシト怖ルル向尠カラサルカ如キモ自分ノ見ル所ニテハ日本ハ最早米國人ノ氣心ヲ良ク承知シ居リ其好マサル所ノ勞働者ヲ米國ニ送り出スカ如キ方策ヲ採ラサルヘシト確信ス但シ在留同胞ニシテ其ノ妻子ヲ日本ニ殘留セシメタル者又ハ獨身者ニシテ歸國ノ上結婚シ其新妻ト共ニ再ヒ渡米セントスル者又ハ日本人ノ店舗等ニ必要ナル「クオータ」ノ如キ者ハ素ヨリ何等カノ方法ニ依リ入國ノ途拓カレンコトヲ希望スル次第ナリ

ト答ヘタルニ之ニ對シ「マクラッチー」ハ

(一) 日本人ノ店舗ニ於テ使用スヘキ「クオータ」ノ如キハ其男女ノ如何ヲ問ハス短期間ノ約束ニテ入國セシムル事固ヨリ異存無キモ日本ニ殘留スル家族ヲ呼寄せ乃至ハ新ニ日本ニ於テ結婚シ其妻ヲ連レ來ル問題ハ同化シ得サル人間ノ入國ナル根本主義ニ觸ルルモノニシテ遺憾ナラ絶對

ニ同意スルヲ得ス

(二) 日本人ニ「クオータ」ヲ許スコトハ之モ根本主義ニ關スル問題ニシテ假令新入國者一人ノ場合ニモ主義上絶對ニ同意シ難シ兎ニ角自分ハ白人ト同化ノ望無キ異人種ノ入國スルコトニ付テハ飽ク迄反對スルノ強固ナル決心ヲ有シ居ルカ爲此點ニ付テハ妥協困難ナリ殊ニ日本人ニ「クオータ」ヲ許ス場合ニハ支那人印度人ノ如キ他ノ東洋人ニ對シテモ同様ノ待遇ヲ與ヘサルヘカラサル關係ヲモ考慮セサルヘカラス

ト應酬シタルニ付出淵大使ヨリ異人種云々ト云ハルル以上第二世ヲモ排斥スル考ナリヤト質問セル處之ニ對シ「マクラッチー」ハ

第二世モ日本人種タル以上同化力素ヨリ不充分ナルモノト認ムルモ彼等ハ已ニ米國ノ領域内ニ於テ出生シ米國ノ學校ニ於テ教育ヲ受ケ善良ナル市民トナリタル以上今更之ヲ排斥シ得ヘキ理由ヲ發見シ得サルヘシ要スルニ彼等カ米國ニ出生シタルコトハ彼等ノ責任ニ非サルヲ以テ吾人ハ彼等ヲ吾人ノ子孫同様米國ノ市民トシテ取扱ヒ決シテ之ヲ排斥スルカ如キコトヲ爲ササルヘシ但シ前ニモ述ヘタル通り同化シ得サル人間ハ既往ノ分ハ致方無シトシ將來一人ニテモ入國セシムルコトニハ飽ク迄反對ノ外無シ

ト熱心ニ主張シタルニ付之ニ對シ出淵大使ハ重ネテ

日本人ヲ以テ同化不能ノ異人種ナリトスルノ議論ハ到底承服スルヲ得サルモ兎ニ角貴君カ自己ノ責任ニ依ラスシテ米國ニ生レタル二世ニ付テハ絶對ニ排斥スル意志無シトノ說ヲ有セラルルヲ聞キ充分之ヲ諒トスルモノナリ尙日本人ヲ以テ同化不能ト認メラルル前提ヨリシテ商店ノ「クラーク」等ノ一時入國ニハ異存無キモ新ニ内地ヨリ家族ヲ呼寄スルコトニ反對ストノ意見竝ニ一人ニテモ新ナル移民ノ渡米ニハ反對ストノ議論ハ議論トシテノ筋途ハ一貫スル様認メラルモ右ハ要スルニ主義上ノ問題ニシテ之以上議論スルモ詮無カルヘキニ付切ニ貴君ノ再考ヲ求メ次ニ自分ハ他ノ「アングル」ヨリシテ一應所見ヲ述フルコトトスヘシ

近年太平洋沿岸殊ニ加州ノ發展ハ驚クヘキモノアル所右ハ氣候溫和天然資源ノ豊富ナル事實ニ歸著スヘキモ同時ニ米國ト東洋諸國殊ニ日本トノ經濟關係ノ發展及加州在住日本人多年ノ經濟的努力ニ基ク所尠カラサルヘシ換言スレハ日本人トノ協調ニ依リ今後日米間ノ經濟的關係益々増進シ太平洋沿岸各地就中加州ハ益々發展スヘク然モ支那ナル無限ノ市場ニ眼ヲ注ク場合日米ノ提携ニ依リ米國ノ利益シ得ヘキコト實ニ大ナルモノアルニ想到セスンハアラス米國ハ日本及日本人トノ提携ニ依リ斯クノ如キ利益ヲ享ケ乍ラ其國民ヲ以テ同化不能ノ異人種ナリトテ排斥

セントスルカ如キハ甚タ不當ト認メラルルカ貴君ハ其懷抱セラルル所謂主義ノ問題ト米國就中加州ノ利益ノ問題トヲ如何ニ調和セシムル考ナリヤ

ト述ヘタル所之ニ對シ「マクラッチー」ハ

貴大使ノ大局論ハ誠ニ克ク諒解シ自分ノ參考ニ資スヘキ點頗ル大ナルモノアリト考ヘラルルモ日本人ニ「クオーター」ヲ許ス問題ニ至ツテハ只今ノ處絶對ニ不同意ナリト申上ル外無シ

ト語リタルニ付出淵大使ヨリ本日貴君ト會合シ兩者ノ意見直ニ合致スヘシトハ素ヨリ期待シ居リタル所ニ非ス何レ新任若杉總領事著任スヘキニ付同總領事トモ隔意ナク意見ヲ交換セラレ度ク自分トシテハ本日貴君ト親シク膝ヲ突キ合セ意見ヲ交換シタルコトハ愉快トスルモノナルニ付今後モ斯ル機會有ランコトヲ希望スト述ヘタルニ「マクラッチー」ハ本日緩々大使ト懇談ノ機會ヲ得タルハ自分ノ大イニ満足スル所ニシテ本日ノ會談ニ依リ自分ハ未タ自分ノ主義ヲ改メ得ヘキ程度ニハ達セサルモ段々大使ノ御話ヲ伺ヒ日米双方ノ意嚮追々接近シツツアルモノナリトノ感想ヲ得ルニ至レリトテ慰懃ニ挨拶シ引取リタリ

尙當日「アメリカン・リージョン」代表者モ立會ヒタルカ一言モ發スルコトナク唯大使ト「マクラッチー」トノ會談ヲ熱心ニ傍聽シタルニ過キサリキ

第六、其後ノ修正運動ト排日派ノ態度

一、幣原外務大臣ト「キヤッスル」大使トノ會談

五月二十五日在本邦米國大使「キヤッスル」離任ノ挨拶旁々幣原外務大臣ヲ來訪シ自ラ進ンテ移民法問題ニ言及シ同移民法ノ不公正ナルコトヲ謂ヒ本問題ニ對シテハ米國各方面ニ於テ漸次理解シ來リ居ルヲ以テ聽テ満足ナル解決ヲ見ルヘシト思考セラルル處筋肉労働者 (manual labour) ヲ除キタル日本人ニ對シ白人國ノ者ト同等ノ取扱ヲ與フヘシトノ說アルカスル筋合ノ解決ナレハ今日ト雖モ解決ノ途アルヘシト述ヘタルニ對シ幣原大臣ハ白人國ノ筋肉労働者ハ米國入國ヲ許容セラレ我ニハ之ヲ許可セストセハ之差別待遇ナルヲ以テ不可ナリト應シタル處「キヤッスル」大使モ之ヲ肯定シ移民問題解決ノ機運ハ漸次熟シツツアルモ兎ニ角周到ノ用意ヲ以テ徐々ニ之ニ臨ム必要アル旨竝ニ「キヤッスル」大使ハ「フリーヴァー」大統領カ重要政策問題ニ付自己ヲ補佐センコトヲ希望シ居ルヲ以テ華府ニ於テ東京在勤中得タル日本ニ關スル智識ヲ以テ「フリーヴァー」大統領ノ政策ヲ日本ノ爲有利ニ導キ得ヘキヲ確信シ居ルカ如キ口吻ヲ洩シタリ

二、「ホノルル」商業會議所ノ決議

六月十二日「ホノルル」商議モ其理事會ニ於テ移民法修正ニ關スル「ジョンソン」聲明ニ關聯シ

日本ニモ「クオータ」ヲ與フヘシトノ趣旨ノ決議ヲ爲シタリ

三、各地商議代表者ノ協議

七月一日桑港商議ニ於テ「シアトル」、「タコマ」、「オークランド」、羅府、桑港ノ各商議、華州及加州商議代表 («ポートランド」商議代表ハ缺席セルモ書面ニテ修正運動賛成ノ意ヲ表ス) 會合ノ上協議會ヲ催シタル結果右各商議代表ヨリ成ル一委員會ヲ設ケテ「アレキサンダー」ヲ委員長トシ沿岸各地ノ行動情報ヲ統一スルコトニ定メ今日ヨリ本年度總選舉ニ至ル迄修正運動ノ氣勢ヲ助長スルニ努ムルト共ニ一切ノ「バブリシティー」ヲ避ケ反對派ノ反動ヲ防キ全局ノ形勢ヲ察シ具體的行動ニ出ツルノ時機ヲ見定メタル上各地同時ニ行動ヲ開始スルコトニ申合セタリ

四、若杉總領事ト「アレキサンダー」トノ會見

七月初在桑港若杉總領事ハ修正問題ニ付「アレキサンダー」ト數次會見セルカ其際「アレキサンダー」ハ「ジョンソン」ノ聲明當初ハ一九三〇年冬期議會ニハ愈々修正案ノ提出迄ニ漕キ付ケ得ルモノト樂觀シ居リタルモ「マクラッチ」労働聯盟「アメリカン・リージョン」支部ノ態度變更セス本年議會ノ問題トスルハ尙早ナルヤノ感ヲ懷クニ至リ本件カ難問題タルヲ自覺セリト告白シ尙日本ヨリ労働者ヲ入レストノ言質ヲ得ハ労働團體ノ反對ヲ緩和スルニ便ナリト認メラルモ此

點ニ關スル貴見如何ト質シタルニ對シ若杉總領事ハ此際條件又ハ言質ヲ與ヘテ修正ヲ希望スル義理合モ必要モナシ米國側ニ於テ自國法ノ不正ヲ是正スルヲ待ツノ外ナシトノ趣旨ヲ答ヘタリ

五、「アメリカン・リージョン」加州支部大會

八月十八日ヨリ二十日迄「サクラメント」ニ開催ノ「アメリカン・リージョン」加州支部大會ニ日本ニ歩合適用ノ運動ニ反對ノ決議ヲ通過セシメント策動シタルモ「アレキサンダー」ノ斡旋ニヨリ握潰サレタリ

六、「シャーレンバーグ」ノ態度

「シャーレンバーグ」ハ渡日後著シク態度ヲ緩和シ「アレキサンダー」「ジェローム・グリーン」等ニ對シ修正運動カ他方面ヨリ起リタル場合敢テ反對セスト言ヒ又「アレキサンダー」ノ傳フル所ニ依レハ「シャーレンバーグ」奔走ノ結果勞働聯盟首領株モ大體日本ニ「クオータ」適用ニ異議ナキコトニ纏マリタル趣ナルコト既述ノ通ナルモ其後六月始メ「ポートランド」ニ於テ勞働聯盟集合ニ於テ演說シタル際ニハ日本人ノ入國ニ反對ノ意味ヲ述ヘ居レリ又其後桑港ニ於テ前田多門ト意見交換ノ際「シャーレンバーグ」ハ前田ニ對シ同人ハ過般京都ニ於ケル太平洋問題調查會大會ニ出席以來日本ヲ善ク了解シ本邦側ノ主張ヲ尤ナリト認メ同人一個トシテハ修正運動ニ賛成

スルモ可ナルカ何分ニモ其ノ主宰スル加州勞働聯盟會員ノ意嚮ハ勿論誤解ニ基クニハ相違ナキモ移民法修正セラルレハ日本ハ更ニ勞働者ヲ送り進ンテ土地法及歸化法等ノ改正ヲ求ムルニ至ルヘシトノ考ヲ抱キ剩ヘ加州方面ニテハ目下比島人勞働者ノ處置ニ窮シ居ル矢先ニモアリ同聯盟トシテ移民法ノ修正ニ賛同シ一旦得タル成果ヲ覆スコトハ甚タ困難ナリトノ意ヲ洩セリ

七、行政的措置ニヨル移民數ノ減少

一九三〇年九月初旬米國ニ於ケル失業狀態ニ鑑ミ各國ヨリノ移民ヲ出來得ル限り制限スヘシトノ大統領ノ要求ニ基キ國務省ハ在外各領事ニ對シ入米後公共ノ負擔トナルヘキ虞アル移民ニ對シテハ査證スヘカラストノ移民法ノ條項ヲ嚴重ニ適用スヘキ旨訓令ヲ發シタリ前記政府ノ處置ハ米國勞働聯盟ノ要求ニヨルモノナリト傳ヘラルル處同聯盟首領「グリーン」ノ聲明ニ依レハ來ル秋冬ノ候ニ互リ失業狀態改善スルニ至ル迄ノ間ハ各國ヨリノ移民ヲ歩合移民タルト否トニ拘ラス全然禁止スルヲ以テ同聯盟ノ方策トスル趣ナリ國務長官代理「コットン」ノ大統領ニ提出シタル報告ニ依レハ現行移民法中國内ニ於ケル失業狀態ニ依リ移民ノ渡米ヲ伸縮シ得ヘキ唯一ノ條項ハ「公共負擔條項」ナルカ現ニ之カ適用ニヨリ墨國移民ノ過去一ケ年間入米數ハ前五ケ年間ノ平均一年入米數ニ比シ八八「パーセント」減少シ加奈陀移民モ如上行政的處理ニヨリ最近著シク減少シタル

由ナリ

八、「マクラッチー」ノ講演

九月八日「マクラッチー」ハ「オークランド」市「キワニス」俱樂部ニ於テ移民問題ニ關シ講演ヲ爲シ比島移民ノ入國ハ高級ナル市民ノ生活程度ヲ低下スルコトナリ米國ノ安全ニ重大ナル脅威ヲ與フルモノナリ米國ハ自國ノ利害關係ノミニヨリ入國移民ヲ取締ルコトヲ必要トシ苟モ外國ノ要求ニ追従スルコトアルヘカラス比島移民ハ日本移民ト同様重大問題ニシテ目下比島人ノ在米數六萬ニ達シ尙續々入國シツツアリト述ヘ之カ排斥立法運動ニ關シ去ル四月合衆國議會委員會「ヒヤリング」ニ於ケル同人等ノ提出意見ヲ説明シ彼等ノ排斥ノ要アルコトヲ力説セリ

九、排日運動ニ關スル若杉總領事ノ觀察

九月二十三日在桑港若杉總領事ヨリ太平洋沿岸地方ニ於ケル排日運動狀況ニ關シ比較的纏リタル一般の觀察ヲ報告シ越タルニ付大要左ニ之ヲ收録スヘシ

沿岸各地ノ商議竝ニ東西兩岸日本協會關係側ハ夙ニ移民法修正ニ賛成シ居リ又新聞論調モ今日迄ノ處未タ反對論ヲ揭ケタルモノナク八月二十六日終了ノ加州知事其他ノ豫選ニ際シテモ右問題ハ何等論議ニ上ラス又八月十八日乃至二十日ノ「サクラメント」ニ於ケル加州「アメリカン・

リージョン」大會ニ於テモ比島人排斥決議通過セルニ拘ラス「マクラッチー」一派ノ提出シタル移民法排日條項撤廢反對決議案ハ討議ニ上ラス握リ潰シトナリ又九月十五日ヨリ二十日迄「メリスビル」ニ於ケル加州勞働聯盟大會ニ於テモ何等本問題ニ關スル論議ナク單ニ比島人及墨國人入國排斥決議ヲ見タルニ留リ一方最近排日派巨頭「フィーラン」モ死亡シ又上院議員「ハイラム・ジョンソン」モ軍縮條約反對運動失敗以來頓ニ不評判トナリ現任期滿了後政界引退ノ噂サヘ傳ハル位ニシテ一見反對派ノ氣勢振ハサルノ感アルモ一方多年排日運動ニ從事セル加州檢事總長「ウエップ」ハ今尙現職ニアリ又排日ノ主腦「マクラッチー」ハ依然聯合移民委員會ノ幹事トシテ從來ノ態度ヲ固執シ到底改心ノ望ナク同會委員タル勞働聯盟「アメリカン・リージョン」及「ネイティヴ・サンズ・オブ・ザ・ゴールデン・ウエスト」乃至先年之等ト共ニ移民法通過ニ協力セル農業者團體等カ今後如何ナル程度ニ「マクラッチー」ヲ支持スヘキヤ否ヤ全ク不明ナリ

然ルニ修正運動支持ノ熱心家中ニハ右反對派ノ勢力ヲ精査セスシテ兎ニ角來議會ニ於テ一戰ヲ試ミントスル意見ヲ有スル向モアルモ(イ)各方面未タ反對勢力ノ測定充分ナラス(ロ)提出スヘキ修正案ノ内容ニ付テモ研究足ラス(ハ)法案提出者ノ人選等ニ付テモ定見ナク殊ニ協會關係者及

商議側ノ運動方法頗ル杜撰ニシテ親日家ニ誠意ハアルモ智ト策トニ於テ不充分ナル憾アリ故ニ前記三點ニ對シ充分ノ確信ト成案成ルヲ待タスシテ何等カノ行動ニ出ツルハ冒險ナリト云ハサルヘカラス殊ニ本問題當面ノ先決問題ハ當地方反對勢力ノ精査ニアル處「アレキサンダー」等ニ於テモ夫々努力中ナルモ何分本業ノ片手間ニ行フコトトテ活動充分ナリト云フヘカラス且法律上ノ智識乏シキ爲他日折角ノ提案モ或ハ法律上ノ「テクニク」ニ於テ敗ルルノ虞ナキヲ保セス尙修正案ノ内容ニ付テハ或ハ「アレキサンダー」ノ如ク第十三條(c)項全部削除ヲ主張スルモノモアリ又或ハ一九三〇年六月米國議會ヲ通過セル米國市民ノ支那人タル妻ノ入國ニ關スル「ビンガム」法ノ如ク第十三條(c)項中ニ個別的例外ヲ列舉スルカ又ハ適當ナル一般の例外ヲ規定スルノ方法ニ據ラントスル向モアリ當方ニ於テモ折角研究中ナリ云々

十、「ジョンソン」ノ加州方面觀察

九月下旬「アルバート・ジョンソン」移民法修正問題ニ對スル加州方面ノ意見調査ノ爲桑港ニ來リ商議代表及「マクラッチ」等ト會見意見交換ヲ爲シタル處右ニ關シ「アレキサンダー」カ在桑港若杉總領事ニ語ル處ニ依レハ「ジョンソン」ハ「マクラッチ」カ依然トシテ從來ノ主張ヲ固執セルニ對シ國際關係ヨリ見テ移民法ノ修正ノ時宜ニ適スル旨竝ニ過般來「ジョンソン」カ全國ヨ

リ五千通ノ修正賛成ノ書翰ヲ受取リタルニ拘ラス反對說ヲ申越セルモノ僅カニ、三十通ニ過キサリシ事實ニ依リ本問題ノ大勢ヲ察シ得ル旨力說シタル處「マクラッチ」モ相當感動セル模様アリシ趣ナリ

十一、「フォーブス」大使演說ノ反響

十月一日發行ノ紐育「ヘラルド・トリビューン」紙ハ九月二十六日東京ニ開催ノ日米協會宴會ノ席上ニ於テ新任駐日米國大使「ダブリュー・カメロン・フォーブス」カ移民法ノ改訂問題ニ關シ右ハ米國議會ニヨツテ解決セラルヘキ問題ニシテ米國外交官若ハ米國政府行政部員ノ容喙論議スヘキ問題ニ非ストノ趣旨ノ演說ヲナシタルニ對シ同二十九日ノ東京日日カ右演說ニ對シ不滿ナル意ヲ洩セル旨ヲ報シ其後紐育「タイムス」紙モ外交時報其他ニ同様批評掲載セラレタル旨ヲ報シ右ハ米國東部地方日米關係者ノ話題ニモ上リタル處十月二日ノ夜偶々在紐育澤田總領事カ新ニ「ハンガリー」駐劄公使ニ任命セラレタル前紐育「タイムス」紙論說記者「ニコラス・ルーズヴェルト」(Nicolas Roosevelt)送別ノ小宴ヲ催シタル際列席者中豫テ日米問題ニ興味ヲ有スル紐育「タイムス」紙「ジョン・エイチ・フィンレー」(John H. Finley)、「ボストン・クリスチャン・モニター」紙主幹「ウィリアム・ジー・アボット」(William G. Abbot)及「シローム・ディ・グリーン」等何レモ前

記「フォーブス」ノ演説ニ言及シ異口同音ニ勿論米國ニ於テハ移民法ノ修正問題ハ同大使ノ言説ノ通り議會ノ決定スヘキ事項ニ屬シ差當リ行政部トシテハ何等干涉スヘキ筋合ニ非サルコトト爲シ居ル次第ニ付其所説ハ當方面ヨリ之ヲ見レハ一應尤ナル次第ナルモ目下ノ場合之ヲ其儘卒直ニ日本ノ公衆ニ傳ヘ面白カラサル批評ヲ招クカ如キハ如何ニモ「タクト」ノ無キ仕業ナリト述ヘタリ

尙其際「グリーン」ハ特ニ澤田總領事ニ對シ移民問題ニ關シテハ其後モ引續キ「アレキサンダー」其他太平洋沿岸ノ同志ト書信ノ往復ヲ重ネ居ル旨ヲ述ヘ「アルバート・ジョンソン」カ移民法修正問題ニ關シ各方面ヨリノ支援豫想以上ニ大ナルモノアリタル爲メ之ニ動かサレ居ルモノノ如ク察セラルトテ「ジョンソン」カ全國ヨリ幾千通ノ修正賛成ノ書面ヲ受取りタル等ノ情報ヲ傳ヘ且加州方面労働團體ノ反對ハ依然強硬ナルモ之モ何トカ切崩シ出來サルモノニ非ストモ考ヘラレ要スルニ形勢ハ漸次好轉シ居ルモノト推察セラルルニ付此際外部ヨリ同問題ヲ「イリテート」シ以テ右大勢ノ好轉ヲ少シニテモ妨クルカ如キ言動ハ日米兩國人側ニ於テ一切之ヲ慎ミタキ次第ナリ從テ前記「フォーブス」大使ノ演説ノ如キ誠ニ遺憾ノコトナルカ唯米國側ヨリ見レハ右ハ當然ノコトニテ予ニ御話ノ通り國務次官「コットン」ノ談話ニヨルモ本件ニ付テハ國務省トシテモ慎重考

慮シ居リ行政部トシテ行動スル事カ事ノ成功ヲ期スルニ於テ適當ト認ムル時機ニ至ラハ勿論適當ノ手段ヲ講スヘキモ現在ノ所同問題ハ議會ノ手中ニアリ行政部ヨリ何等指導カマシキ態度ニ出ツルカ如キコトハ最モ慎マサルヘカラストナシ只管時機ノ熟スルヲ待ち居ル趣ニ付「フォーブス」大使ノ演説モコノ氣分ノ反映ナランカ其言廻シ方ニ付テハ何等カ他ノ方法モアリタルナルヘク誠ニ遺憾ノコトナリ兎ニ角前述太平洋沿岸空氣ノ動キ方ヨリ察スルモ本件ハ漸次重要ナル時機ニ入リツツアリト認メラルル此際斯ル事ニテ全般ノ空氣ヲ「イリテート」スルカ如キコトアリテハ誠ニ残念ノコトニ付同大使ノ日本ニ於ケル反響モ此ノ上大ナラサル事ヲ希望ニ堪ヘス云々ト述ヘタリ

十二、「ドノヴァン」ト「ジョンソン」ノ會見

十一月一日在「シアトル」岡本領事ノ報告スル所ニ依レハ「アレキサンダー」カ「ジョンソン」トノ會談ニ依リ得タル觀察ニ付テハ在「シアトル」「ホルデン」及在「ベリングハム」「ドノヴァン」宛「アレキサンダー」ヨリ通報アリタル處「ドノヴァン」ハ十月一日「ジョンソン」カ「ベリングハム」ニ來レル機會ヲ捉ヘ同人ト三時間ニ互リ會談セル結果「ドノヴァン」ハ排日移民法修正ニ付「ジョンソン」ノ誠意アルコトハ確メ得タルモ「ジョンソン」ノ意圖ハ從來ノ移民法ニ代ルヘキ

全然新ナル浩瀚ナル法案ヲ提出セントスルモノニシテ其内ニハ亞細亞人及墨國人ニ關スル規程ヲ包含スルハ勿論又各國ヨリノ移民ハ何故ニ米國ニ移入スルカ又米國側ニテ經濟的ニ其入國ヲ許可スヘキ理由アルヲ證據立ツルコトヲ必要トスル規程等ヲ包含セラルヘキ旨語レルヲ以テ「ドノヴァン」ハ之ニ反對スルト共ニ斯ノ如キ浩瀚ノ新法案提出ハ各方面ヨリ際限ナキ議論ヲ惹起シ之カ通過ヲ見ルコト至難ナルヘク寧ロ一步一步現移民法ヲ修正スル方針ニテ日本ニ「クオータ」適用ヲ提案スヘキ旨ヲ力説シ尙右會見後右趣旨ヲ改メテ書面ニ認メ「ジョンソン」ニ申入レタル趣ナリ

十三、排日運動ト「ジョンソン」ノ地位

若杉總領事ノ報告スル所ニヨレハ十一月四日終結ノ上下兩院議員選舉運動中一二候補推薦演說ニ於テ從來其排日立法ニ貢獻セル功績ヲ述ヘタルモノアリシ外特ニ移民法修正其他本邦關係事項ニ付論議シタルモノナカリシ處移民法修正問題ニ關スル最近迄ノ形勢ニ付「アレキサンダー」及商議側ニ於テ探查シツツアル諜報ヲ綜合スルニ加州各地ノ實業家ハ大體ニ於テ修正運動ニ贊成ニシテ上院議員「ハイラム・ジョンソン」及「ショートリッチ」モ特ニ反對ノ意嚮ナキモノノ如ク又加州聯合移民委員會中「シャーレンバーク」ノ率ユル勞働團體モ修正運動ニ反對セサル消極的態度ヲ執ルコトニ傾キ居タル處「マクラッチ」ノミハ積極的ニ修正反對運動ヲ開始シ頻リニ策動シ其結

果過般加州「アメリカン・リージョン」團長ニ選舉セラレタル「ギーヤハート」ハ猛烈ナル反對意見ヲ有シ其率ユル同團モ比島人竝ニ墨國人入國制限ト同時ニ日本人ニ對スル修正運動ニ反對ノ態度ヲ執ルヘキ旨言明スルニ至レリ「ネイティヴ・サンズ・オヴ・ザ・ゴールデン・ウエスト」モ依然「マクラッチ」ノ主張ニ引摺ラレ居ル狀態ナリ又「マクラッチ」ヨリ「リンチ」ニ宛テタル書面中先般桑港ニ來レル「アルバート・ジョンソン」ハ「マクラッチ」一派ニ對シ歸化不能ノ外國人ヲ入國セシムルカ如キ修正ヲ提案スル意思毛頭ナク議會ニ於テモ亦斯ノ如キ修正ヲ通過セシムル見込ナシト言明セル趣ヲ明記シ居リ「マクラッチ」ハ右ノ言質ニ力ヲ得テ益々反對運動ヲ鼓吹シ居ル有様ナリシヲ以テ「アレキサンダー」ハ「アメリカン・リージョン」及「マクラッチ」ノ態度右ノ如クナル以上結局下院當該委員長タル「アルバート・ジョンソン」ノ態度決定如何ニ依リ具體的運動ニ進ムヤ否ヤヲ決定スルノ外ナシトノ意見ヲ抱クニ至リ他面更ニ加州選出上下兩院議員ニ手ヲ廻シ修正運動贊成方勸誘ニ努力スルコトナレリ

十四、「ジョンソン」ト「シアトル」「タコマ」方面有志トノ會見計畫

十月末「アルバート・ジョンソン」ト「ドノヴァン」ノ「ベリグハム」ニ於ケル會見ト前後シテ「シアトル」及「タコマ」兩商業會議所會頭及「ミッドルトン」(「シアトル」日本協會會長ニシテ

「シアトル」商業會議所外國貿易委員長）「フランク・ラム」（華州商業會議所會頭）等ノ有志家ニ於テモ「アルバート・ジョンソン」ト會見シ排日移民法修正問題ニ關スル彼ノ真意ヲ確カメ充分懇談スル計畫ヲ立テ十一月五日「タコマ」ニ於テ「ジョンソン」ト會見ノ打合セ成立シタル處右會合ノ前々日ニ至リ「ジョンソン」ヨリ突然多忙ヲ理由トシ且之等有志家ト會談スルモ同様ノ論議ヲ繰返スノミニテ何等得ル所ナカルヘク同人ノ主張ハ既ニ世間周知ノ事柄ナリトノ理由ヲ以テ右會合ノ約束ヲ取消シタリ

之ヨリ先右「タコマ」會合ニハ豫メ「ドノヴァン」ニモ出席方勸誘セル處「ドノヴァン」ハ既述ノ通「ジョンソン」ト意見交換濟ナル爲右會合ニハ改メテ參加セサル旨ヲ通知シ來レルカ右「ドノヴァン」書翰ニハ「ドノヴァン」「ジョンソン」會談ノ内容ヲ稍詳細ニ記述セル處右ニヨレハ移民法修正問題ニ付「ジョンソン」ノ行ハントスル所ハ（イ）一九二四年ノ移民法ノ差別待遇ノ結果ニ基ク亞細亞諸國特ニ日本側ノ反感ノ原因ヲ除去スルコト（ロ）世界各國ヨリノ労働者移民ノ入國ヲ更ニ制限シ米國ニ於テ之等労働者ヲ必要トスルコトノ舉證ノ責任ヲ之等移民ニ負ハシムルコトノ二項ヲ實行セムトシ比島人移入及「アメリカ」大陸諸國ヨリノ移民制限ノ問題ヲモ含メテ之ヲ大ナル一議案トシテ近キ將來ニ議會ニ提出セムトスルモノナルカ如ク右ニ對シ「ドノヴァン」ハ

斯クテハ各方面ヨリ際限ナキ論議ヲ惹起シ到底通過ノ見込ナカルヘキニヨリ先ツ第一ニ亞細亞諸國ヲ歐洲大陸諸國ト同様「クオータ」ノ基礎ニ置ク様簡單ナル議案ニ依リ片付クルノ得策ナルヲ提議シ且右ノ如クスルトキハ一九二四年ノ移民法中歸化不能ノ外國人ヲ排斥スル條項及米國ニ入國ヲ許可セサル東洋人ノ居住地域ヲ指定セル地理的區域ニ關スル規定ヲ廢止スルノ外何等現移民法ヲ變更スルノ必要ナカルヘキ旨ヲ力説シ居レリ

以上ノ如キ事情ニ依リ「シアトル」地方有志家ニ於テ「ジョンソン」ノ真意ヲ突止メ排日移民法修正ニ努力スル様極力同人ヲ説得セムトシテ熱心ニ盡力シタルモ結局右「ドノヴァン」ノ會見ニ依リテ事情幾分判明シタル以外特ニ得ル所ナクシテ終レル處右ニ對スル「シアトル」地方有志家ノ感想ハ（イ）「ジョンソン」ハ何分ニモ自己ノ立場ノ安全ヲ第一ニ顧慮セサルヘカラサル政治家ナルヲ以テ専ラ輿論ノ向背ニ氣兼ねシ今猶右顧左眄容易ニ態度ヲ明瞭ニセス何人ニモ的確ナル言質ヲ與ヘ得サル事情ニアルモノト思ハレ殊ニ（ロ）最近米國ニ於テ失業問題盛ニ論議セラレ之カ爲外國ヨリノ移民ヲ出來得ル限り制限セムトスル聲益々高マリツツアル際ニ於テ假令些少ナリト雖モ東洋人ノ入國ヲ許サムトスル案ハ「ジョンソン」ニ於テ之ヲ提出スルニ相當顧慮スル所アルモノト思ハルル旨ノ二點ヲ指摘シテ「シアトル」地方有志家カ「ジョンソン」ノ真意ヲ突止メントシ

テ行ヒタル所ハ既ニ出來得ル丈ケノコトヲ盡シタル次第ニシテ之以上ニ突込ミテ同人ヲ責ムルモ同人ハ到底確タル言質ヲ與フルヲ欲セサルヘク又之カ爲却テ同人ノ感情ヲ刺戟スルコトナル虞モアルニ付此上ハ暫ク今後ノ形勢ヲ注視シ更ニ適當ノ機會ヲ見テ沿岸各地方ノ輿論作興ニ力メ其「ユナイテッド・フロンツ」ニ依リ「ジョンソン」等ヲ鞭撻シテ輿論ノ力ニ依リ排日移民法修正ニ努力セサルヲ得サル様仕向クルコト最上ノ策ナルヘシト云フニ意見一致シタリ

十五、出淵大使ト「キヤッスル」次官補ノ會談

之ヨリ先在米出淵大使ハ倫敦海軍條約批准ノ好機ヲ捉ヘ十月三十日國務長官「スティムソン」ト會見シ今回條約ノ締結ニ依リ軍縮問題首尾ヨク解決ヲ告ケタルニ付此上ハ多年ノ懸案タル移民法問題ヲ解決スルコトヲ得ハ日米國交上甚タ喜フヘキコトナリト思考スルモ本問題ハ議會トノ關係モアリ事頗ル機微ニ屬スルヲ以テ貴長官諒解ノ下ニ先ツ「キヤッスル」次官補トノ間ニ個人的ニ意見ノ交換ヲ行ヒタシト述ヘタル處長官ハ本問題ハ常ニ自分ノ念頭ヲ去ラサル事柄ニシテ之カ解決ノ爲ニハ適當ノ機會ヲ捉ヘ努力スル考ナルニ付素ヨリ大使ト「キヤッスル」トノ會談ハ大ニ賛同スル所ナル旨答ヘタリ依テ十一月三日出淵大使「キヤッスル」ヲ訪問シ長時間ニ互リ懇談ヲ試ミタルカ「キヤッスル」ハ頗ル用心深キ態度ヲ以テ行政部カ本問題ノ取扱ヲ誤ルニ於テハ議會側ノ反感ヲ

挑發シ現在折角良好ニ向ヒツツアル兩國ノ關係ニモ支障ヲ及ホスニ至ルヘキヲ以テ行政部トシテハ素ヨリ表立チテ之ニ關與スルヲ得サルモ自分ハ幸ヒ「リード」「ボラー」「ハイラム・ジョンソン」等ト個人的ニ親シキ交際アルヲ以テ飽迄全力ヲ注キ何等カノ解決ヲ見ル様致度キ考ナリト述ヘタリ其際「キヤッスル」ハ上院議員「リード」ハ本年春松平大使ニ對シ本問題解決ニ付盡力スヘシト語レルコトアリシモ當時同人ハ日本側ヨリ勞働移民ヲ送ラサルヘキ旨ノ諒解ヲ取付ケ得ヘキモノト思惟シ居タル處其後日本側ニ於テ斯ル約束ヲ爲スコトノ到底不可能ナル事情ヲ知リ本問題討議ノ際議會ニ於テ種々ナル議論起ルヘキコト等ヲ憂慮シ始メタルコト竝ニ「キヤッスル」ノ見ル所ニテハ幸ニシテ本件修正案提出ノ形勢トナルトスルモ今期議會ハ所謂短期議會ナル上諸般ノ緊急問題討議セラルヘキ關係上結局一九三〇年十二月開會ノ長期議會ニ上程スル方適當ナラスヤトモ考ヘ居ル旨ヲ洩セリ

然ルニ其後「リード」ハ二ケ年間「クオータ」移民ヲ停止スルノ議案ヲ提出スヘキ意嚮ヲ公表セラルニ付十一月二十八日出淵大使ハ再ヒ「キヤッスル」ヲ往訪シ過日貴官ト會談ノ際「リード」ハ日本側ヨリ勞働移民ヲ送ラストノ諒解ヲ取付ケ得ヘシト考ヘ居リタルモ其不可能ナルヲ知り困却シ居レリトノコトナリシカ同氏ノ目論見居ル移民停止決議案通過スルニ於テハ實際問題トシテ何等諒

解ヲ取付クル迄モナク日本ヨリノ勞働移民ハ一切來ラサルコトナリ米國內ノ一部ニ於テ心配シ居ルカ如キ事態ハ絕對ニ起ラサルヘク從テ右決議案提出ノ機會ヲ以テ「リード」自ラ率先シテ排日條項修正案ヲ提出スルコト適切ナラスヤト述ヘタル處「キヤッスル」ハ右ハ至極尤モノ儀ト考ヘラルルニ付一兩日中ニ篤ト「リード」ニ懇談ヲ試ムルコトスヘシ尤モ「リード」ノ提議セントシツツアル移民停止決議案ハ東部歐洲諸國ニ於テハ問題トセサルヘキモ西部歐洲諸國就中英、佛、獨ノ如ク其國民カ多ク家族ト共ニ米國ニ移住シ居ル諸國ニ於テハ相當不滿アルヘク國務省トシテハ斯ル方法ニ依ルニアラス現ニ國務省ニ於テ實行シ居ル行政的措置ニ依リ事實上新移民ノ渡來ヲ防止スル方法ヲ以テ最モ適當ト考ヘ居レリト語レリ

十六、「デヴィス」ノ修正意見

十二月一日勞働長官「デヴィス」ハ議會ニ送付シタル年報ニ於テ現行移民法ノ缺點ヲ指摘シ之カ改訂ノ必要ニ關シ議會ニ建言シタル處其後「デヴィス」ハ「ペンシルヴァニア」州ヨリ上院議員ニ選出セラレ且「グランディ」上院議員ノ後任トシテ一九三〇年末議會ヨリ上院ニ議席ヲ占ムル關係上議會閉會ト同時ニ勞働長官トシテ建言シタル各事項ニ關シテハ法律制定ニ努力スヘク場合ニヨリ自ラ提案ヲ試ムヘシト傳ヘラレタリ

右建言ノ主要ナル點ハ

(イ) 國內ニ於ケル産業上ノ必要ニ應シ「クオータ」内ニ於テ隨意ニ移民ヲ選擇シ得ル制度ヲ確定スルコト

(ロ) 移民法規ノ統一竝ニ友好諸國ニ對スル不必要ナル差別的規定ノ撤廢
(ハ) 追放規定ノ擴張

ノ三點ニ在リ尙前記第二點ニ關スル説明ニ於テ現ニ歐洲ニ適用シツツアル歩合制度ヲ適宜「アダスト」シ之ヲ東洋移民ニモ適用スルコトノ甚タ望マシキ所以ヲ述フルト共ニ此種立法審議ノ際ニハ移民制限勵行ニ關スル一般原則ノ保存上充分ノ注意ヲ要ストノ趣旨ヲ附言シ居リ但シ其意味明瞭ナラサルモノアリシヲ以テ在米大使館ニ於テハ嘗テ勞働省ニ於テ「デヴィス」ノ祕書ヲ勤メタルコトアル「アーサー・クック」ヲ通シ前記ノ意味ヲ確カメント試ミタル處「クック」ハ右「デヴィス」ノ建言第二點ハ勞働省部内ニ於テ從來自分等ノ主張セル意見ニ基ケルモノニテ「支那人其他ノ東洋人ノミニ關スル差別的法規」トハ即チ

(一) 一八八二年ノ支那人排斥法

(二) 一九一七年移民法第三項「バード・ゾーン」(Barred Zone)ノ規定

(三) 一九二四年移民法第十三條(c)項

等ヲ指セルモノニテ之等ハ一律撤廢スルト共ニ歐洲ニ對シテハ二分西半球ニ對シテハ三分(或ハ五分)東洋ニ對シテハ一分ト云フカ如ク米國トノ民族の關係ニ應シ「クオータ」ハ同一ナラサルモ全世界ニ「クオータ」制度ヲ適用セントスルモノニシテ此種立法ニ當リ移民制限勵行ノ原則維持上注意ヲ要ストノ意味ハ現行米支條約ハ支那人ニ或意味ニ於テ歐洲人ヨリモ多クノ特權ヲ與フル結果トナリ好マシカラサル階級ノ支那人モ多數入米シ居ル狀態ナルニ付新立法ト同時ニ斯ル條約改訂ノ要アルヲ意味スルモノナリト述ヘタリ

十七、「リード」決議案

上院議員「リード」ハ失業對策ノ一方法トシテ十二月二日議會ニ一九三一年七月一日ヨリ向フ二ケ年間各國ヨリノ「クオータ」移民ノ入國ヲ停止スヘキ旨ノ共同決議案ヲ上院ニ提出シタルカ其要點ハ

(イ) 現在米國ニ在住スル者ノ直接ノ家族ヲ除キ一九三一年七月一日以降新來ノ移民ヲ二年間全ク停止スルコト

(ロ) 右ハ何等一九二四年移民法ノ移民政策ニ變更ヲ加ヘ若ハ之カ基礎タル「ナショナル・オリヂン」

ノ原則ヲ弱ムルモノニモ非ス現在ノ「クオータ」ハ現行法上所謂「ノン・クオータ」及「クオータ・ブレフエレンス」ニ屬スル家族ノ入國ヲ依然支配スヘク家族トハ即チ米國市民ノ二十一歳以下ナル未婚ノ子女、夫妻及米國市民ノ兩親ヲ含ム

(ハ) 同期間中比島移民ヲ排斥ス

等ナリ右ニ關シ米國勞働總同盟會長「グリーン」ハ經濟界不況ノ際ニハ相當期間歩合移民ヲ停止スヘキハ吾人ノ從前ヨリノ主張ニシテ二ケ年ノ期間ハ寧ロ短キニ過クトノ意見ヲ述ヘタリ尙「ペンシルヴァニア」州ヨリ上院議員ニ當選セル元勞働長官「デヴィス」モ「リード」案ニ贊意ヲ表シタリ翌三日「アルバート・ジョンソン」ハ右ト同一内容ヲ有シ唯移民停止期間ヲ五ケ年トスル共同決議案ヲ下院ニ提出シタリ

十二月三日在桑港聯合移民委員會ハ上院ニ於ケル「リード」提出ノ二ケ年間移民禁止案支持ノ決議ヲナシ且「リード」ニ對シ多年布哇カ歸化不能外人ヲ入國セシメタル結果現在白人種ハ影ヲ潛メ全人口ノ三分ノ二以上ハ亞細亞人種トナリ且大陸轉航ノ自由ヲ有シ居ルニ鑑ミ同島ヘノ比島移民入國ニ對シ苟クモ除外例ヲ設ケントスルカ如キ提案ニハ極力反對スヘシト打電シタル趣ナリ十八、若杉總領事ト「アレキサンダー」トノ協議

十二月九日ヨリ「ポートランド」ニ於テ開催ノ合衆國商業會議所西部諸州大會ニ出席ノ「アレキサンダー」ニ對シ若杉總領事ハ昨今米國議會ノ形勢ヲ見ルニ失業問題ニ關聯シ移民法改正ニ關スル提案既ニ七件ニ上レルヤノ報道モアリ一方太平洋沿岸ノ形勢ハ大體排日條項撤廢ニ對スル贊成者多ク他方「マクラッチ」一派ニ於テ相當強硬ナル反對論アルモ右ハ從來本問題ト因縁深キ當地方ニ於テ多少反對者アルハ素ヨリ已ムヲ得サル次第ニシテ本問題ニ關シ何等カノ措置ニ出テントセハ必ス若干ノ「リスク」ヲ冒スノ外ナカルヘク而モ之カ爲必スシモ加州方面ニ於ケル對日感情ヲ殊更ニ惡化シ日米國交上ニ影響ヲ及ホスカ如キ事アルヘシトハ想像セラレス若シ現ニ議會ニ提案セラレタリト報セラルル「クオーター」移民ノ停止又ハ撰擇移民制度ノ實現ヲ見ルニ於テハ今後數年間更ニ我方ノ修正案ヲ提案スルノ機會尠カルヘシ依テ我方トシテハ此際若干ノ「リスク」ヲ冒シ豫テノ計畫ヲ斷行スルカ然ラサレハ今後數年間本問題ノ解決ヲ見合スノ外ナキニ至ルヤモ計ラレサルノ形勢ニ迫ラレ居ル旨ヲ説キ大體左ノ如キ措置ニ出テンコトヲ慫慂シタル處「アレキサンダー」モ右趣旨ヲ贊シ「ポートランド」ニ於テ沿岸各地商議代表者トモ協議ノ上左記ノ如ク斷然具體的措置ニ出ツルコトトナレリ

(イ) 速ニ沿岸商議共同決議ヲ爲シ華府關係議員ヘ送付ノコト

(ロ) 右決議ハ單ニ主義ノ表明ニ止マラス具體的ニ日本人ニ歐洲人同等ノ待遇ヲ與フル様移民法修正案ニ付議會ニ對シ請願スル旨ヲ明示スルコト

(ハ) 適當ノ議員ニ右決議實行方ヲ委嘱シ右議員等ト聯絡ヲ保チ華府ニ於ケル「マクラッチ」一派ノ策動ヲ牽制スル爲ニ同地ニ適當ナル代表委員ヲ派遣スルコト而シテ目下加州聯合移民委員會内部ノ意見分裂シ居ル際華府ニ於テ同人カ依然該委員全體ノ意見ヲ代表シ居ルカ如ク振舞ハシメサル様同人ノ立場ヲ極限スルニ努ムルコト

尙十二月五日「アレキサンダー」「ポートランド」ニ出發前若杉總領事ヲ往訪シ大要左ノ通語レリ
十二月四日「シャーレンバーク」予ヲ來訪シ「ポートランド」ニ於テ開催ノ合衆國商議西部大會ニ於テ移民法修正案ヲ可決スル様勸メタルニ依リ予ハ之ヲ以テ勞働側ノ態度ヲトスルニ足ルヘシト喜ヒ其際「マクラッチ」ノ行動等ニ付テモ質問セル處「フィーラン」ヲ失ヒ又勞働側ニ背カレタル「マクラッチ」ハ此際本問題ノ爲ニ先年ノ如キ積極的活動ヲ爲スコト能ハサルヘシト語レリ又予ハ豫テ下院議員「フロレンス・カーン」夫人ト會見ノ際他ニ適當ノ修正案提出者ヲ得サル場合ハ同夫人ニ於テ之ヲ引受クルノ内諾ヲ得タルカ都合ニ依リテハ大統領郷里選舉區ノ下院議員「フリー」ニ依頼スルヤモ計ラレス

十九、會議前ノ打合

十二月八、九日「ポートランド」ニ於テ合衆國商業會議所西部諸州大會開催前「シアトル」方面米人有力者ハ準備打合せ旁々桑港ヨリ來沙セル「リンチ」(Robert Newton Lynch)ヲ加ヘ移民法修正ニ關スル意見ノ交換ヲ爲シタル處席上「リンチ」ヨリ加州ノ狀況ヲ説明シ「アレキサンダー」一派ノ熱心ナル運動ノ結果加州聯合移民委員會内ニ於テモ勞働組合「アメリカン・リージョン」及「ネイティヴ・サンズ」ハ「マクラッチー」ヲ支持セス從テ「マクラッチー」ハ事實上單獨ニテ反對ヲ續ケ居ルコト又「アレキサンダー」ニ於テ加州ニ於ケル有力者百五十名ニ就キ意見ヲ徵シタルニ日本ニ對スル「クオータ」適用ニ反對スル者僅カ十二名ニ過キサリシコト又「アルバート・ジョンソン」カ「マクラッチー」トノ會談ニ際シ日本ニ「クオータ」適用ヲ提議スヘシトノ「ジョンソン」ノ「ステートメント」ヲ覆シタル旨ノ證據文書ヲ披露シ且「クオータ」問題ニ關シテハ「ジョンソン」ニ信賴シ得サルコト等ヲ縷々説明シタル後各自意見ノ開陳アリ華府ヨリ報道セラルル一九三〇年冬期議會提出ノ移民法關係議案ノ提出竝ニ右ニ關スル意見發表等ハ何レモ右ニ依リ一般輿論ノ歸趨ヲ探ラムトスル目的ニ出ツルモノト認メラレサルニ非ストノ觀察ヲ有スモノモアリ且又右今期短期議會ニ於テハ移民停止若ハ制限ニ關スル議案モ到底通過ノ見込ナカルヘク特

別議會開催ノ望モ少キ模様ナレハ今後尙意ヲ輿論ヲ喚起シ終局ノ目的達成ニ努力セサルヘカラスト云フニ意見一致シ列席者「ドノヴァン」(J. J. Donovan)等ヨリ此際「ポートランド」ニ於ケル前記會議ニ於テ日本ニ比率ヲ適用スヘシトノ決議ヲ採用セシメ本件ニ關シ合衆國商業會議所ヲ動カシ其協力ニ依リ修正運動ヲ促進セシムルコト適當ナルヘシト提議シタル結果一同之ニ賛成シ沿岸各商業會議所ノ支持ヲ得タル上ニテ合衆國商業會議所ニ對シ本件比率問題ヲ同會議所移民委員會ニ附託シ且次回合衆國商業會議所大會ノ際ノ重要案件トスル様申入ルコトニ打合せタル趣ナリ右ニ引續キ「リンチ」ハ四日夜「タコマ」ニ於テ同地商業會議所有力者ト會シ同様ノ打合せヲナシタル處熱誠ナル賛成ヲ得タル趣ニテ又「シアトル」商業會議所ハ排日移民法修正決議ヲ十二月二日正式ニ議決シ「タコマ」商議モ之ニ倣フコトナレリ

二十、合衆國商業會議所西部大會

十二月八日合衆國商業會議所西部大會開催參加者約九百名同日午後「アレキサンダー」司會ノ下ニ桑港ノ「リンチ」「カトラー」「フリップ・フレイ」「シアトル」ノ「ヘンズヒル」「ミドルトン」(K. J. Middleton)及「ホールデン」(A. E. Holden)及「タコマ」ノ「ブリッチャード」等(「ポートランド」ヨリ「ハートマン」參加ノ筈ナリシモ都合ニヨリ缺席)排日移民法修正問題ニ關シ

本大會ニ決議案ヲ提出スヘキヤ否ヤニ付打合セノ爲委員會ヲ開キ協議ノ結果目下開會中ノ一九三〇年冬期議會ハ短期ナル上既ニ移民法ニ關シ議案七個モ提出セラレ居ル際更ニ此上排日條項ニ關シ議案ヲ提出スルモ目的ヲ達スル見込少キニ付此際議會ニ對スル積極的行動ハ見合セ一方充分ニ案ヲ練ルト共ニ他方各地方商議ヲシテ順次ニ排日移民法修正ノ決議ヲ爲サシムル等教育的方面ニ力ヲ注クコト但シ上院議員「デヴィス」或ハ場合ニ依リテハ「アルバート・ジョンソン」等ヨリ排日條項廢止ヲ含ム移民法修正案今期議會ニ提出スルヤモ量ラレスル際ニハ先ツ合衆國商議ヲシテ之ニ贊成ヲ決議セシメ全力ヲ盡シテ法案通過ヲ計ルヘシ斯ル臨機ノ處置ヲ確保スル爲「アレキサンダー」ハ休暇明け次第華盛頓ニ出張シ形勢ヲ觀望スルコトニ申合セ右ノ如ク決シタル以上ハ今排日條項撤廢要望ノ決議ヲ爲スハ易々タルモ右決議力或ハ尙早ナル宣傳トナリ徒ニ反對派ニ準備ノ機會ヲ與フルニ過キササルヘキコトヲ避ケンカ爲今同ハ之ヲ見合セ唯「アレキサンダー」ヨリ九日午餐演說ニ於テ熱誠ヲ以テ忌憚無ク心底ヲ吐露シテ排日移民法修正意見ヲ以テ聽衆ニ訴フルコトトナレリ

二十一、蘆野領事ト「リンチ」トノ會見
八日午後蘆野領事「リンチ」ト會見シタルカ其際「リンチ」ニ對シ「アレキサンダー」一派ノ運

動ニヨリ「アメリカン・リージョン」及「ネイティヴ・サンズ」ノ首領等ヲ説得シテ「マクラッチ」ノ聯合移民委員會ニ於ケル立場ヲ孤立セシムルコトニ成功シタリト過日「シアトル」ニ於ケル打合會ニ於テ「アレキサンダー」カ述ヘタルコトニ關シ質問セル處「リンチ」ハ右成功ノ程度ニ關シテハ何分明瞭ニ言ヒ兼ヌル様子ナリシカ兎ニ角右兩者カ今後積極的ニ「マクラッチ」ヲ支持スルコトハ防キ得タリト云ヘリ要スルニ同人及「アレキサンダー」等苦心ノ結果從來ヨリハ多少狀況改善セルモノト認メラレタリ

二十二、「アレキサンダー」ノ演說

十二月九日合衆國商議西部大會午餐會席上ニ於テ「アレキサンダー」ハ「太平洋貿易」ト題シ演說シ排日移民法ニ對スル日本ノ感情ヲ説明シタル後貿易發展ノ基礎トシテ國際親善ノ必要ナルコトヲ強調セル外露國ノ共產主義宣傳ニ言及シ日本ハ東洋ニ於ケル防禦線ナリ他日米國ハ日本ト協同シテ共產主義思想ト戰フ時アルヘシト述ヘテ移民法修正ノ必要ヲ説ケルカ最近米國ニ於テ政治經濟方面ニ關聯シ露國問題カ廣ク一般人ノ頭ニ入り來レル折柄トテ聽衆ニ相當感銘ヲ與ヘタル模様ナリ尙「ヤキマ」商議代表者ニシテ合衆國商議理事タル「ギルバート」ハ同地「アメリカン・リージョン」ニ對シ「アレキサンダー」ノ指摘セル對露關係ヲ理由トシテ移民法修正ニ贊成セシ

ムル様説クヘシト申出テ「ホキアム」ノ「マシアス」ヨリ之ニ倣フヘキ旨申出タル由ナリ

二十三、會後ニ於ケル打合

十二月八日大會後「アレキサンダー」主宰ニテ開催ノ日本移民問題ニ關スル委員會ニ於ケル協議ノ結果ハ豫テ在桑港若杉總領事ト「アレキサンダー」トノ談合ノ結果通トナラサリシニ付蘆野領事ハ九日午後再ヒ移民問題委員會開催ノ期ヲ捉ヘ若杉總領事ト電話ヲ以テ打合ノ結果若杉總領事ノ意見トシテ今期議會ヲ逸スル時ハ或ハ當分我方ノ希望達成ノ機會無キヤモ知レス今各地ノ有力者會同セル機會ニ何等カ積極的行動ヲ策スル様「アレキサンダー」ヲ通シ申入レントシタルニ時既ニ遅ク右委員會散會シ「アレキサンダー」等他ニ赴カントセル際ナリシカ同人ニ右趣旨ヲ傳ヘタルニ傍ニアリシ「リンチ」ト共ニ口ヲ揃ヘテ議會關係ノ機微ナルコト萬一修正案ヲ提出シ失敗セル場合ハ甚タ面白カラサル事態ヲ惹起スヘキコトヲ力説シ慎重ノ上ニモ慎重ナルヲ要スルニ付一切ノ準備ヲ整ヘテ機會ヲ待ツ趣旨ナリト説明シ且「アレキサンダー」ハ内密ナリト斷リテ華府合衆國商議本部ヨリ大會ニ宛目下ハ同案ヲ持出ス時機ニ非ストノ情報アリタリト附加ヘタリ尙其際蘆野領事カ「アレキサンダー」ノ口吻ヨリ受ケタル印象ニ依レハ修正案提出ハ必スシモ來期議會迄待ツト云フ譯ニモナク又必ス來議會ニ提出スト云フ譯ニモ非ス其邊ハ明瞭ナル考ナク

唯暫ク成行ヲ靜觀スルト云フニアルカ如ク又「ホルデン」カ其觀測ナリトテ蘆野領事ニ語ル所ニ依レハ右會合ニ列席ノ委員一同ハ今期議會ニ各種ノ移民制限案提出セラレ居ル處何等カノ方法ニテ一部移民ヲ制限スルニ至ルコトハ有リ得ヘキモ數年間ニ互リ一切ノ移民ヲ停止セントスルカ如キ法案ハ到底通過スヘクモ非ストノ感想ヲ有シ右前提ノ下ニ方針ヲ決シタルモノニシテ萬一斯ル法案ニシテ通過セントスルカ如キ形勢トナラハ之ニ先立チ排日條項修正案ヲ提出スルモ遅カラス之丈ノ準備ハ整ヘ置クコト必要ナリ唯苟モ早マリテ無理ヲ爲スカ如キハ避ケントスル趣旨ナリト云フ

右内部ノ事情ニ關シ更ニ蘆野領事ニ對シ「ボートランド」商議ノ「ダドソン」(Dadson)ノ語レル所ニ依レハ委員會中ノ「ワシントン」「オレゴン」兩州ト加州側トノ間ニ相當意見ノ間隔アリ席上「ドノヴァン」ノ如キ自分ハ「アルバート・ジョンソン」ヲ強制スル確信アリ加州ハ「ハイラム・ジョンソン」ヲ抑付ケ得ルヤト言ヘルニ「アレキサンダー」等ハ明答出來ス加州側委員ハ如何ニモ此際運動ヲ公ニスルコトヲ惧レ居レリ九日午後ノ委員會ノ如キモ「ボートランド」側ハ極力本問題ヲ公開討議ニ付セントシタルモ加州側之ヲ好マス祕密會トナリ本件決議ヲ見合セタルモ同様「アレキサンダー」等ノ憂慮ニ出テタルモノナリト言フ

二十四、「エキザミナー」紙ノ社説

十二月九日桑港「エキザミナー」紙ハ社説欄ニ於テ大要左ノ通論シタリ

(一) 現下國內ニ於ケル騷擾其他總テノ犯罪ハ主トシテ好マシカラサル外國人ト無教育米人トニ依リ犯サレ居ル處之カ排除ヲ期スル爲ニハ好マシカラサル外人ヲ其本國ニ送還スルコト及無教育米人ヲ學校ニ送ルコトヲ緊要事トス

(二) 好マシカラサル外人送還ニ關シテハ最近公表サレタル勞働長官ノ移民年報ニ記載スルカ如ク現行法規ニテハ幾多不備ノ點アリ特ニ一九二九年三月四日制定不正入國者所罰法第三條ハ刑期滿了後ニ非サレハ彼等ヲ送還スルコト能ハサル旨ヲ規定スル爲外人犯罪者ハ日増ニ牢獄ニ滿チ徒ニ市民ノ負擔ヲ増ス計リナリ故ニ此際議會ハ斯ル外人ヲ直ニ送還シ得ル様新法規ヲ急速制定スヘシ云々

二十五、「マクラッチー」ノ演説

十二月十日「マクラッチー」ハ桑港「サンズ・オヴ・ゼ・アメリカン・レヴュ・リビューション」桑港支那主權ノ午餐會ニ於テ「現下ノ緊急移民問題」ト題シ概要左ノ通演説シタリ

(一) 「リード」カ議會ニ提出セル二年間移民停止ニ關スル法案ハ年々四十萬乃至五十萬ニ達シ居

ル移民ノ入國ヲ一時喰止ムルコトナリ失業者救濟對策トシテ妙案ナルモ墨國々境ヨリ入國スル多數密入國者ノ取締ニ關シ何等考慮シ居ラサル點ニ於テ不充分ナリト思考ス近年外人ノ不正入國數ハ一年約十五萬ニ上リ居レルニ對シ内追放サル者僅ニ三萬ニ過キス

(二) 移民問題ニ關スル現下ノ緊急問題ハ比島人及墨國人ノ無制限入國ヲ如何ニ措置スルカニ在リ彼等ハ何レモ市民タルニ適合セス米人生活ノ標準ニ同化セサル經濟的脅威タルモノナルニ付吾人ハ極力彼等ヲ排斥セサルヘカラス目下議會ニ提案中ノ比島人入國禁止ニ關スル「ウエルシュ」法案ノ通過ヲ熱望ス云々

二十六、若杉總領事ト「アレキサンダー」竝ニ「リンチ」トノ會見

十二月十一日在桑港若杉總領事ハ「ボートランド」大會ヨリ歸還セル「アレキサンダー」及「リンチ」ニ對シ同地會合ノ模様ヲ尋ネタル處「アレキサンダー」ハ桑港出發前若杉總領事トノ打合通西部諸州大會ニ於テ本件決議ヲ爲スコトハ同大會ニ本件ト直接關係ヲ有セサル諸州代表者多數出席セルヲ以テ之ヲ避ケ別ニ實際上沿岸各地商議ヲ網羅セル委員會ヲ設ケ本問題ヲ審議スルコトトナリタルカ九日開催ノ同委員會ニ於ケル空氣ハ此際若杉總領事慫慂ノ具體案ノ如キ積極的活動ヲ決議シ得ル迄ニ熟シ居ラストナスニ傾キ殊ニ「シアトル」代表「ヘンブヒル」ハ此際極メテ慎

重ノ態度ヲ要スル旨ヲ主張シタルカ爲同案即時實行ノ不可能ヲ覺リ遂ニ之ヲ採擇セス「ミッドルトン」ノ提議ニ依リ速ニ各地商議ヲシテ移民法修正ノ決議ヲナサシムルコトヲ決議シ一方西北部代表トシテ「ホルデン」ヲシテ「アルバート・ジョンソン」ノ選舉區其他各方面ヨリ説得シ同人ヲシテ更ニ排日條項修正運動ニ盡力セシムル様極力運動セシムルコトニ決シ議會方面ノ形勢ヲ充分研究ノ上臨機積極の行動ニ出ツルノ全權ハ「アレキサンダー」ニ一任スルコトニ決定シタル旨語レリ

尙「アレキサンダー」ハ自ラ益々責任ノ重大ヲ感シ此際極力議會方面ノ情報ヲ取纏メ其判斷ニ依リ修正案通過ノ見込確實ナルヲ待テ具體的措置ニ出ツル覺悟ニテ現ニ昨日「リンチ」ノ名ニ於テ華府某方面ニ對シ關係議員等ノ意嚮及議會ノ形勢速報方ヲ依頼スルト共ニ明日「シャーレンバーク」ヲシテ「ハイラム・ジョンソン」ノ意見ヲ問合サシメ且「カーン」議員ニモ形勢調査方依頼シ置ケルニ付來週末迄ニハ相當ノ狀況判明スヘシト述ヘタリ

次ニ若杉總領事ハ十二月八日開催ノ日本移民問題委員會ニ於テ目下ノ議會ニ排日條項ニ關スル議案ヲ提出スルモ目的ヲ達スル見込少キニ付此際議會ニ對スル積極的行動ハ見合セ寧ロ教育の方面ニ力ヲ注クコトニ申合セタルヤノ報道ニ付確メタル處兩人ハ大會ニ決議案ヲ提出スル意嚮ナキ

ハ「アレキサンダー」當初ヨリノ豫定ニシテ右打合會ニ於テハ別ニ排日條項修正案ニ對スル申込ニ付意見ヲ表示シタルモノモナク唯出來得ル丈慎重ニ諸般ノ情勢ヲ確メタル上行動スルヲ可トシ大會ニ於テハ何等決議ヲ爲ササルコトヲ申合セタルニ過キスシテ此際議會ニ於ケル積極的行動ヲ全然見合セタル次第ニアラサリシコトハ現ニ「アレキサンダー」ニ臨機ノ措置ノ全權ヲ委任シ且多忙ナル「アレキサンダー」カ華府ニ出張スルコトニ決心シ居ルニ徴スルモ明カナリト述ヘ又九日委員會後「アレキサンダー」及「リンチ」カ蘆野領事ニ答ヘタル趣旨モ單ニ萬一失敗ノ場合ヲ慮リ慎重ニ行動スル旨ヲ説明シタル迄ナリト語リタリ

尙若杉總領事ハ重ネテ「オレゴン」及「ワシントン」兩州方面ニ於テハ加州側ノ態度餘リ慎重ニ過クトテ稍々悲觀的印象ヲ與ヘ居ルヤニ聞キ及ヒ居ル旨語リタルニ對シ兩人ハ華州側ハ「アルバート・ジョンソン」ノ曖昧ナル態度ニ當惑シ居リ「オレゴン」州ハ進テ責任ヲ執ル丈ノ意嚮モナク結局本運動ハ加州側殊ニ桑港カ實行ノ任ニ當ルノ外ナキ以上其責任ノ重大ナルニ鑑ミ慎重ニモ慎重ナル態度ヲ採ルヘキハ當然ニシテ本問題ヲ公開討議ニ付セントスルカ如キ「ポートランド」側ノ意見ハ本問題解決ニ何等貢獻スルモノト信セラレス要スルニ戰略上ノ見解ノ差異ニ基クモノニシテ致シ方ナキ次第ナリト語レリ

「アレキサンダー」カ成ルヘク一九三〇年冬期議會ニ於テ本問題ヲ解決スル爲百方苦慮シ居ル次第ハ敍上ノ通ナルモ(イ)「アルバート・ジョンソン」カ今以テ態度ヲ晦マシ居ル爲沿岸全局ノ移民法修正運動ヲ非常ニ失望セシメタルコト(ロ)失業問題ノ爲我方提案ト主張上全ク背反スル「クオータ」移民停止其他ノ移民法關係法案續出セルコト(ハ)本期議會ハ「ショート・セクション」ナルコト(ニ)大統領直參ノ加州共和黨トシテハ過般總選舉ノ結果ニモ顧ミ此際成ルヘク「フリーヴ」ヲ「エンバラス」スルカ如キ議論ヲ生シ易キ法案ノ提出ヲ避ケントスルコト等ノ諸原因カ濃厚ナル「アレキサンダー」等ノ態度ヲシテ益々慎重ナラシムルモノト觀察セラレタリ

二十七、「エキザミナー」紙ノ社説

十二月十二日「エキザミナー」紙ハ重ネテ社説欄ニ於テ大要左ノ通論シタリ

(一) 好マシカラサル外人送還ニ關スル 我社ノ主張ニ對シ加州市民ノ共鳴スル者漸ク多キヲ加ヘ「マクラッチ」ハ下ノ如ク指摘シタリ即チ不正入國者ノ逮捕、處罰及送還ニ付テハ現行法規並ニ移民當局經費ノ點ニ於テ夫々缺陷アリ之カ爲一年ノ不正入國者十五萬ニ達シ内辛ウシテ三萬ヲ送還シ得ルニ過キス

(二) 前記「マクラッチ」ハ加州聯合移民委員會幹事ノ要職ニ在リ同委員會ハ加州「アメリカン・

リージョン」労働聯盟及「ネイティヴ・サンズ・オブ・ゼ・ゴールデン・ウエスト」ノ各代表並ニ加州檢事總長「ウエッブ」等有力ノ市民ヲ網羅シ居リ從ツテ好マシカラサル外人追放ニ關スル該委員會ノ主張ハ一般市民ノ輿論ヲ代表スルモノト謂フヘシ

(三) 一般市民ハ歸化シタル米人ト共ニ米國ノ繁榮ヲ祈ルモノニシテ外人ニ對スル厚遇ハ由來米國ノ一美德ナルモ左リトテ好マシカラサル外人ノ爲ニ現ニ危害ヲ加ヘラレツアルハ之ヲ坐視スルニ忍ヒス云々

二十八、「ファールントン」ノ意見

一九二九年ニ至ル迄二期引續キ布哇縣ノ知事ニシテ又現時「ホノルル」市ニ於ケル有力ナル新聞「スター・ビュレティン」紙社長タル「ファールントン」(Wallace R. Farrington)ノ談話トシテ一九三一年四月二十四日紐育「タイムス」紙ハ左ノ通報道セリ

太平洋方面ニ於ケル我外國貿易ニ關シ最緊切ナル一事ハ速ニ東洋諸國ヲ歐洲諸國同様「クオータ」ノ基礎ノ上ニ置クニアリ東洋人排斥法ト雖モ吾人カ「クオータ」ニ基ク移民法制定前ナリトセハ或ハ之ヲ是トスヘキ點アリシナランモ同法制定後ノ今日何故ニ現在二三ノ國民ヲ特ニ後進國トシ之ニ對シ不必要ナル侮辱ヲ與ヘツツアル現状ヲ是正セサルノ理アリヤ東洋諸國ニ「クオ

「タ」ヲ適用シタル場合入國數ハ支那人ハ毎年約百名日本人ハ百五十名乃至二百名ニ過キササルヘク年々斯ノ如キ少數ノ入國者アリトスルモ右ハ何等英語民族破滅ノ原因タラサルヘキハ勿論我固有ノ制度ヲ覆シ或ハ經濟的軋轢ヲ惹起スルノ憂ナカルヘキナリ若シ東洋人ニ「クオータ」ヲ適用シ之ニ他國民ト平等ノ地位ヲ認ムルニ於テハ經濟關係上兩者間ノ友好及相互尊重ノ念増進ニ寄與スルコト莫大ナルモノアルヘク東洋トノ貿易竝ニ接觸益々盛ナラントスル今日吾人ノ深ク省察セサルヘカラサル所ナリ現ニ我對東洋貿易ハ既ニ數十億弗ニ上リ居リ過去十五ケ年間ニ於ケル濠洲及新西蘭ヲ含ム太平洋方面ニ於ケル我貿易ノ增加率ハ我對歐洲竝ニ南米貿易ノ増加率ヲ凌駕スルコト大ナルモノアリ現ニ布哇ハ東洋人種ヲ同化シ了リタルカ故ニ何等ノ日本人問題アルナク此點ニ於テ東洋人隔離ノ傾向ヲ有スル加州ノ政策ト異ル吾人ノ同化政策ノ成功ヲ舉示セント欲ス

二十九、合衆國商業會議所大會

一九三一年四月二十七日ヨリ五月一日迄「アトランティック・シテイ」ニ開催ノ合衆國商業會議所年次大會ニ對スル移民法修正ニ關スル「ボートランド」商業會議所提案ニ關聯シ「ホノルル」滯在中ナリシ「アレキサンダー」ニ對シ合衆國商業會議所ヨリ同提案考慮ノ爲四月二十八日開會ノ移民委員會ニ出席方ヲ求メタル處「アレキサンダー」ハ本件ハ合衆國商議ノ行動ニ先チ太平洋沿岸商

議全體カ一致ノ行動ニ出ツル方宜シトノ意見ヲ懷キ桑港商議幹部ト謀リ「ボートランド」商議ト交渉ノ結果「ボートランド」側ハ曩ニ提出シタル決議ヲ撤回シ沿岸各地商議一致ノ行動ヲ採ルコトヲ承諾シタリ尙「リンチ」案ノ意嚮トシテハ前顯年次大會ニ於テ排日移民法問題ヲ議題トスルコトハ次期議會開會迄ニハ可成ノ期間アルヲ以テ此間反テ反對派ノ運動ヲ盛ナラシムル虞多キニ付今暫ク之ヲ見合セ置キタル上適當ノ時機ヲ見計ヒ沿岸各地商議ノ聯合行動ヲ開始シタル後全國的運動ニ移ラントスルニアリ而シテ沿岸聯合運動ノ開始時期ト一九三〇年十二月「ボートランド」ニ於テ開催ノ合衆國商議西部諸州大會ニ於テ「アレキサンダー」ニ一任サレタルハ既述ノ通ナリ從ツテ同大會ニ於テハ排日移民法修正決議案ハ委員會ヨリ議案トシテハ提出セラレ居タルモ總會及都會ノ何レニ於テモ審議セラレスシテ終了セリ

三十、「バブリック・レッヂャー」社説

五月一日費府「バブリック・レッヂャー」紙ハ社説ニ於テ現在ノ處日米兩國間ニ戰雲漂フカ如キ事態ナキハ事實ニシテ且昨今ノ如ク各國カ條約ニヨリ其海軍ノ自國領海ニ於ケル絶對的優勢保持ニ努メ居ル以上戰爭ノ危險ハナカルヘシ然レトモ吾人ハ現在ニ於テモ尙日本人カ忘レントシテ忘ル能ハサル未解決ノ問題兩國ノ間ニ蟠リ居ルコトヲ忘ルヘカラス即チ夫ハ米國ノ日本人排斥ナリ國

際問題中ニハ時ノ經過及環境ノ推移ニ依リ自然消滅ヲ爲スモノアリ然レトモ本問題ハ決シテ時及環境ニヨリ自然ニ解決セラルルコトナカルヘシ米國カ日本人ヲ歐洲人ト平等視セサルハ彼等ノ周知スル所ニシテ自尊心強ク感激性ニ富ム彼等ハ世界ノ強國ノ一トシテ此劣等待遇ヲ深ク怒リ之カ撤廢ノ爲ニハ凡ユル努力ヲ吝マス彼等ハ唯各國同様ノ歩合ヲ與ヘラレンコトヲ要求スルノミナルカ之ヲ認ムルモ一年二百人ノ日本人ヲ入國セシムレハ足り且此數字スラ現在各國移民ニ適用セラレ居ル種々ノ制限規定ノ適用ニヨリ更ニ一層低減セラルヘシ彼等ノ欲スル所ハ唯歐洲人トノ平等待遇ナリ過去三代ノ大統領ハ何レモ日本ノ要求ノ正當ナルヲ認メナカラ西部政治家ノ反對ニ逢ヒ之ヲ實現スル能ハサル狀態ナルカ吾人ハ此障礙カ何時カ除去セラレ兩國最大ノ懸案ノ解決セラレンコトヲ切望スト述ヘタリ

三十一、全國貿易大會

五月二十七日ヨリ紐育ニ開催ノ全國貿易大會 (National Foreign Trade Council) ニ出席ノ「アレキサンダー」ハ二十六日在紐育堀内總領事ヲ往訪シ一九三〇年羅府ニ於ケル貿易大會ニハ既ニ移民法修正ニ關スル決議成立シタル次第モアリ今回ノ大會ニハ却テ之ニ觸レサル方得策ナルヤニ思考セラルル處何レ前布哇知事「フーリントン」等トモ相談ノ上態度ヲ決定シタキ旨内話シタルカ

二十七日ノ大會第一日ニ「フーリントン」ハ米國ノ對東洋貿易ニ關スル演說中移民法ヲ修正シ日支兩國民ニ對シテモ「クオータ」ヲ適用スヘキ旨ヲ述ヘタルノミニシテ本問題ニ關シ決議案等ノ提出ヲ見ルニ至ラス會議終了セリ二十九日堀内總領事ノ午餐ニ於テ「アレキサンダー」ハ今回決議案提出ヲ見合セタル次第ハ予カ大會ノ決議委員タル關係上他ノ有力ナル一二委員トモ移民法問題ニ關シ意見ヲ交換シタル處一九三二年「ホノルル」ニ開カルル次回大會コソ適當ナル機會ナルヘシトノ說多カリシニ依リタルモノナリト説明セリ

三十二、「アレキサンダー」ノ意見

六月四日桑港商業會議所副會頭日米協會副會長「ロバート・ニュートン・リンチ」ノ卒去ハ同氏ノ從來我方トノ緊密ナル關係ニ鑑ミ加州方面ニ於ケル日米關係ノ上ニ尠カラサル影響ヲ及ホス次第ニシテ現ニ多年來同人ト最モ親密ニシテ殆ト唯一ノ協力者トシテ信賴シ我方ノ爲ニ盡瘁シ來レル「アレキサンダー」トシテモ唯一ノ相談相手ヲ失ヒ同人ノ外衷心ヨリ自發的ニ誠心誠意日米關係ニ努力スル者ヲ物色スルコト容易ナラストテ頗ル當惑ノ色アリ且「アレキサンダー」トシテモ漸ク老境ニ入り事業ノ都合モアリ常ニ自ラ我方ノ爲運動ニ専念スルコト困難ナル事情アリ此際少壯有爲ノ者ヲ物色シテ日米關係ニ付訓練ト經驗ヲ積マシメ「リンチ」ノ後繼者ヲ養成スル外ナカ

ルヘシトノ意見ヲ抱クニ至レル由ニシテ「リンチ」死去ニ關聯シ在桑港若杉總領事ニ對シ「アレキサンダー」ノ語ル所ニヨレハ「アレキサンダー」ハ一九三〇年十二月「ボートランド」ニ於テ開催ノ西部大會ニ於テ移民法修正運動ニ關スル委員長ニ選ハレ何時ニテモ修正法案ニ對スル沿岸聯合ノ行動ヲ開始シ得ル地位ニ置カレ居ル次第ナルカ同人ハ本件修正法案カ加州選出議員ニヨリテ提出セラルルコトノ最適當ナルヲ確信シ從ツテ加州ノ政情改善シ本邦側ニ有利ニ展開スル見込充分ナラサル以上輕々ニ動カサル態度ヲ持シ居リ去ル四月末「アトランティック・シティ」ニ於ケル合衆國商業會議所大會及五月末紐育ニ於ケル全國貿易大會ニモ移民法修正ニ關スル決議案ヲ上程スルハ尙早ナリトノ意見ヲ持シ實際ニ於テ此種決議ハ昨年初夏羅府貿易大會ニ於テモ又其前後桑港ヲ始メ五月八日「ボートランド」「タコマ」等沿岸各地商議ニ於テモ既ニ通過シ居リ更ニ重テ類似決議ヲ爲スコトハ甚タ易々タルニ反シ一形式ニ流ルル嫌アリ却テ排日側ノ反對運動ヲ刺戟スルハ得策ニアラス旁前記大會ハ主トシテ金融、財政及失業ノ問題ヲ議題トセル會議ノ性質ニ鑑ミ「アレキサンダー」等ハ此種決議ノ提案ヲ差控ヘタル次第ナリ又「アレキサンダー」カ合衆國商議大會等ノ爲東部ニ赴キタル際國務次官「キヤッスル」ト會談シタル處同次官ハ本件修正問題ヲ極メテ慎重ニ取扱ヒ苟モ國務省側ヨリ本問題ヲ主動セルカ如キ印象ヲ與フルニ於テハ立法部ト

ノ關係極メテ「デリケート」トナリ反ツテ收拾スヘカラサル事態ヲ惹起スル虞アルヲ力説シ居タル趣ニテ又「アレキサンダー」ハ紐育滯在中往々華府政府ノ囑託ヲ受ケ此種立法ニ精通スル「コロンビア」大學教授「チエンバレン」ニ對シ排日條項修正方ニ關スル立法案作成方ヲ内密依頼シ置キタレハ目下折角調查續行中ナル加州政情ノ適確ナル歸趨ヲ確メタル上出來得ヘクンハ來議會ニ於テ加州選出議員ヲシテ右提案方取計フ豫定ナル趣ナリト述ヘタリ

三十三、「ネイティヴ・サンズ」ノ決議

六月七日「ネイティヴ・サンズ・オヴ・ザ・ゴールドン・ウエスト」ハ評議員會ニ於テ現行移民法勵行特ニ歸化不能外人ノ入國ヲ嚴重取締ル爲之カ所要經費支出方議會ニ請願スルコト竝ニ亞細亞人ニ「クオータ」ヲ許サントスルハ歸化不能外人ニ對シ永久居住ヲ排斥スル條項ヲ無効ナラシムルモノナリトノ決議ヲ通過シタリ

三十四、若杉總領事ト「シャールンバーグ」トノ會見

七月一日在桑港若杉總領事「シャールンバーグ」ト會見ノ折同人ノ語ル所ニ依レハ最近「アレキサンダー」等ノ移民法修正運動ニ對シ過日來「マクラッチー」一派又復對抗運動ヲ起シ修正反對意見書ヲ各方面ニ配布シ居ル處「シャールンバーグ」個人トシテハ屢々「マクラッチー」ノ意見

ヲ反駁シ居ルモ「マクラッチー」ハ其信念及從來ノ立場ノ關係上到底其意見ヲ翻ス見込無ク目下ノ處勞働團體ハ進シテ修正運動ニ反對スル意嚮ナキ様子ナルモ「アメリカン・リージョン」及「ネイティヴ・サンズ」ト同様曩ニ移民法制定當時排日條項ニ付聯合移民委員會ニ對シ「コンミット」シ居ル關係モアリ彼等ハ行懸上「マクラッチー」ノ見解及運動ヲ支持スヘキ地位ニアリ從ツテ之等諸團體ヲシテ移民法修正運動ヲ支持又ハ少クトモ默認セシムルカ爲ニハ團體員一般ノ排日感情ヲ一層緩和スルノ外ナク誠ニ面倒ナルカ最近諸方面ノ情勢ヲ見ルニ努力サヘスレハ漸次修正運動反對ノ氣勢ヲ緩和シ得ル望アリト觀測シ居ル模様ナリ尙「アレキサンダー」先般紐育ヨリ歸還後本官ニ對シ語ル所ニヨレハ「アレキサンダー」ノ加州ニ於テ使用シ居ル運動員ノ努力漸次效ヲ奏シツツアル模様ニテ勞働團體方面ハ「シャーレンバーグ」ノ努力ニ依リ我方ニ有利ニ展開シツツアル處今後「アメリカン・リージョン」方面ノ形勢サヘ緩和スルニ於テハ來議會ニ於テ具體的行動ニ出ツルコト必スシモ不可能ニ非サルヘク目下ノ處可成反對派ノ對抗運動ヲ激成セサル様努メタキ意嚮ニテ之カ爲過般紐育ニ於ケル貿易大會ニ於テモ態々修正運動ニ關シ決議ヲ見合セ必要ニ應シ何時ニテモ當沿岸地方ノ聯合決議ヲ以テ具體的提案ヲ爲スヘキ所存ナルカ現ニ移民法修正案起草等ニ精通セル「コロンビア」大學「チェンバレン」教授ニ排日條項修正案起草方內密依頼シ置

キタル趣ニテ過般華府ニ於テ「キャッスル」國務次官ト會見ノ際ニモ「キャッスル」次官ハ本件ニ關シ此際國務省側ノ態度トシテハ成ルヘク立法部ノ感情ヲ刺戟スルカ如キ行動ヲ避ケタキ意嚮ヲ有シ極メテ慎重ノ態度ヲ持シ居リタルモ來議會ニ於テハ或ハ修正運動成功スルヤモ計ラレスト觀察シ居タル由ナリ

三十五、聯合移民委員會ノ聲明書

七月十三日在桑港聯合移民委員會ハ大要左ノ如キ聲明書ヲ發表シタリ

當委員會カ日本人ニ「クオータ」適用ヲ贊成シ居ルカノ如ク誤傳サルル處當會ハ之ヲ組織スル「アメリカン・リージョン」勞働聯盟及「ネイティヴ・サンズ・オヴ・ザ・ゴールデン・ウエスト」ノ歸化不能外人排斥ニ關スル既定方針ヲ遂行スル外何等ノ權能ナキモノニシテ日本及他ノ亞細亞諸國ニ「クオータ」ヲ許スコトハ移民法中同化セサル亞細亞移民ノ排斥條項ヲ骨拔トスルモノナリ向後何等カ豫期セサル事態發生シ前記全米及加州各團體ノ方針變更ヲ見サル限り當委員會ハ日本人ニ對シ「クオータ」適用ニ關スル運動ニ反對セサルヲ得ス又加州農園ニ於ケル日本人其他ノ有色人勞働者カ白色人勞働者ニ代リツツアリト稱セラルルモ其實使用主ニ於テ勞働施設ヲ改善スルニ於テハ白色人勞働者ヲ歸還セシムルノ可能性充分ナリ更ニ沿岸對日本貿易ノ減少ハ

日本ノ不景氣竝ニ奢侈稅率設定ニ因ルモノニシテ毫モ對米移民問題ニ關スル惡感情ニ基ケルモノニ非ス日本ニ於テモ「クオータ」問題ニ付テハ識者ノ意見一致セス(トテ一九三一年四月號外交時報所載米田實博士ノ條約商人試訴問題勝訴ノ曉ハ割當移民ヨリ約五倍ノ商人ノ妻入國可能ナルニ付移民法修正運動ハ米國立法部空氣ノ緩和ヲ俟ツヘシトノ記事ヲ引用シ)「アルバート・ジョンソン」カ日本ニ對スル「クオータ」適用ノ意見發表後引續キ右ハ日本移民ノ入國ヲ許スモノニ非スト説明シタルニ對シ日本字新聞ハ「クオータ」ノ要求ハ徒ニ惡感情ヲ激發スルノミナレハ之ヲ追求セサル方可ナリト論シタリ云々

三十六、「シアトル」ニ於ケル會合

七月十三日「アレキサンダー」「シアトル」ニ來リシ機ヲ捉ヘ「ミドルトン」ノ幹旋ニテ豫テ移民法修正運動ニ熱心ナル「シアトル」「タコマ」「ホキアム」等ノ商議首腦者八名會合意見ノ交換ヲ爲シタル結果本問題ニ關シテハ加州方面ニ於テ成功ノ見込愈々確實トナル迄充分慎重ノ態度ヲ持シ商議トシテハ何等表立チタル策動ヲ爲スコトヲ差控フルモ「アレキサンダー」ヨリノ指圖アリ次第何時ニテモ相呼應スルノ準備ヲ整ヘ又他面「アルバート・ジョンソン」ノ選舉地盤タル華州西南部ノ有力者ヲ個人的ニ説得スルニ努メ彼等ヲ通シテ「ジョンソン」ヲシテ其選舉區民カ修正

ニ贊成ナルコトヲ自覺セシムルノ策ヲ講スルコトニ申合セタリ

三十七、「ヴァーモント」市々會ノ決議

毎春日本櫻花祭ヲ行ヒ加州ニ於ケル親日都市トシテ夙ニ有名ナル「ヴァーモント」市ハ七月二十三日市會ニ於テ排日移民法ヲ撤廢シ日本ヲ歐洲諸國同様ノ「クオータ」制ノ基礎ノ上ニ置クヘシトノ案ニ贊成ナル旨ヲ決議シ之ヲ合衆國加州及羅府各商業會議所ニ通告シ尙來ルヘキ議會ニモ之ヲ送付スル趣ナリ

本案通過ニ付最モ盡力セル前市長ニシテ櫻花祭創設者「ガイ・ボガード」ハ「加州ハ四圍ノ狀況ヲ誤解セル爲過誤ヲ犯セリ而シテ此過誤ニ對スル償ハ須ラク日本人カ實業、専門的職業及文化上多大ノ貢獻ヲ爲セル南加州地方ヨリ端ヲ發スヘキコト最モ適當ナリ予ハ合衆國商業會議所移民委員會カ本問題ニ關シ斷乎タル態度ヲ執ランコトヲ信シ且加州カ之ニ贊同センコトヲ疑ハス」ト言ヘリ

三十八、「ホキアム」商業會議所ノ幹旋

七月二十七日華州商議會頭「ラム」ノ支持ニ基キ「ホキアム」商業會議所ハ「アルバート・ジョンソン」ヲ午餐ニ招待シ「アバデーン」「ボートランド」「タコマ」「シアトル」等ノ商議代表者モ

之ニ參加セルカ右散會後關係者八名居殘リテ移民法修正問題ニ關シ「ジョンソン」ト懇談ノ結果ニ關シ「ミドルトン」ノ在「シアトル」内山領事ニ語ル處大要左ノ通

移民法修正ニ關スル「ジョンソン」ノ真意ハ好意的ニシテ且眞率ナルモノト認メラレタルカ種々ノ關係法規ノ研究ノ結果實際問題トシテ議會ニ上提ノ際ハ相當複雑ノ議論ヲ惹起スルノ虞アリ「ジョンソン」カ本提案ヲ躊躇スル所ハ目下財界ノ不況ニヨリ失業者續出シ民衆カ漸ク共和黨ノ施設ニ嫌ラサラントスル時來ルヘキ議會ニ於テハ下院移民委員長タル「ジョンソン」ノ地位モ決シテ安固ナリトハ言フカラス況ヤ政治的ニハ本案ノ提出等カ誘因トナリテ民主黨側ヲ優勢ナラシムルコトナキヲ保セス從ツテ「ジョンソン」トシテハ政局ノ前途カ充分見極メ付ク迄ハ迂濶ニ手出シ兼ヌル狀態ニアレバ結局ハ迂濶ナカラ一般民衆ノ啓發以外差當リ名案ナキヤニ觀察セラレタリ

三十九、内山領事ト「アルバート・ジョンソン」ノ會見

七月二十八日在「シアトル」内山領事華州「ホキアム」ニ歸郷中ノ「アルバート・ジョンソン」ヲ訪問セル處同領事ニ對シ「ジョンソン」ハ移民法修正問題ニ言及シ移民法ハ結局歸化法ト不可分ノ問題ナルカ此點ニ付日支人ヲ差別待遇スルコトハ多大ノ困難アリ又亞細亞人ノ歸化權ヲ認ムル

コトモ所謂「自由ナル白人」ノ歴史ニ徴シ絶對不可能ナリ來議會ニハ幾多ノ重要懸案堆積シ居ル故緊急討議ノ必要ナキ問題ハ一蹴セラルル虞アリト語リタルカ其後同地ノ「フランク・ラム」ノ同領事ニ對スル内話ニ依レハ「ジョンソン」カ考慮中ナル修正案ナルモノハ亞細亞人ニ對シ他國人種ト同様ノ「ナシヨナル・オリヂン」ノ「クオータ」ヲ適用スルモ右ハ單ニ形式的ノ「デニスチュア」ヲ示サントスルモノニシテ實質上歸化法又ハ移民法中歸化不能外國人ニ關スル條項ヲ變化スルモノニ非サルヘシト觀察セラルト語リシ趣ナリ

第七、一九三一年合衆國商業會議所移民委員會ノ修正決議ト其後ノ情勢

一、合衆國商業會議所移民委員會ノ修正決議

一九三一年七月三十一日華府ニ於テ會合シタル合衆國商業會議所移民委員會ハ現行米國移民法中日本其他東洋諸國ニ對スル差別的規定ノ撤廢ヲ同商議理事會ニ勸告スルコトヲ決議セリ右決議ノ要旨左ノ通

從來合衆國商業會議所ハ常ニ東洋諸國ニ對シ友好親善ノ態度ヲ持シ來レルカ實業家ノミナラス一般民衆ノ間ニ於テモ右態度ノ正當ナルコト漸次認識セラルルニ至リシコトハ本委員會ノ確信スル所ナリ故ニ本委員會ハ過去七ケ年間歐洲諸國民ノ米國入國ニ關シ適用セラレ來リシ「クオ

「タ」制度ヲ日本其他ノ東洋諸國ニ對シテモ適用スヘキ時期ニ到達セリト信スルモノナリ
右決議ニ關聯シ前記移民委員長「ブリッグス」ハ同日左記要旨ノ「ステートメント」ヲ發表セ
リ

本委員會ハ本決議ノ趣旨ノ法律改正ハ移民ニ最モ關係深キ地方ヨリ提唱セラルヘキモノト考
ヘ居レルカ現在ノ事態ハ米國一般ニ於テ本問題ニ慎重ナル考慮ヲ拂フニ最モ適當ナル機會ヲ
與フルモノナリ本問題ハ米國ト最モ親密ナルコトヲ要スル東洋諸國トノ關係ヲ律スル實際問
題ナルカ移民ノ數夫レ自體ハ極メテ些細ニシテ「クオート」ヲ適用スルトスルモ日本人ノ入國
ハ一年百八十五名支那人ハ百五名位ニ過キス一方「クオート」制度ニ關シテハ勞働長官ハ一九
三〇年ノ勞働省年報ニ於テ其有效ナルコトヲ力說シ現在ノ歐洲諸國民ニ對スル「クオート」制
度ニ多少ノ變更ヲ加フルニ於テハ東洋移民ノ制限ハ現行法ニヨルモ一層完全ニ行ハル場合
アルヘキ旨述ヘ居レリ移民局統計ニ依レハ一九二五年ヨリ三〇年ニ至ル六年間ニ於テ日本人
及支那人ノ出國者ハ入國者ニ比シ夫々二萬名及六千名ノ多數ヲ示シ居レルカ現在日本及支那
ヨリノ純然タル移民 (Real immigration) ノ渡來ハ全然停止セラレ居リ「クオート」制度ヲ適用
スルニ於テハ之等友好國ヲシテ何等不快ノ感情ヲ抱カシメスシテ右ノ制限ヲ繼續スルコトヲ

得ヘシ云々 (附屬書第百六十六號)

尙右決議ハ十月二日ノ理事會ノ決定ヲ經テ理事會ヨリ一九三二年五月開催セラルヘキ合衆國商議
大會ニ提出セラルヘク同大會通過ノ上ハ米國議會ニ對シ立法請願ノ手續ヲ執ルコトナレル趣ナ
リ

右合衆國商業議所ノ決議及其後同商議ノ修正運動ハ從來各地ニ於テ稍々バラ／＼ニ行ハレタル感
アリシ修正運動ニ中心ヲ與ヘ之ヨリ漸ク本格的ナル「ステーチ」ニ入リタルコトヲ示スモノトシテ
注目ニ價ス (別項「十一」參照)

二、移民委員會決議前後ニ於ケル各方面ノ態度

(イ) 七月三十一日合衆國商議移民委員會ノ決議ニ先チ七月二十二日「ボストン・クリスチャン・サ
イエンス・モニター」紙ハ右委員會ニ於テ西部沿岸地方ノ實業及勞働關係主腦者ヨリ日本人ニ
對シ「クオート」適用方ヲ提案スヘシトノ記事ヲ掲ケ西部沿岸地方カ今回ノ提案ヲ爲スニ至レ
ルハ日米兩國ノ關係ニ殘留スル一暗影ヲ除去シ惹テハ同地方ノ對東洋貿易ヲ恢復セントノ目的
ニ出テタルモノナルカ米國殊ニ西部沿岸地方カ一九二四年當時ニ比シ斯ク態度ヲ變更シタルハ
時日ノ推移國務省及勞働省側ノ推奨セル「クオート」制度ヲ實際ニ數年間適用シタル結果竝ニ

汎太平洋會議ニ於ケル日本側ノ移民問題ニ關スル主張等ニ基因スルモノナリ日本ニ「クオータ」ヲ適用スルモ其入國者數ハ一部論者ノ唱フルカ如キ結果トナラス現在ノ狀態ト何等變ルコトナク却テ日本側ノ懷ケル不快ナル感情ヲ一掃スルコトニヨリ得ル所極メテ大ニシテ而モ失フ所毫モナシト述ヘタリ

(ロ) 七月二十四日「ボルチモア・サン」紙及二十六日紐育「ヘラルド・トリビューン」紙モ同趣旨ノ記事ヲ掲ケタル外二十四日「ボルチモア・イヴニング・サン」紙二十五日「ボルチモア・サン」紙同日「クリスチャン・サイエンス・モニター」紙ハ共ニ社説ニ於テ一九二四年ノ移民法カ全ク一時ノ感情竝ニ偏見ヨリ成立セルモノナルコトヲ説キ當時最先頭ニ立チテ東洋人排斥ヲ主張セル加州カ今ヤ膝ヲ屈スルニ至リタルハ吾人ノ満足トスル所ナリ移民法問題ハ或ハ一ノ感情問題ニ過キストナスモノアルモ政治家トシテハ國際關係上斯ル感情ニ重キヲ置クヘキモノナリト論シ本移民委員會會合ニ先チ西部沿岸地方代表ノ提案ニ贊意ヲ表明セリ

(ハ) 而シテ右決議案ノ上提ノ報ニ接スルヤ七月三十一日「アメリカン・リीडジョン」加州支部幹事ニシテ桑港移民委員會委員長タル「フィスク」ヨリ全「アメリカン・リीडジョン」團長「オナイ」及華府代表者「テラー」ヲ通シ商議移民委員會ニ抗議シ又「マクラッチ」ハ直接商議

會頭及理事ニ同様抗議ノ電報ヲ發シタリ

(ニ) 尙八月一日桑港「クロニクル」紙及「エキザミナー」紙ハ「東洋移民排斥運動再開セラレタリ」トノ見出ノ下ニ「ショートリッヂ」ハ排斥條項撤廢ニ絶對反對ナル旨又「カーン」代議士ハ右修正ノ結果東洋移民ノ殺到ヲ見ルコトナク而モ東洋諸國ニ好感ヲ齎スモノナルニ於テハ贊成ナル旨語レル趣ヲ報道シタリ

尙八月一日「ホノルル」發行夕刊新聞「スター・ビューティン」紙ハ合衆國商議移民委員會ノ移民法修正決議ニ贊意ヲ表シ「好意ハ商業ノ要諦ニシテ顧客ニ惡感ヲ與フルハ愚ノ極ナリ」ト述ヘタリ

(ホ) 八月二日桑港「クロニクル」紙ノ報道ニヨレハ加州「アメリカン・リीडジョン」團長「ギアハート」ハ移民法修正運動ハ東洋人ノ歸化ニ對スル障壁ヲ撤廢セシメントスル一步ニシテ「クオータ」適用ヲ容認スルコトハ驕テ歸化權ニ對スル門戸ヲ開クニ至ルヘク國際貿易關係ニ基ク「クオータ」適用論ハ重キヲ置クニ足ラスト述ヘタリ

(ヘ) 八月二日羅府「エキザミナー」紙ハ「移民法修正ハ望少シ」ト題スル「ユニヴァーサル」華府電報ヲ掲ケ現下不況ノ際米國議會トシテハ商業會議所ノ排日移民法提議ニ注意ヲ向クルノ餘

地ナカルヘク已ニ加州聯合移民委員會等ノ排日團體ノ反對氣勢ヲ擧ケ居ルアリ加州選出上院議員「ハイラム・ジョンソン」モ來議會ニ於テ移民法修正勸議ニ反對スヘシ云々ナル趣ヲ報シタリ

(ト) 八月三日華府「スター」紙ハ社説ニ於テ兩院移民委員會ハ何レ商業會議所ノ見解ノ趣旨ノ立法ヲ促サルヘキカ米國政府トシテハ日米ノ友好關係ニ之以上有效ナル措置ハナカルヘク大多數ノ米國民ハ議會カ一日モ早ク此誤ヲ匡シ米國ノ公正ナル精神ヲ日本ニ示サンコトヲ望ミ居レリト論シ四日ノ紐育「タイムズ」ハ移民法成立當時ノ經緯ヲ略說セル後多數ノ米國人ハ當時ノ出來事ヲ忘却シ居レルカ日本ハ然ラス日本政治家ハ軍縮ニ平和ニ常ニ米國ト協力シツツ他面ニ於テ米國ニハ依然トシテ僅カ百八十五名ノ日本人スヲ入國ヲ許ササル法律ヲ存シ日本人ノ誇ヲ傷ケ居ルコトヲ指摘シ來レリ然ルニ今回成立セル移民法改正ヲ要求セル決議カ太平洋沿岸實業家ノ主唱ニ係ルモノナルコトハ興味アルコトニテ現ニ對東洋貿易沈衰シ歐洲品之ニ代ラントシツツアルニ當リ米國議會開會ニ際シ對日親善ノ意ヲ示スコトハ時期ヲ得タルモノナルヘシ右ハ單ニ東洋市場ニ於テ顧客ヲ吸收シ得ルニ止マラス友好國民ニ對シ不必要ナル侮辱ヲ與ヘタル法律ノ償トナルモノナリト述ヘタリ

又八月五日ノ紐育「イーヴニング・ポスト」ハ右決議ヲ稱贊シ斯クテ日米國交上ノ最後ノ障礙ヲ除去スルヲ得ハ最モ慶賀スヘキモノナリト結論セル簡單ナル社説ヲ掲ケタリ

(チ) 八月五日ノ桑港「ニュース」紙ハ「日本人ノ禁止」ナル標題ノ下ニ「日本人ニトリテハ他國民ト同等待遇ヲ得ルコトハ其方法ノ如何ヲ問ハス貴重ナルモノナリ「クオータ」適用ノ結果僅ニ日本人ハ一八五名支那人ハ一〇五名入國シ得ルニ過キス又過去數ヶ月ニ於テ行政部ハ移民ノ入國數ヲ時勢ノ必要ニ適應セシムルコトヲ得タリ本件東洋諸國民ノ入國ニ關シテモ亦同様ナルヲ疑ハス日本人ハ米國ノ爲シタル此些少ノ讓歩ノ動機ヲ如何ニ見ルニセヨ之ニヨリテ差別待遇ノ烙印ハ取去ラレ國際紛擾ノ禍根ヲ根絶スルヲ得ヘシ云々」ト述ヘタリ

(リ) 八月六日桑港「クロニクル」紙上ニ於テ「チエスター・ローウエル」ハ「クオータ」適用問題ハ米國ニトリテハ實質上ノ問題ニ非スシテ然モ日本ノ頗ル重キヲ置ク所ナルノミナラス亞細亞ノ現狀ハ日米親善ヲ緊要トスルモノアルヲ以テ米國ハ讓歩スヘシト大體我方ニ好意アル論評ヲ爲シタリ

(ヌ) 勞働者側ノ意見トシテハ桑港勞働協會 (The San Francisco Labour Council) 機關紙「レイバ・クラリオン」(週刊)ハ評論欄ニ於テ失業狀態ハ亞細亞人ニ對スル制限撤廢ニ依リテ改善ヲ

期セラルヘキニ非ス本運動ハ「アレキサンダー」ノ主張スル所ナルモ若シ移民法ヲ修正セントスルナラハ布哇ニ於ケル砂糖耕地ノ爲安價ナル努力ヲ得ントスル希望ヤ太平洋汽船會社其他ノ活動ニヨリテ左右セラレントスル虞アル人（暗ニ「アレキサンダー」ヲ指ス）ノ意見ヨリモ米國勞働界ノ幸福ニ利害關係ヲ有スルモノノ意見ヲ聽クコソ更ニ賢明ナルヘシト評シ又國際海員聯盟會長「フルセス」ハ米國商議移民委員會ノ決議ハ所謂國際親善貿易發展ノ爲ニ吾人ノ幸福ヲ決定スル獨立權ヲ犧牲トスルモノニシテ高價ナル對價ナリトテ海員法ノ改正ト關聯シテ反對意見ヲ述ヘタリ

(ル) 八月六日華府ヨリ歸來セル「アレキサンダー」カ若杉總領事ニ語レル處ニヨレハ全米商議委員會ハ同氏ヨリ加州方面ノ移民法修正問題ニ對スル形勢ヲ詳細聽取シタル上同會ニ列席ノ全國勞働聯盟代表者ニ對シ本問題ニ關スル勞働側ノ態度ヲ明示センコトヲ求メタルカ同代表ハ全國勞働聯盟ハ「クオータ」適用問題ニ關シ未タ贊否何レニモ加擔セス全ク中立ノ態度ヲ持スル旨聲明シタルヲ以テ加州ノ「マクラッチ」一派ヨリ反對ノ電報アリタルニモ拘ラス修正贊成ノ決議ヲ爲シタル趣ナリ尙「アレキサンダー」ハ過日同地有志ト會合ノ際今後一層遠隔地商業會議所側ノ結束ヲ固メ特ニ「シアトル」方面ニ於テハ極力「ジョンソン」說得ニ努力スヘキ旨申

合セタル由ナリ

(オ) 上院議員「シヨートリッヂ」ハ八月六日「サクラメント・ロータリ」俱樂部ニ於テ亞細亞人ハ神ノ指示シタル土地ニ留マルヘク合衆國ハ吾等特別ナル「タイプ」ノ國民ノ爲ニ保持セサルヘカラス又日本人ノ爲ニ移民法ニ例外ヲ設クヘシトスル運動行ハルルモ經濟上社會上人種上ノ理由ニ基キ如何ナル例外ニモ反對ナリト述ヘタリ

(フ) 八月七日加州「リヴァサイド」市發行「リヴァサイド・デイリー・プレス」紙モ同紙主幹「イ・ビー・クラーク」執筆ノ右修正決議ニ贊成ナル旨ノ論說ヲ掲ケタリ

(カ) 八月七日「シカゴ・トリビューン」紙ハ社說ヲ以テ移民法修正ニ贊意ヲ表シ太平洋沿岸地方ノ團體及新聞中ニハ之ニ反對スルモノアル處日本人及支那人ニ「クオータ」ヲ適用スルモ其入國數ハ僅少ナルノミナラス差別待遇ニ對スル兩國國民ノ憤懣ヲ除ク效果アリ米國ハ隣邦國民トノ親善ヲ方針トスヘキモノニシテ人種の偏見又ハ地方的感情ヲ以テ此方針ヲ破壞スルコトハ許スヘカラス東洋ノ文化ハ歐洲ノ文化同様吾人ノ尊敬ニ値スルモノナリト論セリ

(コ) 八月九日「アイダホ」州首府「ボイゼ」發行「アイダホ・デイリー・ステイツマン」紙ハ「日本人問題」ト題スル社說ニ於テ日本ニ對シ「クオータ」ヲ與ヘントスル合衆國商議ノ提議ニ對シ

一派ノ新聞紙ハ聲ヲ大ニシテ反對シ居レリ之カ爲一部ノ人士ハ合衆國議會カ右勸告ニ從フ虞アルモノト思惟スルニ至ルヘシ然レトモ議會カ右勸告ニ對シ何等考慮ヲ拂ハサルコトハ今ヨリ斷言シ得ヘシ現在ノ狀況ノ下ニ於テ更ニ多數ノ外國人ヲ招來シ米國內ニ於ケル失業者ノ數ヲ増加セシムルカ如キ法案ヲ主張スル政治家アリトセハ政治的自殺ヲ爲ス者ト謂フヘキナリ云々ト論セリ

(タ) 在米出淵大使カ八月中旬「サイラス・ストローン」ニ面會ノ節談適々合衆國商議移民委員會ノ修正勸告決議ニ及ヒシトキ「ストローン」ハ大使ニ對シ「本件決議ノ趣旨貫徹ニ關シテハ商議會頭トシテ責任ヲ感シ居ルニ付來春同商議大會ノ開催ヲ待ツ迄モナク議會開會次第適宜運動ヲ試ミル積リナルモ「マクラッチ」一派ノ激シキ反對ハ懸念ニ堪ヘス」トテ餘リ樂觀シ居ラサルカ如キ口吻ヲ洩シタリ

(レ) 八月十八日「シカゴ・デイリー・ニュース」紙ハ社説ニ於テ「太平洋沿岸地方ニ於ケル「アメリカン・リージョン」及「マクラッチ」一派ハ移民法修正ニ反對シ居ル處現時ノ一般的不況ニ鑑ミ右排斥撤廢ニヨリ直ニ貿易關係カ改善セラルトハ思考セサルモ不必要ナル障害ヲ除去スルコトハ蓋シ賢明ノ策ナリト述ヘ日本人及其他ノ東洋人ニ對スル「クオート」適用方ニ關シ贊成論

ヲ述ヘタリ

三、行政的措置ニヨル移民入國制限

七月三十一日ノ羅府「タイムス」紙掲載華府特電ハ勞働省發表ノ人口調査表ニ於テ昨一九三〇年度ニ於ケル米國出國外國人數ハ入國者數ヲ超過スルコト約一萬二千餘ニ達セリ此外國人出國者超過ハ米國有史以來最初ノ現象ナリ之公共ノ負擔トナルヘキ外國人ノ入國ヲ拒否スル大統領ノ行政政策大イニ與テ力アリト言フヘシ斯ル行政的手段ニ依ル移民制限ノ成功カ日本ヘ「クオート」ヲ與フル運動ノ大ナル動機トナレル趣ヲ報シタリ

今左ニ所謂行政的措置ニヨル移民制限ニ付記述スヘシ

(一) 米國內ニ於ケル失業狀態ニ鑑ミ各國ヨリノ移民ヲ出來得ル限り制限スヘシトノ大統領ノ要求ニ從ヒ一九三〇年九月以來國務省ニ於テハ移民查證緊縮ヲ實行シ來レル處其後實績ニ徴スルニ入國移民數ノ減少顯著ナルモノアリ

「ドーク」勞働長官ハ一九三一年十二月初旬大統領ニ提出セル一九三一年度(同年六月末ニ終ル會計年度)勞働省年報ニ於テ現政府ノ活動ニ依リ一九三一年度ニ於テハ百年以來最少ノ移民入國ヲ許可シタル爲移民ハ今ヤ米國ノ進歩ニ對スル重大ナル經濟的脅威タルノ地位ヲ失ヘリ前

年度ノ五名ニ對シ今年度ハ僅ニ一名ノ割合ノ入國ヲ許可セルニ過キス本年六月ノ移民入國數ヲ移民入國ニ關シ何等制限ノ設ナカリシ一九一三年六月ト比較スルニ十七萬六千二百六十二名對三千五百三十四名ニシテ實ニ五十分ノ一ニ過キス此緊縮方針ハ直ニ失業問題ニ大ナル影響ヲ及ホセリ移民法ノ勵行ハ官民双方ニトリテ最モ重大ナル仕事ナリ何トナレハ之ニ依リテ米國文明ヲ脅威スルカ如キ異分子ノ入國ヲ防止シ得ルト共ニ國內勞働者ノ福祉ヲ保護シ得ヘケレハナリ云々ト述ヘタリ

- (二) 一九三二年二月六日附「ハル」移民總監ノ發表ニ依レハ一九三一年(曆年)度入國移民數ヲ前曆年度ト比較スレハ十八萬二百五十一名對四萬三千三百五十三名ニシテ十三萬六千八百九十八名即チ七割五分ノ減少ヲ見ル内譯歐洲ヨリ渡來セル者二萬五千八百二十五名ニシテ前年度ヨリ七割八分ノ減少、加奈陀ハ九千四百六十二名即チ七割七分一厘、墨國ハ二千四百四十七名即チ六割六分四厘、他ノ諸國ハ五千九百十九名即チ六割ノ減少ナリ

- (三) 一九三二年ニ入りテハ入國移民數ノ減少更ニ甚シク

- (イ) 一月中ノ入國移民數ハ二千二百二十名ニシテ前年一月ト比較スルトキハ一千八百七十一名前々年一月ヨリハ一萬二千五百四十七名ノ減少ナリ

- (ロ) 二月中ノ入國移民數ハ一千九百八十四名ニシテ前年二月ニ比シ一千六百六十三名ノ減少、前々年度二月ヨリハ一萬一千六百一名ノ減少ナリ

- (ハ) 三月中ノ入國移民數ハ二千二百三名ニシテ前年三月ヨリハ一千四百七十四名ノ減少前々年度三月ニ比シ一萬七千六百五十六名ノ減少ナリ

四、佐藤領事ト「ベント」トノ會談

八月十九日在羅府佐藤領事前羅府商議會頭ニシテ合衆國商議移民委員會ノ加州委員タル「アーサー・エス・ベント」ヲ訪問ノ際「ベント」ノ佐藤領事ニ對スル談話要領左ノ通

移民法修正問題ニ關スル南加ノ狀態ハ頗ル順調ナリ過日來上院議員「ハイラム・ジョンソン」下院議員「クレール」イヴァンス等トモ會談シタル處何レモ目下一般市民ノ意嚮ヲ探リ居ルモノノ如ク何等明確ナル贊否ノ意見ヲ述ヘス予ハ「ハイラム・ジョンソン」ヲシテ修正案ヲ議會ニ提出セシメタシト考ヘ居リ之必スシモ不可能トハ思ハス若シ右困難トナラハ他ノ上院議員ヲシテ提出セシメタシ南加ニ於テ商議カ全部一致ノ行動ヲ執ルコトハ確實ナリ勞働團體ニ關シテハ其一部ニ依然偏見ヲ抱キ居ルモノアルモ南加ニ於ケル其實力タルヤ極メテ微々タルモノニシテ人氣又昂ラサル模様ナリ來ル十月一日二日華府ニ於テ第二回移民委員會同二日三日ニハ合衆國商議理

事會開催セラルル筈ナレハ其際民法修正問題ノ議會上程問題ヲ何ノ程度迄「プッシュ」スヘキヤハ其際決定ヲ見ルヘシ右理事會ニハ太平洋沿岸ヨリ「サウザン・バシフィック」鐵道會社長「ビー・シーブ」(P. Shoup)及「グリッグス」(Griggs)等數名出席スル筈ナルカ何レモ自分同様ノ意見ヲ有スルヲ以テ理事會ノ決定モ大凡豫想シ得ヘシ「マクラッチー」一派ノ反對ハ最早純理ヤ議論ノ克ク屈服スル所ニ非サルカ如ク先年羅府ニ於ケル貿易大會ノ際モ予ハ桑港ノ「リンチ」等ト共ニ彼ト懇談スル所アリシモ彼ハ飽ク迄主張ヲ曲ケストノコトナリキ彼ノ反對論旨ヲ窺フニ一ツトシテ傾聽ニ値スルモノナシ例ヘハ排日移民法ヲ修正スルモ日米貿易増進上何ノ效果モナシトハ彼ノ持論ナルモ抑々吾人カ該法修正ヲ唱フル所以ハ毫モ商賣ノ促進等ニ關係ナク純然タル「フェア・ブレー」ノ精神ヨリ出ツルモノナリ尙「マクラッチー」カ米國議會ハ已ニ移民制限ニ關シテ一定ノ方針ヲ確立シタル以上今更之ニ逆行スルカ如キ措置ヲ執ル筈ナシト主張シ居ルモ之モ「マクラッチー」一流ノ妄斷ニ過キ素ヨリ議會ハ如何ナル措置ヲ採ルモ自由ニシテ敢テ彼等ノ容喙シ得ヘキ限りニ非ス又「マクラッチー」カ加州ハ日本人排斥ニ關スル限り一致ノ意見ヲ以テ立法セリ等ト言フモ之亦事實ヲ誣フルコト甚シキモノナリ排日土地法通過ノ際ニ於ケル商業會議所ノ反對ハ今尙予ノ記憶ニ新ナル所ナリ

五、加州「アメリカン・リージョン」大會

加州「ロング・ビーチ」ニ於テ開催ノ加州「アメリカン・リージョン」大會ハ「マクラッチー」ノ策動ニヨリ九月一日全會一致ヲ以テ同團從來ノ方針ヲ固執シ移民法殊ニ歸化不能外國人排斥條項ノ勵行及右排斥條項ヲ無効ニシ又ハ修正スルカ如キ一切ノ提議ニ強硬ニ反對スル樣議會ニ於ケル代表者ニ勸告スル旨ノ決議ヲ可決シ又全國「アメリカン・リージョン」總會ニ出席ノ同團代表者ニ對シ同様右排斥條項修正ニ反對スヘキコトヲ命シタルヲ以テ「アレキサンダー」ハ「デトロイト」ニ於ケル同總會ニ於テ同様ノ決議ヲ見ルニ至ラサル様右ニ列席ノ友人ニ斡旋方依頼セリ

六、「マクラッチー」竝ニ「フィスク」ノ寄書ト其反駁

加州聯合移民委員會幹事「マクラッチー」及同委員長「ジェームス・ケイ・フィスク」ノ署名セル日本ノ「クオータ」ト題スル寄書九月一日ノ「シカゴ・トリビューン」紙ニ掲載セラレタルカ同紙ハ右投書ヲ掲載スル一方社説欄ニ於テ「クオータ」適用賛成論ヲ試ミ右寄書ヲ反駁シタリ右寄書ノ要領ハ加州地方カ日本人ニ對スル考ヲ改メテ之ニ「クオータ」適用ニ賛成ナルカノ如ク傳ヘラレ居ルヲ否定シ「アメリカン・リージョン」勞働聯盟「ネイティヴ・サンズ・オブ・ザ・ゴールデン・ウエスト」等ノ團體ハ本問題ニ付毫モ意見ヲ變更シタルコトナク之等團體ヨリ成ル加州聯

合移民委員會ハ七月三十一日ノ合衆國商議委員會ノ決議ニ對シ抗議シタリト述ヘ加州カ從來東洋人排斥ニ如何ニ熱心ナルカ加州立法部ノ行動ニ徴シ明カナルヘシトテ例ヲ舉ゲ次テ排斥ニ依リ對日貿易減退セリトノ論ヲ駁シ却テ同法實施後木材ヲ多量ニ輸出シタル例ヲ舉ゲ近來ノ輸出不振ハ日本ノ購買力ノ減退他國ノ競爭奢侈關稅等ノ原因ニ依ルモノナリト爲シ加州ハ在米東洋人人口ノ四分ノ三ヲ有スルヲ以テ他ノ何レノ州ヨリモ本問題ヲ考慮スルニ適當ナル地位ニ在リトテ他州カ十分ノ知識ナク又ハ誤解ニ依リ本問題ノ解決ヲ計ラムトスルノ不可ナルコトヲ說キ居レリ

次ニ右ニ對スル「トリビューン」紙社說ハ米國民一般ハ本件ニ關シ何等性急ナル判斷ヲ下セルモノニ非ラス又東洋移民ニ關スル西岸地方ノ特殊ノ經驗及利害ヲ否定スルモノニ非ス加州ハ過去ニ於テ屢々日本トノ國交ヲ危險ニ導キタルコトアルニモ拘ラス米國民一般ハ加州民ニ對シ東洋移民ノ與フル勞働上ノ競爭及社會的影響ヨリ保護スルコトニ付好意ヲ示シタリト述ヘ「クオータ」ヲ適用スルモ沿岸地方ニ東洋人ノ横溢ヲ見ル譯ニモ非ス排斥論ハ何等吾人ヲ首肯セシムルニ足ラス恐ラク沿岸地方ヲ除ク米國人一般ハ友好關係ヲ望ムモノナリトシ排斥ハ不快ナル差別ヲ設クルモノニシテ米國ノ重大利益ヲ阻害セサル限り之ヲ避ケサルヘカラスト論評セリ

七、堀内總領事ト「ヒューストン」トノ會見

九月三日在紐育堀内總領事ニ對シ其數日前東洋ヘノ旅行ヨリ歸米シタル「ハーバート・エス・ヒューストン」カ語レル所大要左ノ通

「予ハ從來排日移民法ノ修正ヲ主張シ來レル處今回日本滯在中各方面ヨリ示サレタル好意ニ感激シ將來尙一層同問題ニ付盡力シタキ考ヲ懷キタル次第ニシテ之カ爲歸途「シアトル」ニ於テ「ダイクマン」及「ミッドルトン」等ト意見ヲ交換シタル處彼等ハ恰モ桑港ノ「アレキサンダー」ヨリ「シャーレンバーグ」カ九月中旬開催ノ加州勞働大會ニハ太平洋沿岸海員組合長「フルセス」(Andrew Furness)カ移民法修正反對ノ決議ヲ提出スヘシトノ内報ヲ受ケ居タル折柄トテ大分心配シ居リ依テ更ニ「セント・ポール」ニ赴キ合衆國商議移民委員長「ブリッグス」ニ面會シ前記加州方面ノ情勢ヲ傳フルト同時ニ同氏ノ意嚮ヲ尋ネタル處先般ノ委員會決議後新聞紙等ニ現ハレタル各方面ノ輿論ヲ綜合スルニ修正賛成八分反對二分ノ形勢ナルカ故ニ合衆國商議トシテハ之カ促進ヲ計ルコト然ルヘシトノ意見ナリシニ付次テ「シカゴ」ニ至リ同會頭「サイラス・ストローン」トモ會見シ懇談ヲ遂ケタルカ同氏ハ既ニ右決議ヲナシタル以上之ニ對スル世間ノ反響ヲ防クコトハ到底不可能ナルニ付寧ロ此際加州方面ノ反對運動ニ頓着セス積極的ニ一步ヲ進ムル方可ナルヘク依テ來ル九月二十一日ノ全米商議理事會ニ於テ右移民委員會ノ報告

ヲ討議スヘシト内話シタリ予ノ觀測ニヨレハ移民法修正ノ成立ハ事實上結局次期大統領選舉後ニ非サレハ困難ナルヘキヤニ思考セラルルモ合衆國商議ノ如キ有力團體ノ決議ハ相當ノ影響アルヘシ

八、桑港「エキザミナー」紙社説

九月四日桑港「エキザミナー」紙ハ社説ニ於テ太平洋沿岸米國市民ハ從來同地方ノ歴史ヲ知ルヲ以テ合衆國商議委員會ノ提案ヲ歡迎セス同會議所理事會カ本案ヲ握リ潰サンコトヲ希望ス米國人間ニ失業者多數アル際ニ東洋移民ニ對スル制限ノ撤廢ヲ主張セントスルカ如キハ奇怪ニ堪ヘス云々ト論シタリ

九、若杉總領事ト「シャーレンバーグ」ノ會見

九月九日在桑港若杉總領事「シャーレンバーグ」ト會見シ移民法修正ニ關スル勞働側ノ態度等ニ付懇談ヲ遂ケタルカ其際「シャーレンバーグ」ハ最近開催セラレシ聯合委員會ノ會議錄竝ニ「マクラッチ」ヨリノ書面ヲ同總領事ニ内密ニ閱覽セシメタル處右ニヨレハ過去一年間ニ同委員會カ移民法修正反對運動ノ爲使用セル費用三千五百弗ノ内「マクラッチ」自身ノ負擔二千七百弗ニ上リ且過般合衆國商議ノ決議前後ニ互リ「マクラッチ」カ反對宣傳ノ爲配布セル書面四千五

百通ニ上リ其内ニハ太平洋沿岸商議側ノ見解ヲ謬見ナリトシテ詳細ニ反駁シ聯合移民委員會ハ依然トシテ移民法制定當時ノ方針ヲ變更スルノ意志ナリ日本ニ「クオータ」ヲ適用スルコトニ反對ナル旨ヲ言明シ居リ七月二十九日華府ニ於テ合衆國商議移民委員會開催セラレシトキ全國勞働聯盟會長「グリーン」ヨリ加州勞働聯盟ニ對シ其意嚮ヲ問合セ來リシ際「シャーレンバーグ」ヨリ東洋人ニ對スル「クオータ」適用ニヨル日本人及支那人入國數ハ極メテ少數ニシテ却テ「クオータ」ヲ適用スル方現實ニ移民入國制限ノ目的ヲ達シ得ヘシト「クオータ」適用ニ寧ロ賛成ナル意ヲ洩セル回答ヲ發シ居リ又八月二十六日桑港ニ於ケル聯合移民委員會會議ノ際ニモ「シャーレンバーグ」ハ同様日本人ニ對スル「クオータ」適用問題ニ關シ同委員會カ餘リニ其結果ヲ過大視シ居ルコト其ヨリモ寧ロ比律賓人ノ入國問題ヲ重大視センコトヲ勸告セルニ拘ラス同委員會ニ列席ノ「アメリカン・リージョン」及「ネイティブ・サン・オヴ・ザ・ゴールデン・ウエスト」農業者團體代表者ハ何レモ之ニ對シ反對意見ヲ表示シ居レリ

次ニ若杉總領事ヨリ「シャーレンバーグ」ニ對シ近ク「サンタ・バーバラ」ニ開催セラルヘキ加州勞働大會ニ於ケル海員組合長「フルセス」ノ態度緩和方ニ關シ盡力方ヲ依頼シタルニ「シャーレンバーグ」ハ「フルセス」カ多年ノ主張ニ係ル「キング」法案（米國港灣ニ入港ノ船舶ニ移民法

第十三條(c)項ノ歸化不能外國人竝ニ自國人以外ノ雇入ヲ禁セントスルモノト牴觸スヘキ移民法修正案ニハ絶對反對ヲ主張スヘキ立場ニ在ルヲ以テ之カ緩和ノ見込ナク懇談スルモ無益ナルヘシト述ヘタリ

尙「シャールンバーク」カ其腹藏ナキ意見トシテ若杉總領事ニ語レル所ニヨレハ元來商業會議所ハ政治上左程大ナル勢力ヲ有セサルノミナラス元來労働團體及農業團體ハ兩者ノ經濟關係上商議ニ對シ非常ナル反感ヲ有スルカ爲商議及教會側カ移民法修正ノ主動者タルコトニ對シ徹頭徹尾反對スヘキ行懸トナリ居リ之前記聯合移民委員會カ「マクラッチ」ノ主張ニ盲從シテ修正運動ニ反對スル所以ナリ過般ノ合衆國商議ノ決議ハ加州方面ニ對シテハ著シキ惡影響ヲ及ホセリ本問題ハ加州ニ於ケル一般民衆ノ對日感情ニシテ緩和セサル限り他州方面ニ於テ如何ニ運動スルモ議會ニ於ケル現實ノ運動トナラサルヘク沿岸各地ノ商議殊ニ合衆國商議カ加州民ニ壓迫ヲ加ヘントスルカ如キ印象ヲ與フルハ決シテ本件解決ニ資スル所以ニ非ス要ハ現在漸次改善ニ向ヒツツアル對日感情ヲ善導シ解決ノ時機ヲ待ツノ外ナカルヘシト語レリ

然レトモ其後「サンタ・バーバラ」ニ於ケル加州労働大會ニ於テ海員組合會長「フルセス」ノ日本人ニ「クオート」適用反對ノ決議案ハ「シャールンバーク」ノ斡旋ニヨリ遂ニ提案ヲ中止シ

外ニモ何等移民法修正ニ關スル議論ナク單ニ比律賓人ノ入國排斥ヲ決議シタルノミニテ閉會セリ

十、内山領事ト「スバングラ」トノ會見

賜暇歸朝ノ途上ニアリシ駐日米國大使「フォーブス」ヨリノ招電ニヨリ「シアトル」商議移民委員會ヲ代表シ九月末加奈陀「ヴィクトリア」ニ赴キタル「シャंक」及「スバングラ」(「シアトル」最大ノ州立銀行「デックスター・ホートン」支配人ニシテ元日本協會々長)カ歸來在「シアトル」内山領事ニ語レル處ニヨレハ兩人ハ大使ノ質問ニ對シ移民法修正問題ノ形勢ニ關シ當地方カ大體好轉シツツアル旨ヲ説明シ尙彼等ノ意見トシテ本問題ヲ今期議會ニ提出スルハ政治的竝經濟的の見地ヨリ見テ極メテ不得策ニシテ若シ一旦該案ニシテ否決セラルルニ於テハ再提出ノ望殆トナキニ至ルヘキニ付寧ロ次期大統領選舉後政局安定シテ人心平靜トナル(一九三三年春頃)迄提案ヲ差控ヘ専ラ民衆ノ啓發ニ努ムヘキヲ得策トスト述ヘタル由ナリ

十一、合衆國商業會議所理事會

越エテ一九三一年十月二日華府ニ於テ會合ノ合衆國商業會議所理事會ハ前顯七月三十一日(別項「」參照)ノ合衆國商議移民委員會ノ移民法修正ニ關スル決議ヲ可決シ議長ハ右決議竝ニ同移民

委員會ヨリ同理事會ニ提出セル報告書ヲ即日公表セリ

右報告書要旨ハ日本人其他東洋人ニ對スル差別待遇除去ノ方法トシテ移民法第十三條(c)項ノ削除ヲ提唱シ而シテ右削除ノ結果勞働移民入國ノ惧ナキコトハ現ニ歐洲竝ニ南米諸國駐在ノ米國領事ヲシテ實行セシメ居ル行政措置ニ依リ保障セラルヘク將又第十三條(c)項ノ撤廢ニ伴ヒ二三他ノ條項ニモ修正變更ノ必要ヲ生シ尙修正ノ結果ハ第四條ノ所謂非步合移民(non-quota immigrants)ノ無制限入國ノ途ヲ開クニ至ルヘキヤノ懸念存スルモ此點ハ仔細ニ吟味ノ結果杞憂ニ過キサレコト判明シ其入國者數極メテ僅少ニシテ何等危惧ノ必要ナキコト明ナルヲ指摘シ居レリ右報告書ハ從來米人側ニ於ケル移民法修正ニ關スル論議乃至提案中最モ具體的且徹底的ノ主張ナリト認メラルル處該報告書起草ヲ擔當セル合衆國商議役員ノ言ニヨレハ右起草ニ當リテハ廣ク各方面ノ意見ヲ徵シ特ニ法律事項ニ關シテハ移民法ニ精通スル法律家竝ニ勞働省官憲ノ助言ヲモ求メタル趣ニシテ直ニ數千部印刷シ各地商業會議所ニ配布シ以テ一九三二年五月合衆國商議年次大會開催ニ先チ豫メ各會員ニ本問題ニ關スル充分ナル智識ヲ與ヘ置カムトスル計畫ナリト云フ

一九三一年十月二日附合衆國商業會議所理事會宛同會議所移民委

員會報告書日本及其他極東諸國ニ對スル「クオータ」譯文

過去數年來日本及其他極東諸國ヨリノ移民ニ對スル制限モ宜シク歐洲諸國ニ對スル「クオータ」(quota)ト同一基礎ニヨル「クオータ」ヲ以テ行フヘシト爲ス明確ナル意見ヲ懷持スル米國市民ノ數漸次増加シ來レリ而シテ右見解ノ背後ニハ前顯諸國ヲ「クオータ」ニ關スル法律ノ適用範圍外ニ置クニ至リシ當時ノ環境ハ正當且充分ナル判斷ヲ行フニ不適當ナリシモノナリトスル感情存ス言フ迄モナク我米國カ一九二四年歐洲諸國ニ對シ適用シタル「クオータ」制限制度(註、一九二四年米國移民法中ノ「クオータ」ニ關スル制限規定)タルヤ日本支那及其他極東諸國ヨリ來ル移民ノ數ヲ抑制センカ爲ニハ最モ適切ナル無差別的移民制限法ヲ具體化セルモノナルコトハ事實ナリ而シテ今假リニ右ノ方法ヲ實施スルモ日本ハ一年凡ソ百八十五、支那ハ年約百五ノ「クオータ」ヲ得ルニ過キス

近時太平洋沿岸各地ニ於ケル實業家ノ發起ニテ「クオータ」ヲ日本ニモ擴張適用セントスル數個ノ提案合衆國商業會議所ニ提出セラルルニ至リ右ハ本移民委員會ニ附議セラレタリ

右提案ノ審査後本委員會ハ一九三一年七月三十一日華府ニ於ケル會合ニ於テ左記勸告ヲ理事會ニ提出シ以テ商業會議所員ノ審査竝ニ行動ヲ仰ク旨ヲ滿場一致決議セリ

從來合衆國商業會議所ハ常ニ極東諸國ニ對シ友好親善ノ態度ヲ維持シ來レル處右態度ノ正當ナ

ルコトハ我國實業家ノミナラス一般民衆ノ間ニ於テモ明カニ認メラルルニ至レルコト本委員會ノ確信スル所ナリ故ニ歐洲諸國民ノ米國入國ニ關シ過去七ケ年間適用セラレ來レル「クオータ」ニ關スル法律ヲ今ヤ日本其他同一地位ニアル極東諸國ニ對シテモ適用スヘキ時期到達セリト信ス右勸告ノ動機トナリシ目的ハ合衆國及極東諸國ノ相互の親善ノ回復竝ニ維持ヲ計ラントスル眞率ナル希望ニ基クモノトス右相互の親善ハ「クオータ」ニ關スル規定ヲ極東諸國國民ニ迄擴張セス所謂排斥條項ヲ我一九二四年ノ「クオータ」中ニ插入シタル我行爲ノ爲ニ損傷セラレ且將來モ依然トシテ然ルヘキコトハ本委員會ノ明カニ知悉スル所ニシテ右事實ヲ示ス有力ナル日本人ノ代表的意見ト見ルヘキモノニ多年合衆國ニ對スル其友誼ヲ以テ著名ナル澁澤子爵ノ最近發表セル「ステートメント」アリ即チ同子爵ハ一九二九年十月太平洋關係會議ニ於ケル演說中一九二四年移民法中ノ排斥條項ニ關シ左ノ如ク述ヘタリ

我國民ノ名譽心ニ對シ斯ノ如ク不必要ニモ加ヘラレタル傷ノ口ハ其後依然開キタル儘ニシテ右ハ本件カ正當ナル解決ヲ見ルニ至ル迄ハ同様ナルヘシ

本委員會ハ移民制限上ノ實際問題トシテ右傷口ハ治癒シ得ヘク且又兩國間永年ノ友誼ノ爲必ス治癒セサルヘカラサルコトヲ感スルモノナリ而シテ今ヤ我國ニテ最モ直接ニ利害關係深キ地方ヨリ

適宜提示セラレタル方針ニ從ヒ右法律ヲ變更セントスルノ議起レリ

茲ニ本委員會ハ其立場ヲ明カニスル爲極東諸國移民制限ニ關スル合衆國ノ規定ニ關スル諸種重要ナル事實ニ付稍詳細ニ互リ注意ヲ喚起セントス

一九二四年「クオータ」法

一九二四年ノ「クオータ」法ハ移民ノ數的制限ヲ以テ一般移民政策ト爲シ原國籍 (National origins) ナル方法ヲ以テ算出セラレタル合衆國人口ノ人種的内容ノ各構成分ヲ基礎トシ之ヲ歐洲竝ニ近東諸國ニ充當スルニ當リ其統計カ最大限タル十五萬ヲ超エサル「クオータ」ヲ以テセリ但シ右「クオータ」制度ニ對シ二ノ重要ナル例外アリ

(一) 凡テ西半球ヨリノ移民ヲ非步合移民 (Non-quota Immigrants) トシテ有利ナル位置即チ數的制限外ニ置ク

(二) 東洋移民ハ不利ナル地位ニ置キ之ヲ除外ス但シ布教師、學生及商人ハ此限ニアラス

東洋移民ノ本質

日本、支那、印度及其他ノ極東諸國ニ對シ歐洲諸國ノ其ト同一ノ基礎ニヨル「クオータ」ヲ許與

セスシテ一九二四年ノ移民法ニ合衆國市民タルヲ得サル外國人カ移民トシテ合衆國ニ入國スルヲ禁スル旨ノ條項(多少ノ例外アリ)挿入セラレタリ而シテ我歸化法ニ於テハ白人、阿弗利加人及其子孫ノミカ歸化ニヨリ合衆國市民タルコトヲ得ルカ故ニ該條項ハ結局日本、支那、印度及其他極東諸國ノ黃色又ハ黑色人種タル移民ヲ排斥スルモノナリ但シ比律賓人ハ合衆國ノ被後見者或ハ國民ニシテ外國人タラサルヲ以テ排斥セラレス且其移住ニ關シ移民法ノ適用ヲ受ケス

日本ノ特殊地位

一九二四年「クオータ」法中合衆國市民タルコトヲ得サル外國人ノ移民ヲ排斥スル前顯條項ハ凡テノ東洋人ニ適用サルル處事實上ニ於テハ支那人、印度人及其他東洋ノ勞働者カ夙ニ各種既存ノ法律(一八八二年支那人排斥法及一九一七年移民法中亞細亞人禁止區域ニ關スル規定)ニヨリ排斥セラレ居ル關係上右ハ宛モ日本人ノミヲ目的トセシモノナルカノ如キ結果ヲ招來セリ吾人ハ既ニ一九二四年以前ニ於テ所謂紳士協約ナル勞働移民制限ニ關スル特殊取極ヲ有シタルモ日本人排斥ニ關スル立法ヲ爲スニ至リシハ右ヲ以テ嚆矢ト爲ス前述ノ理由ノ爲又一ハ同法制定ノ際議會ニ於テ日本人移民ニ對スル同法ノ適用問題カ專ラ論議ノ的トナリシコトノ爲右「市民タルコトヲ得サルモノ」ナル條項ハ屢々日本人排斥法ト呼稱セラルルニ至レリ一九二四年移民法ハ前顯條項ノ

關スル限リ日本及其他極東諸國人民ノ全般ニ互リ一律ニ之カ移民トシテ入國ヲ許可セサル(僅少數ノ例外アリ)モノナレハ此點從前ニ比シ更ニ一層直接ニ差別的ナリト看做サレタリ蓋シ舊排斥法ハ曩ニハ單ニ之等諸國勞働者ニ對シテノミ適用セラレタルモノナレハナリ

右條項ハ明カニ關係諸國中日本ニ對シ最モ關係大ナルモノアレト右條項ノ廢止ハ支那、印度及其他東洋諸國ニ對シテモ一樣ニ適用セラルヘキモノナルニ付廢止ニ當リ日本人ノミニ對シ特殊の待遇ヲ與フルカ如キコトナシ

所謂排斥條項ノ廢止

「クオータ」制度ヲ日本、支那及其他極東諸國ニ對シ適用スヘキ端的ナル立法上ノ手段トシテハ所謂排斥條項タル一九二四年移民法第十三條(c)項(註)ヲ廢止シ且第十一條(d)項ノ(二)ノ廢止及同法第二十八條(c)項ノ規定ニ關スル字句ノ削除ヲ含ム僅少ナル補足的變更ヲ加フルコトニアルヘシ

右廢止ニヨリ次ノ結果ヲ生ス

- (一) 日本ハ歐洲諸國ト同一基礎ニヨリ約百八十五ノ「クオータ」ヲ得右ハ日本出生ノ白人竝ニ日本人種ニ充當セラルヘシ

(二) 支那ハ約百五ノ「クオータ」ヲ得然レトモ一八八二年ノ支那人排斥法存在スルカ爲ニ右排斥法竝ニ條約アルニモ拘ラス尙其入國ヲ許可セラルヘキ者即チ商人、布教師、教授竝ニ其妻ト未成年ノ子及學生以外ノ支那人ハ依然トシテ右「クオータ」ノ恩典ニ浴スルコトヲ得サルヘシ

(三) 英領印度、「アフガニスタン」、「ブータン」、「ネパール」、暹羅、「アラビヤ」及「ニュー・ギニア」ニ對シテハ最少限度ノ「クオータ」タル百カ與ヘラル筈ナルモ之等ノ諸國ハ亞細亞人禁止區域中ニ在ルヲ以テ或種ノ職業ニ従事スル者及實業家(一九一七年移民法ニヨリ除外例ヲ認メラレタル階級及職業)以外ノ者ハ前顯「クオータ」ニヨリ入國スルヲ得ス

(四) 蘭領東印度(瓜哇、「ボルネオ」及「スマトラ」)ハ各獨自ノ「クオータ」ヲ許與セラレスシテ和蘭ノ「クオータ」ニヨルコトヲ得ル筈ナル處之等ノ諸島モ亦禁止區域ニ屬スルヲ以テ査證ヲ得ルハ唯實業家及或種ノ職業ニ従事スル者ノミナリトス

日本及其他諸國勞働者ノ繼續的排斥ニ關シテハ合衆國領事力行政規則ニ基キ前顯勞働者ハ「公共ノ負擔タリ易シ」トノ理由ヲ以テ斯ノ如キ出願者ニ對スル査證ノ附與ヲ拒絕スルハ極メテ實行シ易キ手段ナルヲ以テ之亦確實ニ實現セラルヘシ

(註) 第十三條(c)項ノ主タル目的ハ東洋人ノ排斥ニアル處第二十八條(c)項中ニ規定スル「市民タルコトヲ得サルモノ」ナ

ル語ノ定義ニヨリ或種ノ少數ナル好マシカラサル階級ノ外國人(軍隊脫走者其他)ヲモ排斥スヘシ但シ之等ノ點ハ又他ノ獨立條項ニヨリテ取扱ハルヘシ

東洋ヨリノ歩合移民 (quota immigrants)

現ニ支那、日本及亞細亞人禁止區域中ニ在ル諸國ハ各々一年百ノ最少「クオータ」ヲ附與セラレ居ルニモ拘ハラス之等ノ「クオータ」ハ白色人種ニ限り適用セラレ市民タルコトヲ得サル黃色、褐色人種或ハ其他ノ人種ハ之ヲ利用スルコトヲ得ス

前述ノ如ク茲ニ日本及支那ニ對シ其他諸國ト同一基礎(原國籍ノ基礎)ニヨル「クオータ」ヲ許與スルモ入國シ得ヘキ歩合移民數ハ僅少ニシテ一九二四年移民法ニヨリ「クオータ」算定ノ任ニアル者ノ計算ニヨレハ日本ハ一年約百八十五、支那ハ百五ノ割合ナリト謂フ而シテ右ノ「クオータ」ハ之等ノ國々ノ國民タル黃色、褐色人種ノミナラス白色人種ニ對シテモ適用セラル現ニ支那ニ割當テラレタル最少「クオータ」ニ對シ支那ニ於テ出生シ且米國市民タリ得ヘキ白色人種ノ年出願數ハ現在ノ「クオータ」百ノ數倍ニ上リ又米國市民タリ得ヘキ日本出生者ニ許與セラルル最少「クオータ」ニ對スル年出願數ハ毎年ノ「クオータ」ノ四分ノ一ニ上レリ故ニ日本及支那ヨリノ各百八十五及百五ノ「クオータ」ノ一部分ハ右兩國ニテ出生セル白人ニヨリ充タサルヘシ

其他各關係獨立國（全部ニテ七國）ニ對シテハ各最少「クオータ」ヲ適用ス此ノ場合米國市民及適法居住ノ外國人ノ親族ニシテ優先的「クオータ」ニヨル者カ右諸國ニ許與セラレタル「クオータ」ノ大半ヲ占ムヘキニ付之等地方ヨリノ新規移民ノ數ハ恐ラク僅少ナルヘシ此場合ニ於テモ現在米國領事ノ勵行スル嚴重ナル行政的手段ニヨリ前顯諸國ヨリノ勞働者ハ入國ヲ許可セラレサルヘシ

東洋ヨリノ非歩合移民 (Non-quota Immigrants)

日本、支那及其他ノ極東諸國ニ對シ正規ノ「クオータ」ヲ適用セハ其特定市民ニ對シ數量的制限ヲ與フルコトナク非歩合移民トシテ合衆國ニ入國スル資格ヲ與フルニ至ルヘシ
右ニヨリ非歩合移民ノ多數カ合衆國ニ入國シ來ルヘキ可能性アリヤ否ヤニ關シテハ調査ノ結果何等スル憂ナキ所以明カトナレリ

一九二四年移民法第四條ニヨレハ非歩合移民（之ハ本問題ニ關聯シ甚タ興味深キモノナルカ）ハ左記ノ如キ者ト指定セラレタリ

- (a) 合衆國市民ノ妻及未成年者タル未婚ノ子
- (b) 布教師、教授及其妻及未成年者タル未婚ノ子

(c) 善意ノ學生

即チ現在同法カ非歩合移民ト認ムル後者ニ階級（布教師、教授及學生）以外ノ者ニシテ東洋ヨリ非歩合移民トシテ入國シ得ル唯一ノ階級ハ合衆國市民ノ外國人タル妻ナルヘシ此種外國人タル妻ニ關シテスラモ一九三〇年六月十三日裁可セラレタル法律ニヨリテ唯一ノ例外設ケラレ特ニ一九二四年五月二十六日以前ニ成立シタル婚姻ニヨル米國市民ノ外國人タル支那人妻ニ限り入國ヲ許可セラル現在ノ米國在住日系竝ニ支那系米國市民總數ヨリ推定スルニ非歩合移民トシテ入國ヲ請求スヘキ外國人タル妻ハ甚タ多カラサルヘシ

一九〇六年乃至一九二四年ヲ通シ移民局カ得タル各會計年度内ニ入國シタル米國市民ノ外國人タル妻ノ數ニ關スル統計ニヨレハ右十九年間ニ入國セル米國市民ノ支那人タル妻ノ年平均數ハ百五十名ナリ同様に入國ヲ許可セラレタル合衆國市民ノ日本人タル妻ノ數ハ明カナラス但シ移民局統計ニヨレハ一九二三年ヨリ一九三一年六月三十一日ニ終ル會計年度中ニ米國市民ノ外國人タル支那人妻ノ入國請願ニシテ一九三〇年六月十三日ニ裁可セラレタル新法ニヨリ國務省ノ旅券查證事務局ニ提出セラレタルモノ百十三件ナリ

米國在留日本人及支那人現在數

國勢局カ最近發表セル所ニヨレハ一九二〇年及一九三〇年合衆國ニ於ケル日本人支那人及印度人（外國人及米國出生者）ノ數次ノ如シ

國籍	年 號		十年間增加數
	一九二〇年	一九三〇年	
日 本 人	一一一、〇一〇	一三八、八三四	二七、八二四
支 那 人	六一、六三九	七四、九五四	一三、三二五
印 度 人	二、五〇七	三、一三〇	六二二

國勢局ハ一九三〇年ニ於ケル米國在留日本人及支那人總數中ニ包含セラレタル米國市民數ニ關シ未タ何等發表スル所ナシ但シ一九二〇年度人口調査ニ於テ登錄セラレタル日系米國市民數ハ三萬二百四十四名、支那系米國市民數ハ二萬三百六十六名ナリ右ノ中日系ノモノ一萬五千八百九十三名、支那系ノモノ一萬四千六百六十名ハ男ナリ

一九二一年ヨリ一九三〇年ニ至ル十年間ニ於ケル凡ユル階級（移民及非移民）ノ日本人及支那人ノ出入ニ關スル移民局ノ統計ニ依レハ總計出國者數ハ入國者數ニ對シ日本人一萬九千八百七十六名、支那人五千七百九十八名ノ超過ヲ示セリ

右ノ如ク移出入動態ノ記錄カ數ノ減少ヲ示スニモ拘ラス國勢調査ノ統計カ一九二〇年ヨリ一九三〇年ニ至ル十年間ニ之等人口ノ増加ヲ示セルハ死亡ニ對スル出生ノ超過不正入國竝ニ一九三〇年度國勢調査ニ於ケル前回ヨリ更ニ完全ニシテ能率ナル計算法ニ基ク増加ノ結果ナリト云ハサルヘカラス

屬領諸島ヨリノ移住制限

極東諸國ニ「クオート」ヲ適用スルモ日本人及支那人ヲシテ布哇比律賓又ハ其他我屬領諸島ヨリ合衆國大陸ニ入國シ易カラシムルコト萬ナカルヘシ現在我屬領諸島ヨリ本土ヘノ入國ハ現行法規竝ニ諸條約ニヨリ取締リ居ルヲ以テ之等諸國ニ對シ「クオート」ヲ許與スルモ決シテ我屬領諸島ヨリノ入國取締ニ影響ヲ及ホスコトナカルヘシ

移民ノ數及質ノ確保

前述ノ如ク現在合衆國ハ「クオート」法ニヨリ移民ノ數的制限ヲ實行シ居レリ即チ米國ハ移民ニ對スル門戶開放主義ヲ全然放棄セリ加之我移民法ハ何レノ國ヨリ來ルモ唯好マシキ者ノミカ入國ヲ許可セラルヘキコトヲ保證シ以テ入國シ得ル移民ノ素質ヲ適當ニ確保シ居レリ

故ニ日本及其他極東諸國ニ對シ歐洲諸國ト同一基礎ニヨル「クオート」ヲ適用スルモ合衆國ハ多

數東洋移民ノ流入ニ對シ門戸ヲ開放シ又ハ其障礙ヲ除去スルモノニ非ス要之「クオータ」ニヨリ各國竝ニ之等全部ノ國ヨリノ入國者數ハ左迄重要視スルニ値セス

現在移民法ノ實施ニ關係セル多數官吏ノ見ル所ニヨレハ「クオータ」制度ニヨル方現在實施中ノ法律ニヨルヨリハ反ツテ有效ナル取締ヲ行ヒ得ヘシト謂フ右官吏中ニハ差別的條項ヲ撤廢シ前顯諸國ニ「クオータ」ヲ適用セハ入國者ハ反ツテ増加セス寧ロ減少スヘシト信スル者サヘアリスノ如キ措置ヲ採ルトキハ東洋諸國ノ政府ヲシテ詐欺的竝ニ不正入國者ヲ防止シ且米國行旅券ノ下附ヲ受クヘキ移民ノ好マシキ素質ヲ確保スルニ當リ一層協調セシムルノ結果ヲ齎スヘシ

勞働長官ノ東洋諸國ニ對スル「クオータ」適用勸告

勞働長官「デヴィス」ハ一九三〇年會計年度議會ニ對スル年報中ニ於テ東洋諸國ニ對スル現行ノ差別待遇ヲ廢止シ「クオータ」制度ヲ適用スヘシトノ明快ナル勸告ヲ爲セリ

右勸告ノ内容ハ左ノ通

予ハ今不幸ニモ我現行移民法中ノ障礙ヲ爲ス差別的條項ニ關シ詳細ニ互リ議論ヲ加フルノ意圖ヲ有セス唯斯ノ如キ現存ノ差別待遇ハ夙ニ議會カ他ノ國籍ノ移民ニ對シ同様ナル立法ヲ爲ス以前東洋諸國ヨリノ移民ニ對シ制限法ヲ制定シタルノ事實ヨリ端ヲ發セリ

現在主トシテ歐洲ニ適用セラレ居ル「クオータ」制限制度ハ恐ラク或程度ノ修正ヲ加フルコトニヨリ本法制定以前既ニ存在セル東洋移民制限ニ關スル各種法規ニヨルヨリモ更ニ一層適切ナル又或場合ニ於テハ更ニ一層完全ナル制限ヲナシ得ヘキナリ

予ハ議會カ「クオータ」制度改正ノ實現可能性ニ付考慮シ以テ支那及其他東洋移民ニ限り適用セララル諸法律又ハ其等ノ一部ニ善ク代リ得ヘキモノタラシメンコトヲ切ニ勸告ス

右法律ノ實施ニ直接關係アル官吏ハ予ニ對シ該法律ノ大半ハ價值ナク其或モノハ行政的見地ヨリ見ルモ障礙タルヘキモノナリト謂ヘリ右方針ニヨリ法案ノ審査ヲ爲ス際ニハ同法ニ嚴重ナル制限ニ關スル一般原則ヲ確保スヘキ條項ヲ保留スル爲ニ考慮ヲ拂フコトヲ要ス

移民政策ト歸化政策トノ傳統的分離

極東諸國ニ對スル「クオータ」問題ヲ考慮スルニ當リ我移民政策ト歸化政策ヲ混同スルハ妥當ナラス我國ニ於テハ歷史上兩者ハ當初ヨリ常ニ各自別個ニ取扱ハレ來レリ我國ニ於テハ未タ移民ニ對シ殆ト制限ヲ加ヘサリシ全初期ヲ通シ市民權ハ自由ナル白人ニ對シテノミ之ヲ許與スルヲ以テ其政策ト爲セリ南北戰爭以後新ニ選舉權ヲ附與セラレタル黑人市民ニ對スル友誼上我國ハ更ニ阿弗利加人及阿弗利加人ノ子孫ニ對シテモ亦歸化權ヲ與ヘタリ右ハ其儘現在ニ至ル迄我歸化政策ト

シテ存続シ居ル處之ヲ移民制限ニ關スル他ノ問題ニ關聯シテ此際論議スヘキ理由ナシ
此點ニ關シ我歸化法ハ決シテ總テノ移民カ市民タルヘキヲ豫想スルモノニ非サルコトニ留意セサルヘカラス即チ例之五ヶ年間居住ノ事實及移民ノ市民タルヘキ希望竝ニ市民タリ得ヘキ資格ニ關スル他ノ證據ヲ必要トスルカ如シ我國ハ歸化ニヨル市民權獲得ニ關スル資格ヲ絶エス嚴格ナルモノト爲シツツアリ歐洲又ハ其他地域ヨリ渡來スル移民ニシテ市民權獲得ノ資格ナキモノハ其希望ニ從ヒ移民トシテ我國ニ滞在シ又ハ其本國ニ歸リ又ハ其他ノ國ニ赴クコトヲ得ヘシ
尙又我國ハ法律ニヨリ白色竝ニ黒色人種ニ屬スル者ニノミ歸化權ヲ認ムルモ一方憲法ノ規定(第十四修正)ニヨリ米國ニ出生シタル者ハ如何ナル人種ニ屬スル者ト雖モ總テ市民タルヘキコトニ留意スルヲ要ス

貿易ト相互親善

貿易ノ増加或ハ減少ニ關シ正確ニ其或部分ヲ以テ之カ直ニ漠然タル親善テフ要素ニ因ルモノナルコトヲ決定スルコト或ハ甚タ困難ナルヘキモ經驗ニ富ム人士ニシテ兩者間ニ緊切ナル相互關係ノ存在スルコトニ關シ疑念ヲ挿ム者ハ恐ラクナカルヘシ嘗テ日本ヲ訪問シタル經驗ヲ有シ或ハ現在對日貿易ニ從事スル多數ノ米國實業家ハ日本ニ對スル我移民政策竝ニ移民法ニ於ケル差別待遇ハ

合衆國及米國民ノ利益ニ對スル日本側ノ好意ノ助長ニ障礙ヲ與ヘ惹テハ對日貿易ヲ阻害シタル旨ヲ力説シ居レリ過去七年間(一九二四年乃至一九三〇年)ニ於ケル我對日貿易(輸出入)年平均額ハ六一九、三四三、三八六弗ニシテ對支貿易額ハ二四八、二六八、八五七弗ナリ

斯ノ如キ重要關係ニ對スル注意ヲ喚起スルニ當リ本委員會ハ茲ニ再ヒ我移民法中ノ差別的條項ノ撤廢ヲ勸告スルハ以テ雷ニ貿易上何等カノ爲ニスル所アラントスルノ理由ニ基クモノニ非ス進ンテ相互親善ノ恢復竝ニ保持ニ關スルヨリ高キ見地ニ基クモノナルコトヲ強調セントスルモノナリ

紛爭竝ニ誤解ノ範圍ノ縮少ハ國家間ノ親善關係ノ醸成竝ニ其維持ノ上ヨリ見テ世界的ノ進歩ヲ示スニ至レリ而シテ斯ノ如キ方面ノ達成ハ各國カ相互ニ敵意及不信ノ感情ヲ醸成スルコトナクシテ其真正ナル國家的利益ヲ保護スヘキ方法ヲ發見セントスル能力漸次發達シ來レルト共ニ顯著トナレリスノ如キハ各國カ共ニ負フヘキ責任ニシテ我々ハ何等適法ナル國家的利益ヲ犧牲トスルコトナクシテ而モ對日關係ノ刺戟ノ原因ヲ除去シ以テ益々兩國相互ノ親善ナル通商上竝ニ外交の交驛ヲ促進セシメ得ヘキ機會ヲ有スルモノナリ(附屬書第百六十六號)

十二、紐育「イーヴニング・ポスト」紙ノ社説

十月二日前記商議理事會カ該報告ヲ採用スルニ及ヒ紐育「イーヴニング・ポスト」紙ハ十月六日ノ社説ニ於テ左ノ通論評セリ

合衆國商業會議所カ諸般ノ緊要問題ノ輻輳セル際ニ拘ラス移民委員會ヲシテ吾人カ一九二四年ノ排斥法制定ニ依リ日本ニ與ヘタル非行ヲ想起サシメタルハ稱讚ニ値ス日本移民ニ「クオート」制ヲ附與スヘシトノ同會議所ノ勸告ハ七年前ニ當國ノ執リタル無思慮ノ行動是正ノ上ニ更ニ一步ヲ進メタルモノト云フヲ得ヘシ暗ニ曩ニ我人種の優越ヲ意味スル理由ニ依リ吾人カ日本移民ヲ排斥スルノ事實ハ之ヲ意識スルモノ甚タ少キモ日本ニ於テハ嘗テ之ヲ忘レタルコトナク右ハ恰モ現行法通過以來常ニ痛ミノ去ラサル古傷ニモ譬フヘシサレハ日米兩國人ノ會合アル度ニ何人カカ這般ノ事情ニ言及セサルコトナキハ謂レナキ侮辱ニヨリ日本國民カ如何ニ深刻ニ其自尊心ヲ傷ケラレタルヤヲ明カニ示スモノナリ假令日本移民ニ「クオート」制ヲ附與スルモ毎年入國ハ容易ニ一八五名ニ制限シ得ルノ事實ニ鑑ミルモ現行排斥法ヲ正當トスヘキ理由ナキナリ故ニ嘗テ一九二四年本法通過ヲ強要セル諸地方ニ於テスラ今日ハ既ニ之ヲ支持スルモノ極メテ尠シ現下ハ將ニ之カ是正ヲ勸告スヘキ絶好ノ機會ナリ米國議會ハ同國商業會議所ノ態度ニ依テ表明セラレタル米國實業家ノ意見ニ留意スヘキナリ

第八、滿洲事件ト移民法修正問題

以上ノ如ク一九三一年十月迄ノ米國ハ大體識者ハ日本ニ「クオート」ヲ與フヘシトナス意味ノ移民法修正運動ニハ好意ヲ寄セ來レルノ感アリシ處其後滿洲事件ノ勃發ハ局面ニ一變調ヲ來シ移民法修正反對ヲ唱フルモノモアルト同時ニ尙修正ヲ主張スルモノアリシカ上海事件以來ハ頓ニ對日感情惡化ノ狀ヲ示セリ其間ニアリテ加州東洋關係評議會ノミ敢然移民法修正ヲ強調シ來レルハ頗ル注目ニ値ス

一、事件直後ノ反日的狀勢

(一) 一九三一年九月十八日滿洲事件勃發スルヤ逸早く極東通及講演家トシテ知ラルル「アブトン・クローズ」ハ十月初在哈爾濱大橋總領事ニ面會シ同總領事ニ對シ今回ノ滿洲事件ニ關スル英米人側ノ排日的意見ヲ申述ヘ今回ノ事件ニヨリ移民法修正問題モ一頓挫ヲ來スヘク自分モ今日迄日本ノ平和主義ヲ信シ移民法修正ニモ奔走シ來レルモ今後ハ再ヒ日本ノ軍閥ヲ攻撃セサルヲ得サルニ至ルヘシト云ヘリ尤モ同人ハ元來「プロ・チャイニーズ」ノ宣傳家ト目セラレ奉天滯在中モ主トシテ「ミラード」「パウエル」等ノ排日家ト往來シツツアリシ由ナリ

(二) 滿洲事件勃發以來米國ノ「スクリップス・ハワード」系新聞紙(紐育「ウオールド・テレグラ

ム」紙ヲ始メ二十餘ノ同問題ニ關スル論調ハ概シテ我方ニ有利ナリシモ同社長「ロイ・ハワード」十月中旬在米出淵大使ヲ往訪シ滿洲問題軍縮問題日米關係等ニ付長時間ニ互リ意見ヲ交換シ引續キ外報主任「シムス」モ「ハワード」ノ命ヲ受ケ十月十五日出淵大使ヲ往訪シ重ネテ敷衍陳述スル所アリ右兩人ノ意見中移民法問題ニ關スル部分左ノ通

元來「スクリップス・ハワード」系新聞紙ハ國際協調及世界平和ヲ念トシ極東ニ於テモ夙ニ日米ノ提携ヲ以テ最上ノ政策ナリト信シ兩國親善關係増進上ヨリ見テ先ツ移民法ヲ修正シ排日條項ヲ撤廢スルコトノ必要ヲ認メテ一九二九年以來努力スル所アリタルモ最近滿洲ニ於ケル日本ノ態度甚タ意ニ滿タサルモノアリ依ツテ今後ハ最早右努力ヲ繼續スルコト不可能ナリ且最近「マクラッチー」一派ノ排日論者ハ滿洲事件ヲ口實トシテ盛ニ運動ヲ試ミツツアレハ移民法修正ノ運動ノ如キハ當分成功ノ見込ナカルヘシ

尙十月十六日華府夕刊「スター」紙ノ報スル所ニヨレハ「マクラッチー」ハ華府各方面ニ對シ日本ハ滿洲事件ノ遣口ヲ以テ人種平等ヲ口實トシ移民法修正ヲ強要スルニ至ルヘシトノ警告ヲ發シタル模様ナリ

(三) 十一月三日「ヒューストン」市ノ「ポスト・デスバッチ」紙ハ滿洲事件ニ對スル日本ノ態度ハ

日本人排斥條項除去ニ關シ米國內ノ「センチメント」ヲ惡化セシメツツアルハ確實ナリト論セリ
(四) 八月六日竝ニ十月十二日發行ノ桑港「クロニクル」紙(後掲出)ニ於テ再度日本ノ爲ニ移民法ヲ改正スヘシトノ論說ヲ執筆シタル同紙主筆「チェスター・ローウエル」ハ從來移民法修正運動其他ニ付親日的態度ヲ持シ居リタル處在滿中同人ノ我軍錦州爆撃ニ關スル電報檢閱以來桑港歸着後モ著シク我方ニ不利ナル講演及評論ヲ續ケ居リ右ニ關シ「シャーレンバーグ」カ十二月三十日若杉總領事ニ對シ内話スル處ニヨレハ「ローウエル」ハ同船ニテ歸米セル「シャーレンバーグ」ニ對シ自分カ上海ニテ蔣介石邸ニ招待セラレタル際支那政府ノ顧問トシテ「バブリシティ」擔任方ヲ懇請セラレ俸給ハ希望ニ任ス旨ノ申出ニ接シ歸米ノ上決定ノ筈ナリシモ蔣ノ下野ノ爲行惱ミタルカ南京政府今後ノ事情ニヨリテハ實現スルヤモ計ラレスト語レル趣ナリ
因ニ「ローウエル」ハ滿洲視察ノ際支那政府筋ノ補助ヲ受ケ居ル「チャイナ・ウィークリー・レビュー」主筆「パウエル」ト行ヲ共ニセリ

二、修正賛成ノ主張

然レトモ右ノ如キ例外ヲ除ケハ事件勃發ノ當初米國ノ輿論ハ假令一部ニ於テ日本ニ對シ反對ノ立場ヲ取レルモノト雖モ直ニ同事件ヲ以テ移民法修正運動ト關聯セシメ之ヲ論議シタルモノハ見當

ラサリキ寧口右事件トハ全然別個ノ問題トシテ移民法問題ヲ取扱フモノ多ク移民問題ニ關シテハ桑港「クロニクル」紙(十月十二日)羅府「タイムス」紙(十月十二日)「シアトル・タイムス」紙(十月二十二日)「ニュー・オルリンス」ノ「モーニング・トリビューン」紙(十月二十三日)及費府「レコード」紙(十月二十五日)ノ如キハ依然トシテ移民法修正ニ賛成ナル旨ノ論說ヲ掲ケタリ即チ

(一) 十月十二日桑港「クロニクル」紙ハ太平洋問題關係會議ニ出席ノ爲上海ニ滞在中ナリシ「チェスター・ローウエル」ノ移民法改正ニ關スル左記要旨ノ評論ヲ掲載セリ(其後同人ノ意見變更セラレタルハ前述ノ如シ)

日本移民ニ步合入國ヲ許容スルコトハ日本ニトリテハ實質問題ニ非スシテ感情問題ナリ日本ニ於テハ米國ノ日本移民ニ對スル方針カ實質的ニ改正セラルルコトヲ期待シ居ル者ナク日本人カ米國ニ赴カサルヘキコトニ就テハ充分納得シ居リ唯其實行方法ヲ問題トシ且重大視スルナリ移民法問題ハ日本ニ於ケル米國最大ノ友人二名ノ心情ニ痛ク影響ヲ與ヘタリ其一名ハ半生ノ努力ト多額ノ金ヲ費シテ日本ノ對米感情良化ニ盡シタル澁澤子爵ナリ子爵ハ米國總領事「タウンセンド・ハリス」ノ人格ニ感シ爾來米國民ヲ信賴スルコト篤ク六十年ノ久シキニ互リ

實業界ノ王者トシテ將又市民ノ指導者トシテ兩國ノ理解親善ニ努メ來レリ今ヤ九十三歳ノ老齡ニ達セル子爵ハ米國ノ與ヘタル失望カ移民法修正ニヨリ拭ヒ去ラルル迄生キ延ヒンコトヲ冀ヒ居レリ

他ノ一人ハ「武士道」ノ著書ヲ以テ有名ナル新渡戸博士ニシテ同博士ハ澁澤子爵同様一生ノ大半ヲ兩國關係ノ良化ニ捧ケタル人ナリ同博士ハ現在ノ侮辱的法律アル限り米國ノ土ヲ踏マサルコトヲ誓約シ居レリ

之等ノコトハ個人的ノ些事ニ過キスト雖モ移民問題全體モ亦感情問題ヲ除ケハ些事ナリ一年ニ日本人百八十五名カ入米スルトセサルトハ兩國ニトリ何等實質的變化ヲ齎スモノニ非ス然モ米國ノ希望ニヨリテハ日本ハ右百八十五名ニ旅券ヲ發給セサル様スヘシ本問題ハ全然感情問題ニシテ前記二名ノ感情ハ又大多數日本人ノ感情ヲ示スモノナリ他人ノ好意ハ「ビジネス」ニ於ケルト同様國家ニトリテモ一資産ナリ依テ須ク今期議會ニ於テハ何等犧牲ヲ要セス單ニ友誼的措置ノミニテ足ル前記法律ノ修正ヲ行フヘシ

(二) 十月十二日羅府「タイムス」紙ハ近西ヘノ「クオータ」(Quota for the Near West)ト題シ合衆國商議ノ移民法修正運動ニ對シ賛成ノ意ヲ表シ東洋諸國ニモ「クオータ」ヲ適用スヘキヲ

主張シ且大要左ノ通論シタリ

吾人ハ「クオータ」制ノ下ニ於テモ苦力移民ノ流入ヲ恐ルルノ要ナク現在ノ米國領事ノ取締方法ハ之ニ對スル充分ナル保證ヲ爲スモノト謂フヘク又移民局ノ諸規則モ好マシカラサル移民ノ流入ヲ阻止スルニ充分ナリ商人又ハ専門的職業ヲ有スル日支人ノ入國ハ假令「クオータ」以上ノ數ヲ許ストスルモ何等經濟的危險ヲ來スモノニ非ス

下院移民委員長「アルバート・ジョンソン」ハ來議會ニ於テ近西諸國ヘノ「クオータ」適用ノ案ニシテ上程セラルルニ於テハ該案ハ通過スヘシト信シ居ルモ本案ハ須ク且速ニ通過スヘキモノナリ

(三) 十月二十二日「シアトル・タイムス」紙ハ「友人ニ對シ「クオータ」ヲ與ヘヨ」ト題シ大要左ノ通論シタリ

合衆國商業會議所員ヲ初メ多數思慮アル米國人ハ日本及支那ニ對シ「クオータ」ヲ與フルコトニ贊成ナリ本來排斥法ハ太平洋沿岸諸州ノ主張ニ基キ制定セラレタルモノニシテ當時右諸州ハ東洋人ノ流入ハ白人ノ數ヲ忽チ凌駕シ實質的ニ遂ニ右地方カ亞細亞ノ屬領タルニ至ルヘシトノ途方モナキ豫言ヲ爲シタリ蓋シ白人ノ移住者尠キ時ニ於テ何等カノ方法ニ依リ東洋移

民ニ制限ヲ加フルノ必要アリシハ尤モナリシナランモ斯ル制限ヲ絕對的排斥ノ程度迄至ラシメタルノ要アルヤ否ヤヲ疑フモノナリ兎モ角數年來白人制御ノ下ニ沿岸諸州ノ地歩モ確然ト定リ排斥ヲ爲スノ時期ハ過キ去レリ現ニ他ノ國民ニ對シ適用セラレ居ル「クオータ」制度ハ宜シク日本人及支那人ニモ適用セラルヘキナリ斯テ毎年僅ニ百八十五名ノ日本人ト百五名ノ支那人ノ入國ヲ許可スルコトニヨリ過去ノ恐怖ト偏見ハ解消セラルヘシ

過去七年間ニ於テ日米間ノ貿易ハ平均年額六億一千九百三十二萬九千弗ニ上リ又米支貿易ノ平均年額ハ支那ノ相次ク内亂ニモ拘ラス二億四千八百二十六萬九千弗ニ上リ居レリ我移民政策ノ變更ニヨリ右兩國トノ友誼ヲ増進シ大イニ貿易ヲ促進スルコトトナルヘシ

(四) 十月二十三日「シアトル」商業會議所午餐會ノ席上歸任ノ途ニアル「フォーズ」大使ハ日本知識階級ノ以テ不快トナス移民法ノ如キハ修正ノ必要アリ日本人ヲ「クオータ」ノ基礎ニ置クモ年僅ニ二百名足ラスニシテ其數ニ於テ何等米國側ニ支障ナカルヘシト説キ更ニ滿洲事件ニ關シ日本ハ條約上滿鐵附屬地ニ兵ヲ駐屯セシムルノ權利アリ又在滿二十萬ノ日本人ト百萬ノ朝鮮人ノ保護ヲ必要トス但シ滿洲事件ニ對シ米國ノ執ルヘキ態度ニ關シテハ言及スルコトヲ得サル旨述ヘタリ

(五) 十月二十三日「ニュー・オルリンズ」ノ「モーニング・トリビューン」紙ハ社説ニ於テ左ノ通論シタリ

華州選出下院議員「アルバート・ジョンソン」ハ移民「クオータ」ノ「リスト」ニ支那及日本ヲ載セントスル法案ヲ豫示(Predict)シ居レリ華州ハ強ク東洋人ヲ嫌フヲ以テ其華州ヨリノ選出議員カ平氣ニテ本問題ヲ考慮シ且加州選出議員等ニヨリ甚シキ反對モナシト豫測セララルニ至リシカスノ如キ輿論ノ變化セル理由ハ加州土地法ハ米國出生者ノ土地所有ヲ保護シ居ルモ日本人ニ對シテハ土地所有ヲ禁シ居レハ此上日本移民ニ對シ反對ノ必要ナシト云フニ在ルカ如シ斯テ久シキ排斥法ノ爲憤怒セル日本人ノ感情ヲ和クルコトヲ得ハ右提案ノ通過ハ國家ノ利益タルヘシ東洋人問題ニ對スル太平洋沿岸居住民ノ關係ハ他地方ノ人士ニハ土地問題以外ニ付テハ充分ニ會得セラレ居ラスト雖モ加州ハ外國人勞働ナカリセハ作物スラ取入ルコトヲ得サリシナルヘク加州カ最モ日本移民ニ反對シタルモ右ノ結果ハ單ニ東洋人ヲ墨國人ニ換ヘタルニ過キサリシナリ

(六) 十月二十五日費府「レコード」紙ハ社説欄ニ於テ滿洲時局ニ關聯シ移民法排日條項ニ言及シ最近合衆國商議ハ之カ修正ヲ支持シ居ル處スノ如キ不必要ニ他國ヲ侮辱スルカ如キ法律ノ存在ス

ルコトニヨリ米國カ眞ニ平和愛好ノ精神ヨリ行動スル場合ニモ誤解ト反感トヲ招ク結果トナルニ付米國カ世界平和維持ニ貢獻セント欲セハ斯ル排日條項ハ削除スルヲ要シ議會ハ來ル會期ニ於テ本問題ヲ考慮スルヲ可トスト論セリ

三、加州東洋關係評議會ノ活動

(一) 移民法修正運動ニ關シ一九三一年十月二日華府ニ於テ會合ノ合衆國商業會議所理事會カ七月三十一日ノ合衆國商議移民委員會ノ移民法修正ニ關スル決議ヲ可決シ議長ハ右決議竝ニ同移民委員會ヨリ同理事會ニ提出セル報告書ヲ即日公表セルコトハ既述セル處ナルカ最近修正運動ニ關シ特ニ顯著ナルハ加州東洋關係評議會 (California Council of Oriental Relations) ノ活動ナリトス右加州東洋關係評議會ハ加州各地ニ於ケル學者及實業家中親日的著名人物ニ依リ組織セラレ「マクラッチ」等ノ組織スル聯合移民委員會ニ對抗シテ移民法修正問題ヲ研究運動シ居ル處同會幹事長「サミュエル・ジェーム」(Samuel J. Hume) ハ國際親善ノ見地ヨリ「ロータリ」俱樂部ニ於テ一九三二年一月左記要旨ノ演說ヲ爲シタリ

「國際間ノ相互諒解親善關係増進ノ爲ニハ東洋諸國就中日本ニ對シ差別的待遇ヲ與ヘ居ル一九二四年ノ移民法ノ修正即チ日本及支那竝ニ其他ノ東洋諸國ニ對シ過去七年間他ノ世界六十五ヶ國

ニ適用セラルル歩合制度ヲ同様適用センカ爲該法ノ差別條項ヲ撤廢スル必要アリ日本及支那並ニ其他ノ東洋諸國ニ歩合ヲ許スコトハ外國人土地法及歸化權問題ニ對シ何等ノ影響ヲ及ボスモノニ非ス且又歩合ノ許容ハ日本人竝ニ東洋諸國人ノ生活程度及其出產率又ハ既ニ入國セル日本人竝ニ東洋諸國人ノ同化性ニ關スル意見トモ何等關係アルモノニ非ス歩合入國許容問題力之等ノ事柄ト屢々混同シテ論セラルルハ頗ル遺憾ナリ若シ移民法ヲ修正シ差別條項ヲ撤廢スルトスルモ日本人ハ僅ニ毎年一八五名、支那人ハ一〇五名ノ移民入國歩合ヲ與ヘラルルニ過キス右歩合人數ノ決定ハ英國ノ六五、七二二人、獨逸ノ二五、九五七人、愛蘭ノ一七、八五三人、伊太利ノ五、八〇二人等ト同一ノ基礎ヨリ割出サレタルモノニシテ之ニ關シテハ何等論議ノ要ナシ歩合許容ノ結果東洋人ノ殺到ヲ來スモノノ如ク宣傳スル者アルモ其數ハ前述ノ如ク極メテ微々タルモノニシテ特ニ偏見ヲ以テ見サル限り之ニテ既ニ充分排斥ノ實ヲ擧ケ得ルコト明カナリ一九二四年ノ移民法修正ヲ主張スル所以ハ該法ニハ原案ニナカリシ一句挿入セラレ日本、支那及其他ノ東洋民族ヲ他ノ民族ヨリ劣等視シ之ヲ同等ニ取扱ヒ得サルモノト思ハシムルカ如キ不當ナル差別的取扱ヲ規定シ居ル爲ナリ之カ爲日本ニ於テハ多數有力者、支那ニ於テハ日本程ニハ非サルモ相當ノ地位ニアル人々ノ間ニ不尠自尊心ト國民的名譽心ヲ傷ケラレタリトノ感情ヲ生セシ

メタリ假ニ彼我位置ヲ轉倒シテ考フレハ斯ル感情ノ起ルハ無理ナラサルコト諒解シ得ル次第ナリ凡ソ國際間ノ好意ハ相互ニ斯クノ如キ國民的名譽、自尊心ヲ尊重シ正義ト「フェア・プレー」ノ精神ヲ以テ相接スルニ非サレハ之ヲ保チ難キモノニシテ吾人カ不必要ニ與ヘタル國民的誇ニ對スル損傷ハ今尙癒エ居ラス眞ノ友情好誼ハ此ノ不正ヲ除去シタル後ニ非サレハ全ウシ難キコト既ニ各方面ヨリ得タル證據ニ依リ歷然タリ

凡ソ友誼ハ金錢ニテ評價シ難ク其重要性ハ個人間ノ業務ニ於ケルト國家間ノ關係ニ於ケルト變リナシ條件同等ニシテ價格品質モ相當ナレハ商談ハ友人ノ許ニ向フハ自然ナリ世界ノ市場漸次縮少シ且競争激化スルニ當リ太平洋沿岸殊ニ加州ノ先覺者カ全力ヲ以テ極東諸國トノ友好信賴關係ヲ強固ニシ應テ未來ノ廣大ニシテ安定セル亞細亞ノ市場ヲ加州ノ產物ノ爲ニ開キ置クコトノ最重要事ナルハ今更贅言ノ要ナシ

東洋移民ヲ嚴ニ取締ル必要ニ就キテハ各人ノ意見既ニ一致シ居リ只其手段方法カ問題ナル處歩合割當ニ依リ（日本人一八五、支那人一〇五）其目的ヲ達成シ得ルコトヲ思ハハ現在ノ措置ハ頗ル不當ナリト云フノ外ナシ

日本ハ過去七十五年間國內組織ヲ近代化スル爲米國ニ範ヲ採リ右短期間内ニ米國同様一流ノ資

本主義國家トナリ經濟體系、貿易關係、司法及教育行政ノ一部ヲ我ニ模シ米國流ノ社會組織ヲ維持發展セシメントシツアル處斯克ノ如キハ東洋ニ於テ唯日本一國アルノミナリ今日ノ米國ノ社會觀念及民主的政治體系ニ對スル脅威ハ蘇露聯邦ナルカ一九二四年移民法通過當時ニ於テハ蘇露聯邦ノ成功ハ頗ル疑問視セラレ居リタルモ最早今日ニ於テハ其ノ崩壞ヲ眞面目ニ考フルモノナキ有様ニテ將來如何ナル程度ノ勢力ヲ揮フニ至ルカハ豫斷ヲ許ササルモノアリ共產主義カ歐洲及亞細亞ニ於テ如何程浸潤セルカハ唯想像ニ委スルノ外ナキモ露國ノ赤手カ支那ニ伸ビ居ルコトハ事實ニシテ露國ノ米國ニ對スル脅威ハ太平洋ノ介在ニ依リテ遮斷セラルヘシトスルハ餘リニ樂觀的ナリ日本ハ極東ニ於ケル露國ノ浸潤ニ對スル唯一ノ防壁ナルカ支那政府ハ頗ル不安定ニテ飢餓ニ迫レル支那人ハ何時露國ト結合スルヤモ圖ラレス之ヲ以テ見レハ我等ノ社會組織及觀念カ極東ニ安定擴大スルコトハ誠ニ望マシキ處ニシテ之カ爲ニハ我等共通ノ目的保全ノ爲其協力ヲ信賴シ得ル極東國家トノ友好親善關係ノ増進ニ努力セサルヘカラス友好關係ハ單ナル口頭禪ニテハ不可能ニシテ明確ナル實行行爲ニ依ツテノミ達成スルコトヲ得平和的建設ニ關スル我カ勢力カ極東ニ於テ重視サレンコトヲ願ハハ須ク吾人ハ賢明ニシテ公正且同情アル彼等ノ友人タラサルヘカラス

尙右「ヒューム」ノ演說ニ對シ聯合移民委員會ニ於テハ一月二十五日附ヲ以テ加州各地「ロータリ」俱樂部幹事宛該演說中「東洋人ニ步合入國ヲ許スモ其數微々タルモノニシテ一年一、〇〇〇人位ニ過キササルヘシ」ト述ヘタル點ニ對スル反對竝ニ移民問題ハ歸化權問題カ其根底ヲ爲スモノナリトスル聯合移民委員會側ノ主張ヲ通知シ來リタル由ニテ之ニ對シ「ヒューム」ハ左記要旨ノ駁撃ヲ加ヘ居レリ

「東洋諸國ニ最低百名ノ步合入國ヲ許スモ「アフガニスタン」、「ベルチスタン」、「ブータン」、「ネパール」、印度、「ボルネオ」等ヨリハ一九一七年前之等諸國カ移民禁止地域トシテ指定セラレサル時ニ於テスラ僅少ノ移民アリタルニ過キス今後步合ヲ許ストモ之等ノ國ニ居住スル白人種カ大部分優先權ヲ採ルヘク且米國領事ニ於テ公共ノ負擔トナルヘキ者ニ入國查證ヲ與ヘサルヘキヲ以テ直ニ步合割當ノ結果移民殺到スヘシトナスハ杞憂ニ過キス歸化權問題カ亞細亞排斥ノ根本ナリトスル說ハ極メテ獨斷的假說ナリ歸化權問題カ根本ナリトセハ米國出生ノ亞細亞人ニ市民權ヲ與ヘ居ルハ不可解ナリ歸化不能ノ亞細亞人ノ存在カ米國社會ノ脅威ニシテ百名内外スラ入國セシムルヲ得ストセハ理論上歐洲移民ニテ歸化セサル者モ亦同様脅威タラサルヘカラス一九二〇年加州ニハ歸化セサル白人種二八四、三八九人、一九三〇年ニハ二五、〇四七人ア

リ日本人一八五人、支那人一〇五人ヲ毎年入國セシムルモ加州總人口五、六七七、二五一人中既ニ歸化セサル二五六、〇四七人ノ白人種ヲ有スル點ヨリ見レハ影響殆ト無シト云フモ差支ナシ又加州ノ東洋人種カ白人種ノ數ニ比シ年々減少シ行クヲ見レハ歩合ヲ許スモ脅威トナラサルヘキコト明ナリ」

(二) 一九三二年四月十五日羅府「ロータリ」俱樂部ハ同地「バルチモア・ホテル」ニ於テ國際關係午餐會ヲ開催シ各國領事ヲ招待シ同地有力者約三百名出席シタルカ其席上「サミュエル・ヒューム」ハ「米國ト東洋トノ關係」ト題シ又六月十四日「ホノルル」ニ於テ開催ノ第四回太平洋「ロータリ」大會ニ於テ『「ロータリ」六大目的ノ實際的應用』ト題シ大要前記桑港「ロータリ」俱樂部ニ於ケルト同趣旨ノ演說ヲ行ヘリ

而シテ之等ノ演說ノ趣旨ハ同評議會ヨリ出版セラレタル The Square Deal in the Pacific (同シク「ヒューム」ノ桑港「コンモンウェルス」俱樂部ニ於ケル演說ヲ印刷シタルモノ)ト題スル小冊子(附屬書第百六十七號)ニ詳細記述シアリ尙同評議會ハ加州内各地ニ於ケル左記ノ如キ各方面ノ有力ナル人士ヲ網羅シ且滿洲事件竝ニ上海事件ノ結果米國ノ對日感情從來ニ比シ面白カラス從來親日の米人ト目セラレ居タル者ニアリテモ一般ノ空氣カ右ノ如キモノナル以上此際積極的ニ乗出シ

來ル氣配ナク修正運動モ停頓狀態ナルカ如キ時ニ當リ進シテ移民法修正ヲ主張シ孤軍奮闘シツアリ其幹事長「ヒューム」ノ諸演說ニ徴スルモ單ナル御座ナリノ親日論ヨリ一步ヲ進メ自由主義的信念ト云フカ如キ稍思想的の深味サヘ加ハレルヲ觀取シ得ツテ將來ノ修正運動ニ關シテハ此加州東洋關係評議會ノ活動ハ其最モ注目ヲ要スヘキモノト云フヲ得ヘシ

加州各地ニ於ケル評議會員左ノ通

Bakersfield	...	...	...	Hugh S. Jewett.
Berkeley	...	...	...	Robert G. Sproul, President, University of California.
Corning	...	...	...	Warren N. Woodson.
Fresno	...	...	...	S. Parker Frisselle.
Lincoln	...	...	...	Major M. J. Dillman.
Los Angeles	...	...	...	Harry Chandler.
Los Angeles	...	...	...	Clinton E. Miller, Real Estate Business.
Los Angeles	...	...	...	R. B. von Klein Smid.
Marysville	...	...	...	Halsey H. Dunning.
Mills College	...	...	...	Aurelia H. Reinhardt, President, Mills College, Oakland.

Montrey...	...	...	...	...	Allen Griffin.
Morgan ...	...	...	...	...	Brother Z. Leo.
Oakland ...	...	...	...	...	Rabbi Rudolph I. Coffee, President, Jewish Commission for Personal Service in State Institution.
Orange ...	...	...	...	...	Justus F. Craemer, Manager, Orange Daily News.
Palo Alto ...	...	...	...	...	Almon E. Roth.
Pomona ...	...	...	...	...	Allen P. Nichols, Lawyer, Nichols Cooper and Hickson.
Redding ...	...	...	...	...	Dudley V. Saeltzer.
Riverside...	...	...	...	...	Frank A. Miller, Owner of Mission Inn.
Sacramento ...	...	...	...	...	Fred W. Kiesel, President, The California National Bank and Trust and Savings Bank.
San Diego ...	...	...	...	...	Frank J. Belcher.
San Diego ...	...	...	...	...	George W. Marston.
San Francisco...	...	...	...	...	Frederick J. Koster, President, California Barrel Co.
San Francisco...	...	...	...	...	Wallace M. Alexander, President, Alexander and Boldwin, Ltd.
San Jose ...	...	...	...	...	Edward N. Richmond.
Santa Paula ...	...	...	...	...	C. C. Teague.

Santa Rosa ...	...	...	...	...	Ernest L. Finley.
Vina ...	...	...	...	...	Colonel Fred T. Robson.
Visalia ...	...	...	...	...	James M. Burke, Lawyer, Farnsworth Burke and Maddox.
Watsonville ...	...	...	...	...	Robert H. Hudson.
Whittier ...	...	...	...	...	R. B. Kennedy.
Samuel J. Hume, Executive Secretary.					

四、加州排日派ノ態度

- (一) 加州聯合移民委員會ノ「マクラッチャー」ハ極力前記「サミュエル・ヒューム」ノ論旨ニ反對センカ爲曩ニ同人カ一九三一年十二月委員會ノ爲ニ作成セル反對論資料(附屬書第百六十八號)ヲ「コンモンウェルス」俱樂部會員ニ配布シ東洋關係評議會ニ屬スル者ハ布哇砂糖耕地ノ所有者若ハ加州ノ大農園主ノ如キ低賃銀勞働者ノ流入ヲ歡迎スル資本家竝ニ外國ニ對スル移民制限緩和ニ依リ該外國トノ貿易ヲ伸暢シ得ヘシト信スル商業團體關係者ニテ聯合移民委員會ニ屬スル幾多ノ愛國の團體ノ如キトハ趣ヲ異ニシ少數ノ階級の利益ノ爲ニ策動スルモノナリト宣傳セリ
- (二) 一九三二年三月三日桑港「コンモンウェルス」俱樂部移民問題研究部會ニ於テ加州勞働聯盟幹事「シャーレンバード」ハ移民法問題ニ關シ個人的資格ニ於テ講演ヲ爲シタルカ同人ハ先ツ

一八五四年來ノ亞細亞移民入國抑止運動ノ沿革ヲ概説シ支那人排斥ニ關スル一八七九年ノ加州及「ネバダ」州ニ於ケル人民投票、一八八二年ノ支那人排斥法制定、移民禁止地域ノ設定及紳士協約ノ協定ニ到レル經緯ヲ述ヘ紳士協約等カ移民問題ノ解決ニ效果ナク労働聯盟ニ於テハ協約ノ效果ヲ疑ヒ國內法ニ依リ日本人排斥ヲ求メ殊ニ加州労働聯盟ハ屢々其總會ニ於テ協約ノ廢止ト日本人排斥ヲ叫ビ遂ニ一九二二年米國労働聯盟大會ハ歸化不能ヲ根據トシテ日本移民反對ノ決議ヲ爲シ一九二四年ノ移民法案研究討議中ニモ日本及亞細亞諸國ニ步合ヲ許スニ反對セルカ該法所定ノ步合ハ一八九〇年ノ國勢調査ニ基キ支那ノミニテ毎年二千人ノ移民入國ヲ許ササルヘカラサリシナリ然ルニ現在ノ「ナショナル・オリヂン」ノ步合ヲ適用セハ亞細亞人種ノ總計ニテ約一千内日本人ハ一八五人、支那人ハ百五人トナルニ過キス排斥ハ主義上ノ問題ニ非ス寧ロ民族自己保全ノ見地ヨリ必要ニ迫ラレ起リタルモノナレハ一九二四年ノ移民法中ニ外國力之ニ依ツテ惡感情ヲ抱カサル様修辭上考慮ヲ拂ヒ置クヘカリシナリ日支兩國共ニ米國ニ移民ヲ送ル權利ヲ主張スルモノニ非ス又只劣等民族視セララルル遺憾トスル感情ヲ抱ケルノミナリ一七九〇年ノ歸化法ハ白人ニノミ歸化ヲ許シタルモ一八七〇年ニハ之ヲ修正シ阿弗利加黑人種ニモ許シタルヲ以テ日本人ノ如キ文化的民族カ無智ノ黑人ニスラ許容セララルル特權ヲ拒否セララル理

由ニ就テハ彼等ノ到底諒解シ難キ所ニシテ日本移民問題ハ加奈陀ニ於テモ紛議アリシカ「ブリテイッシュ・コロンビア」州ノ日本人労働團體ノ運動ニ依リ最近ノ加奈陀労働組合會議 (Canadian Trades & Labour Congress) ハ從來ノ「亞細亞人全部排斥」ノ綱領ヲ「加奈陀ノ國民生活ニ同化シ得サル人種排斥」(The exclusion of all races that can not be properly assimilated into the national life of Canada) ニ改メ同時ニ日本人ニ對シ歸化ニ就テハ他ノ歸化シ得ル外國人同様ノ歸化權ヲ與フヘシトノ決議ヲ通過シタリ目下加州ノ「センチメント」ハ頗ル排日ニテ現行法改正ニハ最モ時機惡シキモ藉スニ時日ト忍耐ヲ以テセハ必スヤ此癥ハ除カレ兩民族間ノ諒解ニ導クコトヲ得ヘシト述ヘタリ

五、出淵大使ト「グルー」大使トノ會談

六月六日東京ニ着任セル駐日米國大使「グルー」ハ華府ヲ出發前出淵大使ヲ往訪シ長時間ニ互リ懇談ヲ交ヘタルカ其際同大使ハ東京ノ極メテ重大ナル任地ナルニ鑑ミ今回ノ任命ヲ頗ル名譽ト心得居ルニ付政府ノ信任ニシテ續ク限り何日迄モ腰ヲ落付ケ日米親善ニ貢獻シ度ク殊ニ自ラ國務次官當時排日移民法ノ成立シタルコトヲ深く遺憾トナシ居ルニ付自分ノ東京在任中ニ何トカシテ右修正ヲ見ル様努力スル覺悟ナルコトヲ打明ケテ語レル趣ナリ

六、最近ノ情勢

一九三二年三月初在桑港若杉總領事ノ報告スル所ニヨレハ上海事件長引クニ連シ支那市街村落ノ燒失破壞、婦女子小兒等ノ被害狀況ニ關スル各新聞ノ誇張セル報道及挿繪ニ刺戟セラレ又在米國民黨ノ宣傳部ノ活躍ト相俟チ沿岸方面米人ノ對日惡感情愈々惡化ノ傾向ヲ生シ滿洲事件ニ對シテハ相當ノ理解ヲ有シタル人士迄モ著シク反感ヲ有スルニ至リ「ジャバン・ソサエティ」ノ會員中ニモ數名退會ヲ申出テタルモノモアリ他方從來對日「ボイコット」ヲ主張シ來レル「スクリップス・ハワード」系新聞ハ日米間ノ危機ヲ慮リ遽ニ其主張ヲ緩和スルニ至リ又「ハースト」系桑港「エキザミナー」紙ハ對日「ボイコット」カ日米戰爭ヲ誘發スヘキコトヲ警告シ之ニ反對ヲ唱ヘ居ル有様ナルモ支那ニ同情ヲ有スル米人中個人的ニ回章又ハ「チェーン・レター」等ノ方法ニヨリ又支那學生ハ印刷物ニヨリ日貨排斥ヲ勸誘スルモノアリ而シテ桑港日本人經營美術雜貨店ニ於テ米國婦人カ日本人商店ト氣付キテ買物ヲ中止スルモノ往々アリ又卸賣商中ニハ日本商品ノ仕入ヲ手控ヘ注文ヲ取消シ又ハ取引ヲ澁リタル等ノ實例モアリ且米國有數ノ市俄古ノ「メール・オーダー」商ノ如キハ日本商品ノ仕入ヲ一時中止シタルモ最近ニ至リ漸ク桑港某卸商トノ間ニ例年通二十萬弗ノ雜貨商談成立シタリ百貨店ニ於テモ幾分不安ヲ感シタル向モアリシカ大體異狀ナク日本產食

料品中支那人向特殊品ハ全然取引ナキモ米人向蟹鮑罐詰類ハ異狀ナシ又郵船ノ支那行旅客及貨物ハ殆ト絶無トナリタルモ日本行米人客ハ左シタル影響ナク米國銀行ノ邦商ニ對スル信用モ一般ノ景氣ノ爲幾分引締メ居ルモ特ニ事件ノ影響ト認メラルモノナカリシ趣ナリ

其後十二月初同總領事ハ最近一箇月半ニ互ル其管内巡視ニ於ケル觀察及沿岸各地ヲ講演旅行シタル「ガイ」博士ノ報告ヲ綜合シ大要左ノ通報告セリ

沿岸各地ノ米人ハ上海事件當時ニ於テハ誇大ノ新聞報道ニ依リ著シキ對日反感漲リ居タルモ其後滿洲問題ニ對スル民衆ノ興味漸次薄ラキ國際聯盟ノ討議ニ關スル新聞紙上ノ報道及論議モ昨今減少セル爲一般ニ平靜ニシテ本問題ノ爲特ニ日米間ノ關係ヲ惡化スルカ如キ模様無ク數年前移民法通過前後ニ比シ日米人ノ折合モ著シク緩和親睦ノ傾向ヲ示シ他面滿洲問題ハ却テ極東ニ於ケル強國トシテノ本邦ノ地位ニ對スル認識ヲ増進セルモノアルヤニ見受ケラレ殊ニ各地經濟ノ不況ハ一九三二年後半期以來一層甚シク農工商業トモ孰レモ悲鳴ヲ上ケ居ル際トテ聯盟ノ討論等ヲ顧ルノ迫無キ有様ニテ大統領更迭ヲ前ニ控ヘ又不戰條約ノ發頭人タル米國自身カ日本ニ對スル軍事的又ハ經濟的威力ヲ行使スル運動ニ參加スルカ如キ事ハ目下ノ處到底國民ノ支持ヲ得難ク過般「ソートレイキ」ニ於ケル大統領ノ演說中其旨ヲ明言セルモ畢竟此不況時代ノ民意

ヲ反映セルモノト觀ルヲ得ヘシ唯學者、評論家等ノ識者ニアリテハ殆ト全部「リットン」報告書ヲ金科玉條ノ如ク心得ヘ日本カ世界ノ輿論ニ反抗シテ獨自ノ主張ヲ固執シ軍備ヲ整ヘ居ルニ對シ相當深刻ナル反感ヲ有スルモノノ如ク表面上平靜ヲ裝ヒ居ルモ内心日本及日本人ノ國際的信
用ニ對シ多大ノ猜疑ヲ有シ居ルカ如ク觀測セラル尙又一般實業家方面ニハ日本ノ滿洲經營カ財政經濟上結局失敗ニ終ル可シト觀測スル者多ク支那ニ於ケル日貨排斥ト相俟ツテ我財政經濟ノ將來ニ對シ尠カラサル危惧ノ念ヲ抱キ居ルカ如シ此間ニ乘シ滿洲問題ニ對シ之迄比較的冷靜ノ態度ヲ持シ居タル「ハースト」系新聞雜誌カ近來内外人ノ日米戰爭說ニ關スル論文又ハ會見談ヲ巧ニ潤色誇張シテ日米離反ノ宣傳ニ努メ居レリ現ニ昨今同系通信員「ハンター」ノ撫順其他ニ於ケル日本軍ノ支那村民虐殺燒撃等ノ虛報ノ如キモ其一例ニ外ナラサルハ注意ニ値ス

日本外交文書
對米移民問題經過概要
(大正期第二十四冊)
不許複製

Documents on
Japanese Foreign Policy

Summary of the Course of Negotiations between Japan and the United States concerning the Problem of Japanese Immigration in the United States

昭和四十七年三月十日 印刷
昭和四十七年三月二十日 發行

外務省 編纂
外務省 發行

印刷所 東京都中央区湊二ノ二ノ四
株式會社 第一印刷所